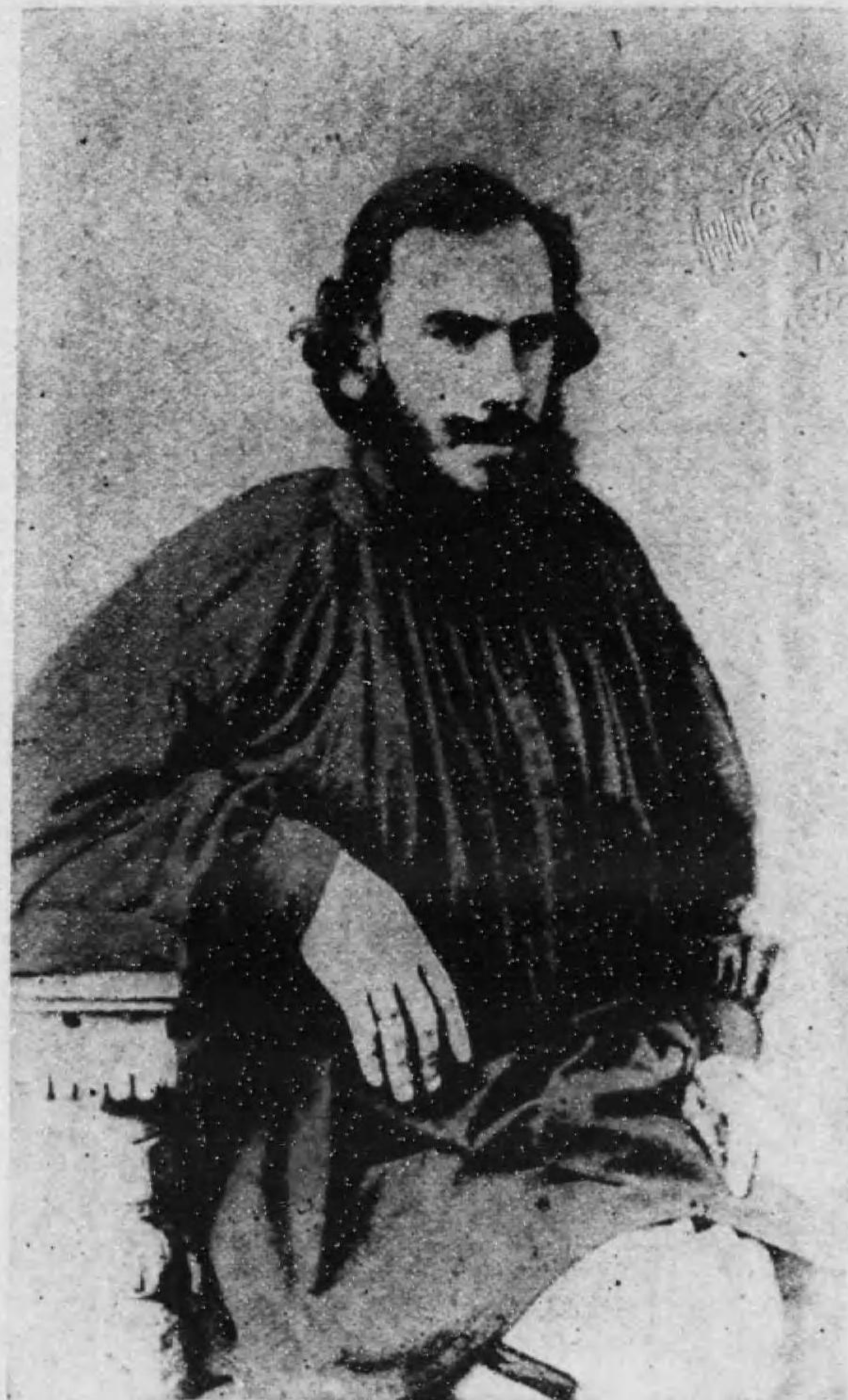


始



517  
543





「戦争と平和」執筆時代のトルストイ

(一八六八年)

簡



愛

編人夫イアソ

( 卷 上 )



欠

517-543

## 序

靈界において愛する人と結合すべくこの世を去るその前に、わたしはレフ・ニコラエキツチを愛し彼の記憶を尊重しつゝある人々に、わたしにとつてかくも貴重な——彼の書簡と自からその中に現はれてゐるわたし達二人の、四十八年間の、殆ど最後まで幸福であつた結婚生活の消息とを分ちたく思つた。手紙は現存の人々に關する、まだ公表の時期にいたらない三通を除いて、全部發表する。わたし達は別れてゐたことが稀であつたし、それも必要上やむをえない場合に限られてゐたので、手紙は比較的多くないのである。

或は多くの者が、これ等の手紙をまだ發表すべき時期でないと言ふかも知れぬ。けれども斯様な問題にあつて時期が何を意味するであらう？ レフ・ニコラエキツチを知つてゐた人々がこれ等の手紙を読んだ方が、五十年後に彼と全く關係のなくなつた人々が讀むよりも、一層よくはないであらうか？

# 欠

それからまだ問題は、これ等の手紙がわたしの死後に保存され得るかどうかといふことである。現にエヌ・エヌ・ストラホフとレフ・ニコラエキツチとの間の往復文書が出版されてゐるが、その脚註には絶えず、ストラホフが自分の手紙で指摘してゐるレフ・ニコラエキツチの手紙が遂に発見されないといふ注意が載せられてゐる。何人の手にそれ等の手紙があるか——不明である。レフ・ニコラエキツチと伯爵アレクサンドラ・アンドレーエヴナ・トルスタヤの書簡にも同様に不快な曲折があつた。

これ等の手紙をわたしに發表させたにはまだその外に、わたしの、恐らくは甚だ近いであらう死の後に、例によつて誤てる判断をなし、わたしの態度を夫に、そしてその反對に彼のをわたしに歸するであらうといふこともある。さうであるならば寧ろ推測や噂や思ひ付などによらずに、生きた眞實のドキュメントに照らして判断されんことを望まざるを得ない。

そして人々が、恐らくはうら若き時からその弱々しい肩に——天才にして偉人の妻たるべき——高い使命を擔ふべく無力であつた者に寛大ならんことを。

ソフイヤ・トルスタヤ

### 譯者附記

一、レフ・ニコラエキツチ・トルストイのソフイヤ夫人への「愛の書簡」は、一八六二年の求婚書から始めて一九一〇年の家出後の手紙に至るまで、全部で六百七十三通ある。

一、本書はこの六百七十三通の中夫人の序に見えてゐる理由によつて發表を保留された三通を除き、夫人自からの手になれる脚註を施されたもの、第二版よりの全譯である。上下二巻に分冊したのはあまりに尨大なものとなるのを恐れたが爲めである。

一、上巻に納めた手紙の数は二百七十九通、年代にして一八六二年から一八八五年まで、即ち藝術上では不朽の名作「戦争と平和」

「アンナ・カレニナ」を完成し、思想上では「懺悔」、「我が宗教」を書き上げて新しい世界観を打立てると共に、何となく家庭から離れて行かうとする氣持の見え始めた時代までである。

一、夫としてまた父として限りなく濃やかな注意深い愛を持つてその妻と子供達とを愛し、その爲めに苦しみ、同時に萬人の教師として全人類を熱愛し、その爲めに悩んだトルストイの結婚より家出までの複雑な氣持の動きを如實に跡づけ得るものとして、この「愛の書簡」は常にトルストイの崇拜者、トルストイの研究者達ばかりでなく、廣く一般の家庭に推奨し得る良書であると信じてゐる。

一、トルストイ略年譜及人名索引は下卷に添へることにした。

一九二五年十月

## 目次

一八六二年……(二通)……………	一
一八六三年……(二通)……………	五
一八六四年……(二十七通)……………	六
一八六五年……(十通)……………	六
一八六六年……(十一通)……………	七
一八六七年……(八通)……………	九
一八六九年……(三通)……………	一六
一八七〇年……(一通)……………	三三
一八七一年……(十四通)……………	三三



一八七二年……(二通)	一五七
一八七六年……(六通)	一六六
一八七七年……(六通)	一七三
一八七八年……(十三通)	一八〇
一八七九年……(七通)	二〇〇
一八八〇年……(四通)	二〇六
一八八一年……(十三通)	二二二
一八八二年……(三十六通)	二四〇
一八八三年……(二十五通)	二五五
一八八四年……(三十一通)	二六四
一八八五年……(五十三通)	四〇六

### 寫眞目次

トルストイ家の紋章……	扉
「戦争と平和」執筆時代のトルストイ(一八七六年)……	口繪
結婚當時のトルストイ及夫人(一八六二年)……	全
朝の散歩(一九〇八年夏)……	全
トルストイ誕生の家とモスクワの家……	三八—三九
トルストイの子供たちの幼時……	八六—八七

愛の書簡 (上卷)

二

ヤースナヤ・ポリヤーナに於けるトルストイ邸	一三四—一三五
述作中のトルストイ	二四六—二四七
家族と共にあるトルストイ	二九四—二九五
村人からいろ／＼の頼みを聞くトルストイとヤースナヤの村	三四三—三四三
トルストイ家の召使たち	三七四—三七五
單純生活に入れる頃のトルストイと夫人(一九八四年)	四〇六—四〇七
トルストイの友人たち	四三八—四三九

一八六二年

ソフィヤ・アンドレーエヴナ・メルスに送れるレフ・ニコラエキツチ・トルストイ伯の求婚書、一  
八六二年九月十六—十七日。



ソフィヤ・アンドレーエヴナ！ わたしは堪らない気がします。三週間もわたしは毎日のやうに言  
ひ續けておます。今日は何もかも言つてしまはう、そしてあの悲しみと、悔いと、恐れと、幸福とを  
胸に抱いてかへりて来よう。それにも拘らず毎晩、今もさうなのですが、わたしは過去を振りかへり  
て思ふのです、何故わたしは言はなかつただらう、でもどんな風に何を言ふこ  
とが出来たであらう。わたしはこの手紙を持つてまゐります、それは萬一ふたゝびわたしが貴女に一  
切を申上げることが出来ないか、又はさうする勇氣のない時に、おわたしするためです。わたしに對  
する貴女の家族の人々の間違つた意見は、わたしが貴女の姉妹のリーザに戀してゐるといふことに  
あるかと思はれます。それはまつたく誤解です。貴女の小説がわたしの頭にあつたのは、あれを讀ん

で、わたしが、ドブリツキイ<sup>1)</sup>である自分には、幸福を夢想することが相應はしくないといふこと……  
貴女の秀れた、詩的な愛の要求……貴女が誰を愛されやうとも、わたしは美まなかつたし、又美むこ  
とも出来ないと思つたからです。わたしには、貴女に對して、ちやうど子供達に對するやうな喜びを  
感ずることが、出来るやうに思はれたのでした。イキーツイ<sup>2)</sup>でわたしは書きました、貴女の存在はあ  
まりにもいきくとわたしに老年と、幸福の不可能とを思はせませす、そして特に貴女が……。

しかしその時も、その後わたしは自分を偽つてゐたのです。まだあの時でしたらわたしは凡てを  
擲つて、再びさびしい勞作と仕事のみで専念する自分の修道院にかへつて行くことが出来たでせう。  
今わたしは何も出来ません、唯だ貴女のところで、家族の人々の前で、つまらぬことを言つたのを感じ  
てゐます。友達として、正直な人としての貴女との純な、貴重な交際が失はれたのを感じてゐます。  
しかもわたしはこゝから立去ることが出来ません、とどまる勇氣もありません。貴女は、正直な人で  
す、どうぞ胸に手を當て、急がずに、願ひですから急がずに、言つてください、わたしはどうす  
ればいゝでせう？ 笑ふ氣持になれれば、仕事も出来ます。わたしが苦んでゐるやうに、今現に幸福  
に苦んでゐるやうに、苦むことが出来るなどと若しも一箇月まへに言はれたら、わたしは死ぬほど  
れしかつたでせう。正直に、仰しやつてください、貴女はわたしの妻にならうと思つてゐられるでせ  
うか？ 苟も衷心からでしたら、勇敢に貴女は然りと仰しやつて下さい。さうでなくて若し貴女の心  
に疑ひの影でもあるのでしたら、寧ろ否と言つてください。どうぞよく御自分にお訊きください。わ

たしは否を聞くのが恐ろしいでせう、けれどもわたしはそれを豫想してゐます、自分の裡に堪へる力  
を見出すでせう。しかし若し永久にわたしが、わたし自身が愛してゐると同じ程度に愛される夫でな  
いとしたり、それは恐ろしいこととせう……。

二

結婚後に渡された、レフ・ニコラエキツチ・トルストイ伯のソフィヤ・アンドレーエヅナ・メルス  
への他の求婚書。  
一八六二年九月

ソフィヤ・アンドレーエヅナ！ わたしは貴女が忍びえないやうな、また忍んではならないやうな  
虚偽へ貴女をひき入れて終つたのを、羞づかしく心苦しく思ひます。これがお約束の説明です、貴女  
の家族の人々の誤解は、わたしが貴女の姉妹<sup>せいでい</sup>のリーザに戀してゐる、若しくは好意を持つてゐると  
いふことにあります。それは全然間違つてゐます。貴女の小説がわたしの頭にあるのは、あの中でわ  
たしが自分こそはドブリツキイであるのを發見して、そしてはつきり、不幸にもわたしが、わたし即

- 1) レフ・ニコラエキツチを髣髴させたエス・アー・ベルスの小説中の人物。小説は一八六〇年に書かれた。
- 2) イキーツイ、ツーラ縣オドエフスキイ郡にある私の祖父イスレニエフの領地。
- 3) チョークで、カルタ臺の上に、頭文字で。

ちリヤラン伯父が、年寄の、稀に見る面白くもなんともない男で、従つて神から與へられることをコツ／＼と丹念に眞面目にやつて、爲し遂げられた仕事の自覺以外、他の幸福を求めてはならないのを、忘れてゐるといふことが解つたからです。

第二の説明——イキーツイで書いた言葉は、次の通りです、若しくはそれに似たもので意味は同じです。わたしはよく、貴女を見てゐると憂鬱になります、それは貴女の若さがあまりにも生々としたので、わたしの老年と幸福の不可能を思はせるからです。この手紙は矢張り小説を讀まないうちに書いたので、あの小説は青春の詩的な、秀れた要求の結果からも、自分自身をドブリツキイに見出した結果からも全くわたしを冷靜に返しました、それ故わたしは憐憫とかべーに對する過去の美望とか或は貴女が愛されるであらう人に對する未來の美望とかいふものが全くない許りでなく、愛する子供達を眺めるやうに、靜かに喜ばしくあの小説と貴女とを思ひ浮べることが出来るのです。

唯一つ悲しいことは、わたしが貴女のところで、家族の人々の前で、大變つまらないことを言つて、自分でもどうしていゝか解らないほどとり亂してしまつたことです、それ故にわたしは、わたしが久しく経験しなかつた——貴女をお訪ねするといふ最大の喜びを自分から奪はなければならなくなつたといふことです。

しかし、貴女は正直な人です、貴女を欺くことは出来ません<sup>1)</sup>。

わたしはドブリツキイです、併し妻が必要だから、それで結婚するといふことだけは、わたしには

出来ません。わたしは結婚から恐ろしいものを、不可能なものを要求してゐます。わたしはわたしが愛し得ると同じやうに、愛されることを要求してゐます。しかしそれは不可能です。

エル・トルストイ

わたしはお訪ねすることをやめます、ターネチカと一緒にわたしを護つてください。

一八六三年

三

ツーラとピロゴナとから、狩獵、養蜂場よりの手紙及び短信、この地方にレフ・ニコラエキツチは時には數日間を、蜜蜂に夢中になつて、過ごしたことがあつた。——以下二通——

狩獵より。

わたし達は四時半に、間違なく、歸宅するでせう。ムラフカに<sup>2)</sup>沿つて、ゴリヤチキノへの街道を(ヤコフが知つてゐます)かへる筈です。貴女は馬車でヤコフにバラバンを馭させてお出でになると

- 1) 六行抹殺しあり判讀し得ず。
- 2) ムラフカと街道と呼ばれてゐた。

いゝ。わたし達は街道の左側を、貴女の方から見て左側を歩ませう。いゝお天気ですから、若し、澤山乗つてみたいとお思ひなら、一時半に出發なさい。すこしにして置きたければ、二時半にお立ちなさい。ヤコフに言附けて獵笛を持つて來てお吹かせなさい。——アウーアー……<sup>1)</sup>

四

秋。

ツィラより。

わたしはマルコフの<sup>2)</sup>ところにゐます、そして食事をしようとしてゐます。彼等は非常に貴方々お二人に<sup>3)</sup>來ていたゞくことを望んでゐます。どうぞお出てください。わたしはメンダデン<sup>4)</sup>を訪ねました。彼等はわたし達を今晚待つてゐます。どうぞお出てください。ターニヤ、我儘をいふものではありません。わたし達はみんな一緒になませう、さうすれば何もかもはつきりするでせう。——切符もつてあります。

十一月。

一八六四年

五

四月二十二日、十時、ピロゴフ。

わたし達は愉快に着くことが出来ましたが、何も不愉快なことはありませんでした、サーシヤも<sup>5)</sup>坐つてゐることに満足してゐました。ピロゴフでは家へ這入るまへに、厩舎へ行つて見ました。そして、わたしは非常に——實に厩舎を見て悲しくなりました、以前は千頭からの馬で一杯になつてゐたのが、今はあいてゐるか、でなければ寢道具なぞ積まれてゐるのです。わたしはまる四年間ピロゴフへ参りませんでした、それで以前の豊富と潤澤<sup>6)</sup>を知つてゐるわたしは、この荒廢の醜状を見る事が非常に悲しいのです。その荒廢の中に立つてゐる——窓の前に砂利を布かれた小道をもつた都會風の小さな家を見ることは尙更です。

家は暖爐も焚かれてゐませんでした、それでわたし達は（わたし達は、特にわたしは馭者臺で、凍え切つてしまひました）管理人のところへ参りました、これはわたしがケルレルにも言つたことす

- 1) 生れたばかりの息子のセリョーヂヤに關してである。
- 2) エザゲニイ・リチーキツチ・マルコフ、著名の作家で、當時ツィラ古典中學の教師であつた人。
- 3) 私と私の姉妹のデー・アー
- 4) ツィラの地主、後に參事院の一員。
- 5) 私の兄弟、アレクサンドル・アンドレーキツチ・ベルス。
- 6) レフ・ニコラエキツチの父の時代、ピロゴフの領地の歴史はビリユーコフの『傳記』(第一卷七十八頁)を参照。トルストイ家の人々が諸方へ出たあとピロゴフの領地はエス・エヌ・トルストイに委ねられた。
- 7) グスターフ・エフ・ケルレル、獨逸からレフ・ニコラエキツチによつてヤースナヤ・ポリヤーナの學校へ連れてこられた人。

が、愕くべき哀れなそして滑稽な馬鹿者です。セリョーシヤの経営ではわたしには何も出来ません、尤もわたしは村長と管理人によく言つてきかせるだけでも無益でないと感じてはゐますが。今も一つ間違をやりました。百姓の家畜を追込んでゐたのですが、一人の百姓が勝手に連れかへつてしまつたのです、わたしは彼を嚇しつけました、それで彼はその爲めに詫びに來ました、そして彼は鼻がなく非常に可哀さうなのです、わたしは彼を赦してやりました、罰金でなく、答罰です。そしていま後悔してゐます。

サーシヤはケルレルと渡り鳥を打ちに出掛けました、がわたしはあの百姓が、貴婦人たちに近寄つたので、それで鼻を失つたのだと話してくれてゐる坊さんと坐つてゐます。非常に空腹でした、しかしお茶だけを飲んで置きました、セリョーシカがわたし達のために鳥を煮てゐるのです。

六

四月二十三日、四時半、同所より。

十二時近くに横になつたのですが、わたしは四時に目を醒ましてしまひました、それから直ぐに皆ものを起こして、湯沸を立て、馬車の仕度をするやうに言附けました。家は丁度板紙のおもちやのやうで、小ぢんまりとよく整つてゐます、しかし非常に寒くて、わたし達は臺所で、早々に晝飯といふよりは晩飯を済ましたほどでした。わたしは絶えず坊さんと話してゐました、がセリョーシカは

わたし達の直ぐそばの、鐵板の上で、食物を調理してゐるといふ譯でした。

晩飯の後にわたしは仔細に内ぢゆうを見て廻りました、そして二十五年もの久しい間見なかつた、わたし達二人が子供であつた時分から知つてゐるセリョーシヤの持物(いろ／＼な細かい物)を見付けました、そして非常に悲しくなりました。永久に彼を失つてしまつたやうな氣がされたのです。そしてそれは殆どさうなのです。

彼等は二階へ一緒にやすみました、がわたしは階下へ、きつと、テ……が衝立の蔭であの人を捉へてはなさなかつた長椅子に相違ないと思はれるのへ、休みました。そしてあの一切の詩的なまた悲しい物語がまさ／＼と想像されました。二人ともいゝ人です、そして美しい善良な人達です。あの人を年をとつてまるで子供のやうです、そして二人は今不幸なのです、けれどもわたしはこの夜のこの思ひ出でが——ガランとした美しい家に彼等だけがゐるのです——最も詩的な追憶となつて、二人のところに残るであらうと思ひます、そしてそれは二人がやさしかつたからで、特にセリョーシヤがさうだつたからです。いづれにしてもわたしはこの長椅子の上であの人達のことを思ひ、セリョーシヤのことを思ひ、殊にこの部屋にある、彼が十三歳の頃によくそれでもつて繪を描いてゐた熱具箱を見て、悲しくなりました、彼は可愛らしい、快活な、明るい性質の少年でした、繪を描いてそして何時も、いろ／＼な歌を、しよつちゆう、歌つてゐました。それが今は、そのセリョーシヤが、まるで無いかのやうです。

それからわたしは耳鳴りがして、貴女のことを思つては淋しく物悲しくなりました。(小さいセリョージャに對してはわたしはまださういふ氣持は起こりません)。そして貴女を置いて來た恐怖を感じました、それから睡りに落ちて、わたしの小説中のいろ／＼な人物を夢に見ました。

わたし達はこれから尙ほ先きへマーシエンカの馬車で行きます、ケルレルはわたしの馬を附けた荷車で、一昨日婿が死んだので來なかつた養蜂者と一緒に行く筈です。尙ほ養蜂者は自分と一緒に(ケルレルとも一緒に)百姓の料理女をつれて行く約束しました。ケルレルが腹を立てないでくれればと思ひます。それから百姓のコンドラーチイを雇ひました。これはセリョージャのところに住んでゐたもので、歸つて來ればセリョージャに返すといふ條件で管理人が暇をくれたのです。しかしケルレルの言ふところでは、セリョージャは彼を大事にしてゐるさうです。

セリョージャのところでもマーシヤのところでも經營は、一寸見ただけでは、さう悪くありません、それに大工の管理人も最初思つたほど大して悪くはないやうです。

それから、どうぞ、貴女はわたしがゐないので氣を弛めてぐつたりしないでみてください——テীগが貴女をさうさせるのです——そして何時かのやうにメイシカへ行つたりピアノを弾き出すと、セリョージャが無理に貴女を引離すことが出來たりした時分のやうにしてゐて下さい。若しセリョージャが病氣でもしたら、直ぐに使の者をよこしてください。ほんやり坐つてゐないので、歩いてくださることを願ひます、といふのはさうにでもしてゐないと——わたしはさう考へるのですが——貴女はわた

しがゐないので、一層さびしいでせうから。尙ほわたしは、今日のやうに、貴女に宛て、書くことでせう——いづれ詳細は自分と一緒に持つて歸りますが、貴女も書いてください、どうぞ、しかし郵便で出さないやうに、——着かないでせうから、それよりも土曜日の夕方にヤコフを立ててください、若し彼が來てもほかに馬の手入れをする者があるなら、さうしたらヤコフに馬を(蹄鐵を附けさせて)つけてよこしてください、ラポトコヲ村へ、そこで宿らせて、日曜日にセルギエフスコエへ除かに行かせ、若しわたし達がその日に着かなかつたら、そこでまた一と晩泊らせてください、彼は貴女の手紙を持つて來てくれるでせう。ラポトコヲでは驛の近くへ、セルギエフスコエではチェレムーシキン<sup>3)</sup>のところへ泊らせてください、燕麥は二袋つけて來られるでせう、足らなければ——買ふのです。ドールカはもうきつと貴女に裏切つたことでせう。若しあれがまだ歸つて終はなかつたのでしたら、ピョートル・フョードロフに、繋いで置いた繩なり鎖なりを一寸の間も解いてはならないと仰しやつてください。さよなら、伯母さまのお手を接吻します。

## 七

- 1) ヒロゴチの近くに領地のあつた妹のエム・エヌ・トルスマヤ。
- 2) どういふ意味であつたか記憶してゐない。
- 3) ヤースナヤ・ボリヤーナで麥を買つてゐた商人。
- 4) ドールカ——セツター種の赤犬で、わたし達の愛犬。



途中から、四月或は五月

ソニヤ！ わたしは健康です、ヤースナヤにゐる時よりも遙かに多く、喰べもし睡りもします、こちらでは皆な丈夫です。マーシエンカはわたしの返事を待たないで馬鹿なことをしました。わたしは明日かへります。この手紙を持ってゆく百姓女は一年十二ルーブルと、粉を二プード、それから挽割を四分の一袋の約束で雇つたものです。ではこれだけ、この女よりもわたしの方が先に着くと思ひますから、もう手紙は書きません。

エル・トルストイ

八

自宅より一露里半の養蜂場から。

三つ分蜂しました。ワクが要りますが、多ければ多いほど結構です。張つてないワクを送ります。ワクを緊めるものを送つてください、——蜂の巢を取り出す時に使ふ捻子です。二つは庭番のところにありました。わたしのところには空いてゐるワクが四つあります。併しガラスはどれにも拵つてゐません。頭痛がします。馬をよこしてくれるかさうでなければ食事前にお立寄りください。

六 月

相變らずのレズンドボロ<sup>1)</sup>

九

ソニヤ！ 一つ（蜂群）逃げましたが捉へました。二つ分蜂しました。家の用事が済んだら、火鉢と蠟をよこしてください、それからわたしの爲めに馬と手拭を食事前によこしてください。イワン・イワノイチに<sup>2)</sup>、明日きつと大工を見附けてくるように言つてください。レズンドボロ

セリヨージヤはどんな様子です？ 青いのはあの場合いゝ方へ向ふ徴候だつたのです。

一〇

ソニヤ、誰か直ぐにツィラへ行つてくれるものを見附けてください、若しも誰も行き手がないなら、馬具匠のイワンを呼びにやつてください。八時に家へ来るように。用事は、(一)コブイロフに<sup>3)</sup>手紙を屈けること、そして金を貰つて来ること、(二)郵便局へ、(三)蜜商のスーシキンその他を訪ねて蠟の滓を貰つて来ること。如何ですか貴女の齒とそれから……？

レズンドウホロ

わたしは五時までにくゝにゐたいと思ひます。二つ分蜂しました。

書附を書いてください。コブイロフから金が貰へなかつたら、書附はケルレルに渡してお置きなさい。さうするほかありません。

六 月

- 1) 一時レフ・ニコラエキツチはさう自分を仇名してゐた、がわたしはそれが嫌ひであつた。
- 2) 管理人
- 3) 麥を買つた商人。

途中から、マリイナより<sup>1)</sup>。

貴女に非常に大事なことを言ふのを忘れて来ました。毎日ニコルカを養蜂場へやつて、そして幾つまた何時分蜂したかを貴女に報告するやうに言附けてください。それから村長によく見廻るやうに言つてください。これをわたしはもうマリイナで書いてゐるのです。

わたしは貴女のために一番賢いことを思ひ付きました。そこにゐらつしやい。わたしはこゝで夕飯を済まして、自分の馬車で一時間の後、眞直にヤースナヤへ歸るために、貴女を迎へにゆきませう。

狩獵より。

わたしは一と晩中小いさいセリヨージヤと貴女のお父さんの恐ろしい夢を見続けました。セリヨージヤが冷たい部屋で骸骨の轡を掴んで引廻してゐるのを見ました。わたしは四時に、非常に昂奮してそしていゝ氣持で目を醒ました。非常に書きたい氣がしてゐます。そして何を書くべきか知つて

ゐます。さよなら、若い妻よ、恐らく、いゝ天氣になると思ひますが、さうしたらわたしのところへ入らつしやい、二時に出發なさい。

わたしは全部これらの手紙<sup>2)</sup>を讀んで非常に幸福でした。そして貴女と一緒に讀みました。貴女もわたしと一緒に讀みなさい。何といふ皆な美しいそして愛すべき人達でせう。皆な貴女のです。貴女の世界は、わたしの、労働者らと一緒に、きたない世界よりも優れてゐます。

狩獵より。

ノヲ・マラホヲまでは無事でした。大型の馬車が壊れました。どうか斯うか運んで來られるだけになりました。立つ前にわたしが貴女にお話したことがなければ、わたしは氣持をよくしてゐられます。——第一便で、村長に茶代を出すのに、全部の品物が大型馬車にあるかどうか、報らしてください。

伯爵エル・トルストイ

1) これと次ぎの四通の短信は場所及び日附なく、一八六四年の夏のものであることは確かである。  
2) モスクワのわたしの親戚から。

日曜日、八月九日、チオルンスク郡に於ける狩獵から

わたし達は舊道を進みました。四露里ばかり来たところでわたしは小さい沼のそばに出て、そこで鵜を打ちそこねました。その後ピロゴフの近くと、イコンスキイの移住部落のそばで大鵜と小鵜を打ち殺しました。ターニヤと非常に澤山の村の子供達が見に来てゐて叫び聲をあげました。ピロゴフではマーシエンカ、子供達、グリーンシャがわたし達を迎へました、それにセリョージャと伯母さん<sup>1)</sup>も。わたしはマーシエンカに貴女の處へ行く様に勧めました。併し彼女は都合が悪いのか行きたがりませんでした、が伯母さんはわたし達が貴女を一人のこして来たのを聞くと、直ぐにそれならば行かうと言つてくれました。わたしは翌日行つてくれるように頼みましたが、しかし彼女は何時とも言ひませんでした、凡ゆる問題に不快な緊張と不真面目さを與へるセリョージャとテ……がそばにゐなかつたら、何もかもよく行つたかと思ひます。あの獨唱、バルコンへ出ること、すべてがわたしには甚だしく不愉快です。一切のあのいきさつがひどくわたしの生活を毒します。始終工合が悪くつて、そして彼等二人に氣兼ねしてゐるのです。

やつと食事をして終ふと直ぐ、仕度を始めました。マーシエンカが荷車と馬をくれました、ケルレがわたしと一緒にヲロツインカに出掛けました。これはピロゴフから十二露里あります。晩までわ

たし達は獵から歸つて来たウエー・エヌ・ビビコフの他には何も見出しませんでした、彼はわたし達の行つた矢張りあの沼へ行つたのです。鳥は少しもゐないと言つてゐましたが、しかしわたしは一緒に泊りに行くやうに説き伏せました。わたしは納屋へドールカと一緒に温かく虫にも喰はれず非常によく睡りました。

朝、四時に、わたし達は村から四分の一露里離れてゐる沼の上の銃聲に目を醒まされました。そこには既に五人の狩獵家がゐました。わたし達は出掛けました、わたしは大鵜を打ち損ねました、暫くして一羽を打ち落し、續いてケルレルも一羽打ち落しました。それから探しに、先きへ進みましたが。狩獵家の外には何も見ませんでした、昨日一日にこの場所へ方々から十七人も集つたのでした。わたしは二週間前に來べきだつたのです、この沼は有名で、各地からこゝへ入りこむのです。

夕方わたし達は一人の若い、妻のあるビビコフと若いマルショーチニコフと馬車で會ひました、一緒に、家の方へ歸つて行きながら、わたしは大鵜を見出して打ち落しました。わたし達がピロゴフに近付いた時は、もう六時近くでした。ビビコフが、ニコライがわたしを食事に招待しました、(彼のところはマーシエンカのところから二露里です)わたしは寄りました、苦いバタで軽い食事を済まして出掛けようとする所へ、セリョージャが來ました。彼はわたし達が單にゼヒロート<sup>2)</sup>達と馬車

1) タチャナ・アレクサンドロヴナ・イェゴリスカヤ。

2) レフ・ニコラエツキチが姪のワリーヤとリザをさう呼んでゐたのは次ぎのやうな事情による。ヤースナヤ・ポリヤーナへ稀れではあるがツーラ修道院の尼僧の、マリア・ニコラエヅナの教母のマリヤ・ゲラ

を驅つて、そしてこゝへ立寄つたことを全く知りませんでした。一緒に歸りました。お茶を飲んでから、夜食を済まして、わたしはトコ虫のゐるといふ傍屋へドールカと一緒に臥せりました。併しわたしはそんな虫がゐるかゝらないか知らない程よく熟睡しました。セリヨージヤとテ……の間に何かあつた、態度で解ります。それはわたしに取つて非常に不愉快です。悲しみの外には、それもすべからぬものに取つての悲しみの外には、何物も二人からは與へられません。そして良いことはどんな場合にもないでせう。

今朝起きたら、——皆な寝てゐます、で帳面があつたのを見附け出して、ソーニヤへ宛てて書いてゐます、それはその人無しにはわたしには生きることが辛い人です。

昨日わたしはピロゴフへ歸つて來ながら今日はヤースナヤへ引返さうと思つてゐました。それほどわたしは貴女と夢に見たセリヨージヤのことが恐ろしくなつたのでした。それで伯母さんが立たないのがわたしは不満でした。しかし伯母さんが明日ターニヤと一緒に言かれると仰しやつたので、わたしはニコリスコエ<sup>1)</sup>へ行くことに決めました。尙ほ先きへ行くかどうかは疑問です。驛を経て手紙をください。チヨールンで今日手紙を見出すかも知れません。わたしはすつかり參つてしまひました。貴女はわたしは貴女のことなど忘れてゐるのだらうと仰しやる。どうしてそんな事があるでせう。殊にほかの人達と一緒に時は尙更です。しかし獵をしてゐる時には忘れてゐます、獵のことだけを考へてゐるからです、だが人々と一緒にになると——凡ゆる場合に、凡ゆる言葉に際して、——わたしは

貴女を思ひ出すのです、そして貴女の外には誰にも語ることを出來ないことを貴女に話したくてならないのです。

今日はニコリスコエへ參ります、明日は一日滞在させよう、そして屹度、どこへも出掛けないでせう、そして明後日かへります。チヨールンからこれを貴女に書きます。

一七

八月十日

再び好都合になりました。フェットが持つて參ります<sup>2)</sup>。わたしは昨日ニコリスコエへ八時に着きました。そこではわたしを非常に驚かした恐ろしい出來事が起りました<sup>3)</sup>。家畜番の女が厩の廣庭で馬を降ろしてくれるように一人の百姓に頼みました。その百姓は村長で、ニコリスコエではわたしは

2) (前頁の續き) シモゲナが訪ねて來られた。或る時、ツィラから來て、彼女は新聞に巨大な——鳥でなく、飛龍でもない、セヒロートと呼ぶものが飛來したと出てゐたと話した。最初レフ・ニコラエキツチはわたしとターニヤのことを、「伯母と共に住みて、靜かに住みゐるが、われ等のところへこれ等のセヒロート飛び來れり」と言つてゐた。その後彼はこの名前を姪達に持つて行つたのである。

1) チヨールンスキイ都にあるトルストイ家の領地。

2) 即ち手紙を。

3) エル・エヌ・トルストイの『讀本』の中に描かれてある。

知つてゐる唯一人のそしてやさしい養蜂者です。百姓女は降りてゆきました、そして竿から落ちました。村長の百姓は自分を降ろすように命じました。半分まで降りて、竿から手を離すと下へ落ちました。皆なを呼びに走りました。半時間後に引上げましたが、二人とも死んでゐました。井戸には水が四分の三ありました。昨日葬りました。

蠅がうるさくて、よく寝られませんでした。十時に起きて、フェットが来てゐて今出掛けるところだといふ手紙を受取りました。わたしはポリーソフのところへ出掛けました。彼のところでこれを書いてゐるのです。フェットは病気で暗い顔をしてゐます。わたし達のところへ寄る事を欲しません。ニコリスコエの経営は非常によくいつてゐます。しかし收穫はさほど良好ではありません。明日わたしは土地を見て廻るつもりです、さうすれば用意が出来るわけです、わたし達がニコリスコエと一緒に暮す事の出来なかつたのを悲しみます。フェットは坐つて、そして一人で掛け言葉をやつては甚く悦に入つてゐます。ポリーソフが犬を呉れる筈です。さよなら、可愛ゆき者よ。今日チヨールンへ人を遣ります。貴女の手紙を持つて来るかも知れません。ポリーソフのところには非常に澤山梅があります、そしてフェットは、——こゝでは皆な梅の實を探しながら、暮してゐて、そして幸福に思つてゐると言つてゐます。貴女を接吻します。セリヨージヤに、アタ、アタ、……。

今日は十一日です。わたしは、遂に、熟睡しました。美しい朝です、それで、もう他のことには何も氣をとられずに、わたしは終日莊園や家畜やその他の爲めの土地の區分や測量の計畫に専念しようと思つてゐます。昨日わたしはフェットに托して貴女に手紙を書きました。貴女に届けなかつたのではないかと思へてなりません。昨日はポリーソフのところまで一日暮しました。貴女の言ふ通り、このポリーソフは不快な男です。すべてが彼のところでは立派です、住居にしても、食事にしても、馬、犬、温室——すべて立派なものです。しかし氣の狂つた妻を持つた人間がこのやうなことをして何になるでせう？ 子供も非常に可愛らしい顔をしてゐて、健康で、はきくしてゐます、しかし不快でそれに恐ろしいほど母親に似てゐます。わたしはこの子が矢張り母親と同じ結果になることを信じます。彼のところにはお客がありました、彼の妻の姉妹で、愚しいお饒舌の、肥つた女地主とナルイシキンといふ、若い、妻のある男で、非常に獵の好きな人、田舎紳士でキレーエフスキイの隣人です。彼は少女の頃の貴女を知つてゐます。彼等はボクローフスコエに住んでゐたのです、そして、アーエ<sup>1)</sup>がジュエリカを連れては彼に打つことを教へたのです。

近くへ獵に行きました、そしてポリーソフは最も耻づべき方法で野兎を捕りました。それで彼から

1) キレーエフスキイ、富裕の地主、非常に獵の好きな人。  
2) アンドレイ・エウスターヒエキツチー・ベルス・わたしの父。

犬を貰ふのが嫌になりました。チュルコフが、こゝから二十露里ありますが、鳥打ち用の獵犬を六頭と野獸狩りに使ふ獵犬を五頭賣るさうです、非常にいい犬です。しかしわたしは決心がつきません。貴女はどう思ひます？ シェンシナが、馬鹿女に似合ず、皆なが貴女を褒めてゐるとわたしに言ひました。その筈です！ がキレーエフスキイはナルイシキンに、彼のところでは妻が貴女と同じやうに産をする筈なのですが、狩獵家がお産を獵期にさせるやうにするのは怪しからんと言つてゐます。

ニコリスコエからの今年の収入は現今の價格で四千ぐらゐでせう、それに古い麥が一〇〇〇ルーブルだけあります。管理局へ拂はなければならぬのが一九〇〇、それにドフトロフへ一五〇〇、精算をしたら二五〇〇ぐらゐは残るでせう……。わたしは最少に見積つてゐます。今のところ、若し何も起こらなければ、わたしは今日すべての仕事を片付けて、若し疲れてゐませんでしたら、夜分に出發します、若し非常に疲れてゐれば、明朝立ちます、そして晩には貴女の西瓜3)を感じ、貴女のやさしい顔が見られるでせう。さよなら、可愛ゆき者、セリヨージヤによろしく、それから強情を張らせないやうに、アタ、アタ、です……。

## 一九

八月十二日、チヨールン。

わたしはどんなに貴女を愛してゐるでせう！ 可愛ゆき者よ。チヨールンまでの道を思ひ續けまし

た、いや。きつと何か手紙に故障が起こるに違ひない、チヨールンでもわたしは手紙を見られないかも知れない。着くと、トーマスの元の管理人が——何といふやさしい顔をこの管理人はしてゐるでせう——言ふのです、御手紙をお受けとりなされませんでしたか？ とところがわたしは非常に空腹であつたので、スープに氣をとられて、まだ訊かずにゐたのです。何といふ可愛い手紙でせう、貴女は可愛い方です！ わたしは落着きました、手紙を読んで、貴女がはしやいでこそゐないが、氣分がいいのが解ります。わたしはフェツトのところへもキレーエフスキイのところへも行かうとは思ひません何か異常なことが起こらない限りは。ニコリスコエへ行かずに、わたしが望んだやうに貴女のところへ返ることは、羞づかしくもあり、その上用があつたのです、が満足は貴女なしにはわたしに取つては狩獵の外あり得ません。ところがキレーエフスキイとフェツトのところでは狩獵が出来ません。わたしは今それを考へて見ました。若しわたしがキレーエフスキイを訪ねるとすれば、手紙を出して置いて、彼の立つ前に行かなければならぬでせう。わたしは十五日の期限を變更しないばかりかそれ前に歸りたいと苦心してゐるのです。わたしはチヨールンにゐます、ですから、ニコリスコエには明日からになります。この領地の事を言ひ出してから五年になるのに、まだよく知りもしなければよく見てもゐないこの領地をよく知つて置く事が必要だと思ひます。今日大きいセリヨージヤがどんな風であつたかはターニヤにお訊きなさい。實に滑稽です。マインエンカのところからの歸りに、街

3) 妊娠、もう産み月に間もない頃。

道の近くの沼に寄つて見ました。見ると、セリヨージヤと、グリーンシャと、ケルレルが乗つて行きま  
す。心の中に思ひました。彼等は乗つてゆく、わたしは會つて話をしよう、非常にさうしたい、彼等  
に邪魔されない爲めに出来るだけ早く遣はなければならぬ。わたしは沼の中にちつとしてゐました  
……。セリヨージヤが近付いて、そして非常にイラ／＼してゐます。——左様なら、左様なら……。  
わたしは彼がこの出會のうちに、何か特殊な彼を刺すやうなものを見たに相違ないと信じます。それ  
が彼の性質によるか、テートの關係によるか、それとも又、わたしの性質の然らしめる所か知れませ  
んが、何れにしても彼はわたしには苦しいのです。重苦しいのです。わたしは今も  
また自分に訊ねました、わたしが悪いのではないか？ しかしさうではありません。伯母さんはわた  
しにやさしくして呉れます。マーシエンカは非常にやさしく愉快です、ゼヒロート達は言ふまでもあ  
りません、が彼はわたしを締めつけます。

途中で知合の建築家に會つて家へ招待して置きました。彼は十六日頃に見えるでせう。わたしは自  
分の馬車でセルギエフスコエから十八露里あるクラスヌイ・ドウワールまで参りました、そして馬は  
チェレムーシキンのところへわたしの歸るまで飼養して置くように遣しました。イワン・イワーノ  
フツチに、厩の馬をコンドラチャだけでも手入れをして置くように言つてください。それから尙ほ彼  
に、最もいゝ土地（一番肥料の利いてゐる）を、ニデシヤチン、種子を蒔かずに、ニコリスコエか  
ら届く小麦の爲めに残して置くやうに言つてください。土地の選擇については村長のチモフエイに

相談させるといゝです。それから尙ほ彼に、植付けた苜蓿を見廻るやうに、——伸ばし過ぎて頭を落  
して終はないやうに、言つてください。それから森の向ふへ、蒔きつけた苜蓿は、集めることが必要  
です。そこへ十人の小娘とそれから天氣がよければ一緒にソーニヤ<sup>1)</sup>をやつて、頭をちぎつて前掛へ入  
れ、前掛から荷車へ入れさせること。二人のターニヤ<sup>2)</sup>が貴女のところにゐることと思ひます、わたし  
の代りに接吻してください。貴女については何も言ひません。今わたしは貴女が非常に近くなつたこ  
とを感じます。

一八六四年の秋レフ・ニコラエキツチは屢々犬を連れて獵に出掛けた。九月の終りに馬と一緒に  
溜に落ち、手を折つてそして肩から脱けた。ツौरアの醫師が治療を誤つた爲め、手は歪んで終つ  
た、レフ・ニコラエキツチはモスクワへ療治をし直すために行く決心をして、十一月二十一日に出  
發した。わたしは生れたばかりの息女<sup>ウチメ</sup>のターニヤをかゝへて村に残つた。交通は十一月及び十二月  
中おこなはれた。

十一月二十四日、モスクワ。

また夜になりました、劇場から歸つて来て、ターニヤの机で貴女にこれを書いてゐます。これを書

- 1) わたしを、ソフイヤ・アンドレーエヅナを。
- 2) 伯母さんのタチャナ・アレクサンドロヅナと姉妹のタチャナ・アンドレヅエーナ。

かないでは寝られないやうな気がするので。晝間することは皆『これをソーニヤに書いてやらう』と思ふのです。ポ、フが曖昧に昨日わたしに、わたしの手紙に對して、ペリチャに傳言して、九時半に病院へ来るやうに言ひました。わたしは彼がその日に手術を、パーソフと相談をしてやることに同意して呉れるものと思つてゐました。ところがエカテリナ日(二十四日)は——彼等のところの祝日で、彼は唯だわたしを自分の助手に紹介だけする意りで、手術はどうしても明日まで延ばすしかないことになりました。彼よりも一層よく知つてゐる彼の助手と彼自身とが再び成功のチャンスの極めてすくないことを申しました。家へ歸つてから、わたしはアンドレイ・エウスターファイエキツチに話しました、彼は再手術をする必要のないことを説きました、(リュエボービ・アレクサンドロヅナも同意見です)。療治をしない足で立派に歩いてゐるトゥリフオノヅナや、手を挫いて療治をせずに使つてゐるといふポクロフスコエの百姓の獵師の例などを話されて、わたしは全く不決斷に陥つてしまひました、三日もこの情態にあるのですが、朝の中はどうしても手術を受けるつもりでアレクセイと一緒に連れて行つたくらゐに決心してゐただけそれが苦しいのです。アー・エーは手といふものは脱臼してゐてもその内に段々よくなつて、六箇月もすれば自由に動くやうになるものだといふことを主張しました。この最もよくない不決斷を脱する爲めに、わたしは次ぎのやうなことを考へつきました、それはアンケのところへ人を遣つて、彼にイノゼムツエフのところへわたしと一緒に行つて貰ひ、このイノゼムツエフに、自分の最も親しい友達がわたしの情態にあるとして、手術をなすべきであるかそれ

ともしてはならないか、どう忠告されるかを訊いて貰ふことです。アンケに手紙を書いて貰ひました、わたしはその間筆を執つてゐましたが、気分は概して悪くありません。一枚割によく書きました。<sup>8)</sup> 醫者が來ました、体操教師で、毎日アー・エーの腹を揉みに來るのです、——手を見せました、彼は外科醫達がどうしようとしてゐるのか解らないと言ひました、彼はわたしよりもつと酷いのに接したが完全に治癒することが出來たと申しました、そして彼の指導に従つて六箇月体操をすれば、わたしは全く自由に手を動かすことが出來るやうになると言ふのです。彼は手を廻しました、そしてわたしは殆ど彼の言葉の正しいのを信じます。それにも拘らず、決めて終つた以上、わたしは矢張りイノゼムツエフのやうな第三者の權威者に相談する意志を棄てることが出来ませんでした。

ペリチャと一緒に動物園へ行くことにしました、わたしは——ブラマブトラを見たり散歩をする爲め、彼は——スケートをしに。ターニヤも一緒に參りました。わたし達は、途々面白く話し続けまし

1) 外科醫。

2) 同じく外科醫。

3) わたしの母。

4) ベルス家に三十五年以上住んでゐる料理女。

5) アレクセイ・ステパノキツチ・オレーホフ、レフ・ニコラエキツチの忠實な僕。

6) わたしの父の友人で、老醫、教授、醫學者々長。

7) 當時有名なドクトル。

8) 小説『戦争と平和』

9) わたしの兄弟のピョートル・アンドレイエキツチ・ベルス。



た。彼女は悲しくつて淋しくてならないと言ふのです、よく不平を言はないと言はれますがしかし彼女は正しいのです。クレムリは陰鬱です、不思議なことには、エル・アーとアー・エーはお互に愛し合つてゐながら、二人ともお互につまらぬことでいら／＼させ合ふことを生活の目的にでもしてゐるやうに見えます、そして周囲のもの、殊に娘達の生活を破壊するのです。いら立たしさのこの雰圍氣は局外者にまで重苦しい感じを與へます、必ずどんなことがあつても、わたし達のところではさうはならぬでせう。わたしの愛するソーニヤ、何時も貴女は帷の蔭で乳を與へてゐるのをわたしは知つてゐます。食事の間、それから何時も食事の後に兩方の側からいさかひ、苛立たしさがあつて、それは恐ろしいのです、そして具合が悪いのです。オストロフスキイの新喜劇『道化者』を見に劇場へ行く事になりました。しかしアンケが夕刻に來ると返事をして來たので、再び兩親の間の衝突の後に延ばされました。アンケが來て、そしてイノゼムツエフに相談するやうに勧めました、陸軍病院の醫長をしてゐるルヂンスキイにも相談することを勧めました、彼の話ではポポフや、バーソフなどより精しいといふことでした。アレクセイに手紙を持たしてルヂンスキイを訪ねさせたところ、明日十二時に來てくれるといふことでした、それで再び彼の忠告を待つことにし、彼の忠告に従つて斷然、手術をするかしないかに決めます。手術を明日中にして貰ふやうにすべての方法を講じます、勿論、電報は打ちます。

アンケは、可哀さうに、最初勧められるヘレスを拒つてゐましたが、やがて飲み干しました、そして悲しげに何かトリフオモヅナに冗談を言つて、そして歸つて行きました。エル・アーは婦人達を連れて劇場へ参りました、わたしも後から参りました。二幕目の終りへ行き合はせました。村にゐるとすべてのものが何時も醜惡で虚偽に見えますがしかし馴れて見ると又好きになれます。喜劇は感動的で、過ぎるくらゐです。劇場には小さいオボレンスキイとゲニチカ・アウエルパツハが來てゐました。ユー・エフとSophieも見えてゐました。わたし自身今夜は善良であるので、皆なも善良に見えます。歸つて來て夜食をしました、わたしはやさしい善良な氣持でゐます、しかし恐怖をもつて貴女のことと子供のことを思ひます。貴女からはまだ手紙が來ません。若し何かよくないことがあるならどうぞ電報を打つてください。濟んで終はない前に電報をおよこしなさい。さよなら、二週間もこゝに滞在してゐます。

## 二二

十一月二十五日

今朝わたしは手術をしない意味の第三の電報を打ちました。それは朝かういふことがあつたのです、家にゐて、ルヂンスキイを待つてゐるところへ、偶然またウエンドリヒが寄つたのです。彼に見せたところ、彼が言ふには、直すには及ばない、尤も手が脱臼してゐることは認めましたが、そして手後れになつた脱臼を直して、それが悉く不結果に終つた三つの場合を上げました。わたしは彼を信

言  
じませんでした、そしてルジンスキイを待つてみました、その人の言葉を、わたしはまるで彼の言ふことなら何でもするといふやうな氣持で待つてゐたやうです。わたしは前以つて、アー・エーにわたしより先きに彼と話をしないやうに、わたしだけに説明をさせてくれるやうに頼みました。彼は注意深く診察して、そして痛い思ひをするには及ばない、骨折があるといふ事（これはポポフも認めました）、完全に直すには首のところを巻ける一種のギブスを當て、置けばよろしい、その他に手の骨が取れて空いてゐるところは、今ではもう多分軟骨で充たされてゐるらしいこと、（これもポポフの言つてゐる通りです）、それ故手術をする必要はないといふのです。彼は手がごくわづかづかれてゐるのだから、わたしは今よりもよくそれを動かすやうになるだらうと申しました、今わたしが思ふやうに動かせないのは主として、運動不足のために筋肉が衰弱してゐて、筋肉内に伸張と挫折の爲めの麻痺状態が起つてゐるからで、これは獨り手にも、表面的な欣衝を起こさせる沃度の塗布によつても直るといふのです。これは明日やつて見ます、主な希望は体操にあります。ホツスが昨日完全に直つたさういふ例が幾つもあると言つてゐました、そうする爲めには、約六箇月を要することです。彼は彼自身でそれをやる必要がある、従つてモスクワです、それに對してはわたしは、勿論、同意しませんでした、それでかうしようと思ひます。明日から始めて毎日彼に來てもらつて練習をして貰ふ、そしてそれを一週間か十日続けるのです。アレクセイが傍にゐて教へて貰ふ、若し結果がよければ彼の指導に従つて續けて見る。今日彼はアー・エーのところへ來る筈でしたが、それが折悪しく何故か

來なかつたので、詳しく相談をすることが出来ませんでした。いづれにしても成るやうに成るでせう。わたしは手が痛みなしに現在の状態のまゝでゐても、あまり苦にはならぬでせう、その上若し貴女が同じやうに思はれるなら、全く落着くでせう。貴女からは一向手紙が参りません。今朝わたしは再び氣乗りがして筆を執りました。それから小オボレンスキイが訪ねて來ました、彼はリーザの御機嫌を取らうとしてゐるやうです、それからエスは何だか少し瘦せて老給仕頭に似て來ました。二人に退席させられました。その後へアンケが晝と晩を坐り通して一層ひどく退席させました。アー・エーも絶えず自分の身体のことばかり心配してゐて辛氣です、もつと心配をしないで、苛々しなければ、ずつとよくなるのだといふ氣がします。夜ターニヤを除いて、また皆なで小劇場へ参りました。新しい馬鹿げた脚本ですが、しかし少くともわたしに取つてでない限り、何もかもよかつたやうです。わたしはこゝでは、自分の仕事とターニヤの獨唱の外はいつも退席です。彼女はよくないのです。始終泣いて、そして初めの頃と殆ど同様に黙りこくつてゐます。サーシヤから非常にいゝ手紙が來ました、ヤースナヤ・ポリヤーナへ來ることを空想ばかりしてゐます。今日までわたしは自分の手のことばかり心配してゐました、その方の決定がついた今、わたしは明日カトコフから返事を貰つて、彼のところでか別冊にしてか印刷を始めることにします。材料はわたしはこゝで澤山手に入れました。貴女はどうしてゐますか？ 子供部屋はどうですか？ 左様なら、愛する友よ、明日また書くかも知れませんが、今十一時で、非常に疲れてゐます、わたしは晝食後ずつと自分の手で体操をしてゐたのです。

十一月二十七日

昨日は初めてその日の中に書き了せなかつたので、今朝またこれを書きます、まだ皆な寝てゐますから九時迄に郵便局へ間に合はさなければなりません。どうぞ、コンドラーチャカセリョーシカを毎日よこしてください。昨日書き終へなかつたのは、ロスラーヴレフを読み出したからです。どんなにそれがわたしに取つて必要であるか、興味があるか解つてくださると思ひます。昨日は体操の先生のホツスを待つてゐて、何處へも出掛けませんでした、それで書かうと思ひましたが、書くところがありません、邪魔をされるのです、それにきつと氣が向かなかつたのでせう。愉快ではありません、全くクレムリは愉快ではありません。アー・エーは自分の病氣のことばかり言つてゐます、勝が悪いといふのです。リーザは靜かに坐つて、仕事をしてゐます、がターニヤは昨日の朝のやうに終日泣いてゐるのです。何故か——解りません、何時も同じ事を思つて泣いてゐるのでせうか。それとも淋しいからかも知れません、それは確かにさうです。二三年前までは悉く貴女方の世界——貴女とそれから彼女の、いろ／＼な愛するもの、リボン、青春の一切の詩、愚かしさ、さう云ふもので充された世界でした、それがいま突然、あんなに愛してゐた自分達の世界と、それら一切の騒がしさを経験したのちに、彼女は家へ歸つて見て、貴女と一緒にあつた世界が、最早なくなつてゐるのを見、そして跡には善良な、

しかし退痛なりーザが残こつて、その上病氣の爲めに憂鬱になつた両親に一層近く、顔と顔とを見合はせることになつたのです。成程、スケートの會員になり、黒皮の帽子を拵へてもらひ、音樂會の會員にもなりましたが、しかし、それだけでは彼女には足りないのです……。わたしは彼女と話しました、しかし話をするのは退痛でもあれば淋しくもあります。間もなくカトコフの<sup>3)</sup>ところからリュビーモフがやつて來ました。彼は『ロシヤ報知』を編輯してゐます。彼が二時間も、と思ひますが、立て続けに、わたしと一頁に對する五十ルーブルのことで議論をして、そしてその際、口角に泡をとばして、教授らしく笑つてゐるのを聞いてゐなければなりません。わたしは讓歩しませんでした、今日返事が來ることになつてゐます。非常に欲しがつてゐるから、三百ルーブルで承知するでせう、わたしにしても、實を言ふと、自分で出版することは困ります、印刷所との面倒もあり、殊に檢閲に關する面倒が大變です。——彼が歸つた後フォツスのところへ散歩がてら行つて見ました、困つたことには、わたしが折角始めようと思つた矢先きへ、彼は二日も姿を見せないのです。食事の最中にベルが鳴りました、——新聞です、ターニヤが走つてゆきました、またベルが鳴つて——こんどは貴女の手紙です、皆なが讀ませて呉れとせがみましたが、わたしは渡すのが惜しい氣がしました。それは余りにも美し

1) 既に著手されてゐた『戦争と平和』に關連して。

2) わたしの姉妹。

3) ミハイル・エヌ・カトコフ、有名な文明批評家、『ロシヤ報知』及び『モスクワ報知』の發行者。

4) エヌ・エル・リュビーモフは大學の物理の教授であつたが、後『ロシヤ報知』の編輯に勤めてゐた。

きて、彼等には解らないでせうし、解りもしませんでした。わたしにそれはまるでいゝ音楽のやうに働きかけました、楽しくもあれば、悲しくもあり、快くもあり——泣きたいほどです。わたしの小説を誰にも読んで聞かせてはいけないうち、何といふ御伶俐さんでせう、それがさう賢いことでなかつたとしても、貴女が望んでおられるのだからわたしはその通りにするでせう。——両親の間には鹽牛肉やその他の事で衝突が起こりませんでした、そしてターニヤも食事が済むと快活になりました（若さには勝てません）。そして愉快でした。わたしはベーチャとワローヂヤを連れて風呂へ行きました、ターニヤはお母さんとクズネツキイ橋へ出掛けました。風呂から上つてわたしにロスラヴレフを與へました、そしてお茶の間に世間話を聞きました、そしてターニヤの獨唱を聞きながら、作者以外には何人も理解することの出来ない喜びをもつて、読み続けました。アー・エーがカカオを沸かして、どうしてもわたしに飲めといつてきません。さよなら。手が痛みます、しかしわたしは希望を失ひません。沃度を塗つて置きました、そして今日はどんなことがあつてもフォオツスを探し出させよう。さよなら、愛する者よ、手紙をください、そしてツィラへ毎日使ひをお遣りなさい。それから、考へて御覽なさい、一昨日サーシャ・クラブフェルシュミットが來たのです、わたしは彼と二時間ばかり獵の話をしました、そして昨日は乳母のところへ行つて彼女と子供のことだのいろいろなことを話しました、そして信じてください、この二つの談話はわたしがモスクワへ來て以來、リュビーモフ、スホーチン、チュツチエワを含めて、最も愉快であつたのです。わたしは今人と接することが多ければ多いほど、大人

になつたせいで、わたしが全く特殊な人間であることを確信するのです、そしてそれは唯だ以前には誰にも引けを取らなかつた虚榮心と子供らしさがわたしの裡に無くなつたといふことです。

二三

手の再手術の後に姉妹のターニヤに書取らせた手紙。——以下五通——

十一月二十九日

二日前のに對する返事です。体操だけが効果があると言はれ、わたしもそれを信じたので、わたしは手を振り廻してゐましたが、それが悪い結果になつて、非常に衰弱して終つたことを認めなければなりません、そしてこの勝れない氣持ちでレドリツフのところへ行つたのです、わたしから金の取れる利益があるのに、體操の時にレドリツフが治療をした方がいゝと言つた時、わたしは全く決心をしました、實を言ふと、前日劇場の中で決心したので、音楽が奏されて、舞台では踊つてゐます、ミシエール・ボーデは二本の手を持つてゐるのに、わたしは、不具な哀れな様子で、袖はブランとして疼いてゐるのを感じます、特に、ヤースナヤから來た當座の苛立たしさがすつかり消えて、そ

- 1) 小劇場の提琴家、わたしの父の親友。
- 2) エカテリナ・フョードロヴナ・チュツチエワ、詩人の息女。
- 3) 温浴場及び體育館の持主。
- 4) 社交的な人、モスクワの帝室財務局長の息子。

れでわたしは貴女の言葉を、思ひ出したのです、アンドレイ・エウスターフイエキツチの言ふことを聞いてはいけません、彼は貴方を混乱させるでせう。と言つた貴女の言葉を。——その通りになつて終ひました。

その日は特に熱心に書店、醫師のところといふ風に通ひました。そしてわたしは再手術を受けるといふことでベルス家の人々を困惑させてゐるのを感じてはゐましたが、しかしわたしは非常に愉快でした。音楽を聞いても、わたしの爲めにタイプになつて呉れる多くの紳士や婦人方を見ても非常に愉快でした。クロロホルムを恐れ手術を恐れることは、貴女がそれに就いてあゝいふ樂觀的な考へを持つてゐるに拘らず、わたしは考へるのも羞づかしいくらいでした。手無しになることは、多少自分のために、しかしより多く貴女のために不愉快でした。殊にターニヤとの話が一層わたしにそれを信じさせたのです。わたしは直らないものと信じて行きました、しかしわたしはそれをあとになつて後悔して自分を責めることのない爲めにしたのです、そして自分でも、どうしてわたしがアンケやウエンドリツヒやいろいろな人の話に迷はされて、殆ど一週間を無駄に過ごしてしまふことが出来たのかと驚いたのです。その日と翌日と貴女に手紙を書かなかつたのは、ボボフが曖昧に土曜日に——二十八日に來る約束をしたので、それでわたしは、手紙を書けば貴女に嘘を言ふか非常に心配させる事になると思つたからです。オペラの始まる前にリュビーモフに會つたことを書くのを忘れ、彼はカトコフのところから來て、そして再び泡を立て、笑ひながら、カトコフがわたしの條件に全部賛成で

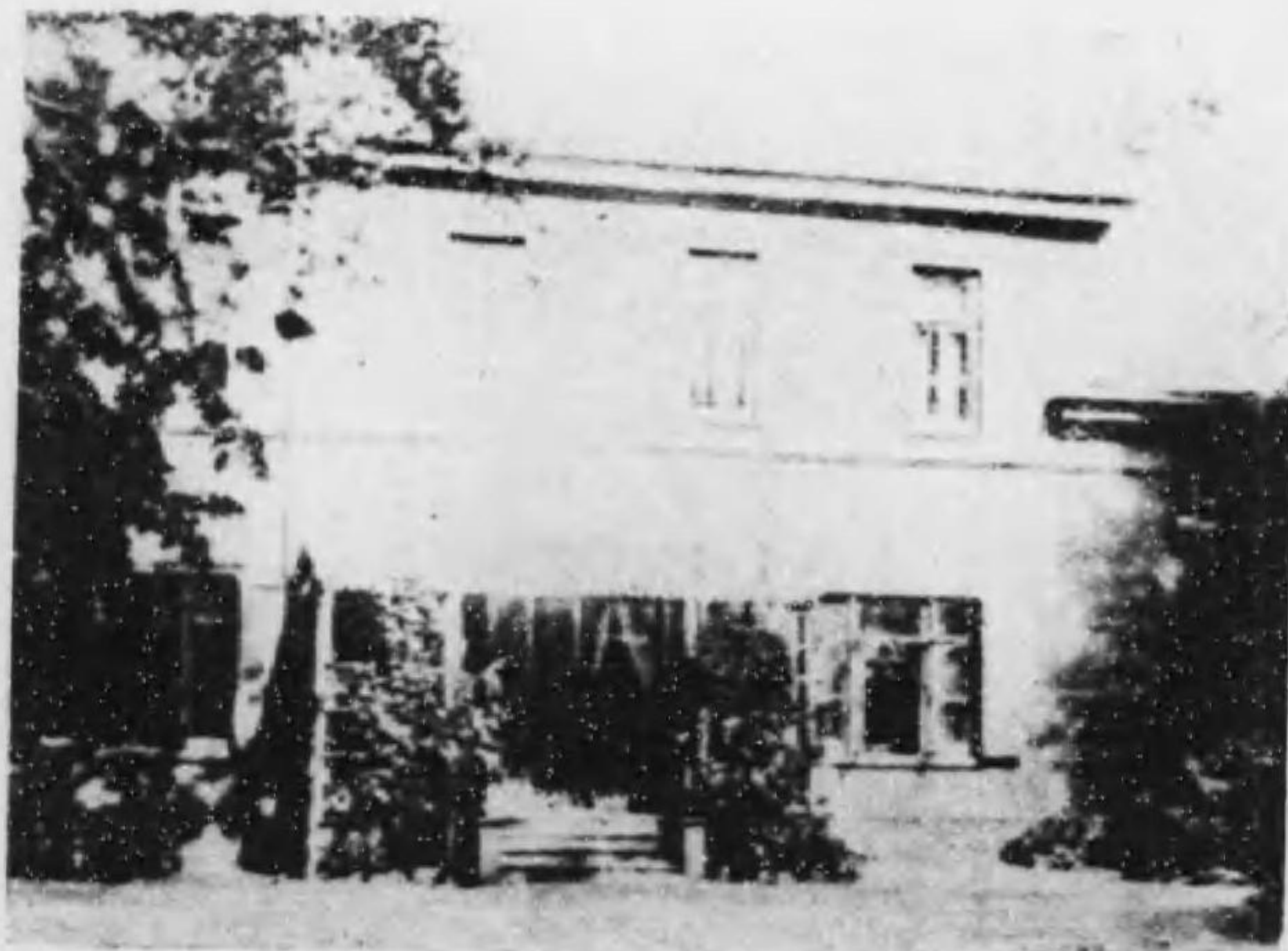
ある旨を申しました。それでこの馬鹿げた取引は終りました。即ちわたしは一頁につき三百ルーブルづつで小説の第一部を渡したのです、彼は自身でそれを持つて歸りました。しかしわたしの紙挟みが空になり、泡をとばすリュビーモフが原稿を持つて行つてしまつた時、貴女が腹を立てるだらうと思つて、——もつとよく訂正してもつといふものにする事が出来なかつたのを思つて、悲しくなりました。

こんどはその翌日、これはわたしの記念すべき二十八日です。朝から非常に事件があつて家中大騒ぎです、第一に、婦人達がわたしに部屋を譲つて、引越しをやりました。第二に、わたしの可愛いアンノチカが擦剃ききづを拵へて、これも大騒ぎでした、それから第三に、お母さんが女達、スチヨーパー、ラーバ、乳母を連れて風呂に行きました、第四、ザハリイナが來ました、——これも事件です、第五に、掃除人達が道で皆など入り混りながら、部屋々々を踊り廻りました、第六に女裁縫師が防寒外套を持つて來ました、最後に第七、ボボフを待つて、それから手術です。手術のことはわたしよりもよく一切を理解することの出來たターニヤが詳しく貴女に書いてゐます、わたしは唯だ手術の前に恐怖を感じなかつたこと、それからその後で痛みを感じましたが、冷巻法で直きによくなつたことを知つてゐるばかりです。

みんなは非常によく、羞づかしくなるほどわたしを世話をして呉れてゐます、しかし、それにも拘らず、クロロホルムを嗅いだ後の害はれた神経で、殊に手術が濟んで十五分して着いた貴女の手紙を受け取つた昨日、わたしはどんなに貴女にこゝに來てゐて貰ひたかつたか知れませんが。

痛みは直きに去りました、それで夕方には唯だクロロホルムの匂が残つてゐるので氣持ち悪く具合悪いだけでした。その夜わたしは非常に歩きだしたり仕事をしなくてはなりませんでした。ペーチャをエシヨーフスキイの<sup>1)</sup>ところへ書物を取りにやりました、するとベルファイリーフ家の<sup>2)</sup>人達がペーチャから手術のことを聞いて、若夫婦と老人夫婦と四人で、来て呉れました、ワーセンカは<sup>3)</sup>タンボフでオルリツヂと一緒にマクベスのスコットランド王を演じたのです、そしてナスターシヤ・セルゲーエヴナがスコットランドの衣装と附髭をしてゐるワーセンカの寫眞を見せました、この寫眞からセリョーヂヤの爲めにその内ボームガルテン嬢の<sup>4)</sup>と一緒に焼増を作りたく思つてゐます。わたしはセテパン・ワシーリエキツチに十二年の話を見せて、ベルファイリーフ家の人々を自分のために非常に愉快地に利用しました。

夜はよく睡れました、そして今朝ボボフの助手のガークが来て、繃帯をかへしましたが、次ぎのやうに言ひました、手の状態は非常によくなつてゐるが、しかし矢張り肩の骨が突出してゐるから、自由<sup>1)</sup>に動かすことは出来るが、左のやうにはいかないものと思はなければならぬといふこと、手を動かさずに繃帯をしてゐることが——第一の要件であること、二週間後には歸宅し得るであらうこと、一般に手の状態は以前よりも遙かによくなつたとのことです。後から来たボボフもそれを肯定しましたが、相變らず曖昧です、ガークとボボフがこれからも来て呉れる筈です。昨日はわたしは何も喰べませんでした、今日は非常に食慾があつて、非常に氣分が爽快です。昨日アドレス無しにルドニ



上圖 一八二八年八月二十八日トルストイの生れた家。その  
當時はヤースナヤ・ポリャーナにあつたが久しい以前に賣  
却されて近くのドールゴエ村へ移されて現存してゐる。

下圖 モスクワに於けるトルストイ邸。

エフの家へ電報を打ちましたが、着かないのではないかと思ひます、今日他のを貴女に打ちました。神経は未だ全く恢復してゐません、それで今日はリーザが筆記するからと言つて呉れましたが筆を執りませんでした、ターニヤに就いてはわたしは彼女がどんなにやさしいかと言ひませう。お父さんは、わたしに宛てた貴女の手紙を読んで泣いたと言つてゐます、わたし自身もやつと堪へたのです。只今貴女の大きな小包を受取りました。さよなら、手紙をください、そしてわたしのは毎日ツラへ受取りにやつてください。貴女自身のこと、子供達のこと、書きたいこともいろいろありますが、これは自分で言つたり書いたりすべきもので、書き取つて貰ふことは具合が悪いから控へます。可愛いゼヒロート達、それからマーシエンカとセリョーヂヤを接吻します、多分彼は、貴女が葡萄酒を注文されたから、貴女の許にゐるものと思つてゐます、そしてセリョーヂヤとマーシエンカに、何か貴女のところで起こつたら直ぐに電報で知らせてくれることを希望し、願ひします、さうしても何もならぬかも知れませんが、しかしその代り電報が来なければ、わたしは安心してゐられるでせう。伯母さんの動くことの出来るお手を接吻します、今のところわたしは手がよく動くことを思はないでは何

1) 教授。

2) 憲兵隊の將官エス・ウエー・メルファイリーエフの家族。

3) ラシリイ・ステパーノキツチ・メルファイリーエフ、後にモスクワ縣の知事、レフ・ニエラエキツチの友人。

4) アラビヤの男装をして寫眞を取つたトルストイ家のワリーヤ、リーザの二人の姪達の家庭教師。



事も想像することも語ることも出来ません。

灰色の廣袖を着てゐる貴女を子供部屋で、帷の蔭で、接吻します。

二四

十二月一日

健康は大變いゝ、しかし——肝心な——手は疑問です。今醫者が來ました、手術後三度目の繃帯をかへました、少しも動かすことを許しません、利くやうになると保證してゐますが、しかし骨は以前よりもよい状態にはあるものの、矢張り元の場所にならないことを認めてゐます。わたしの良心は平靜です。わたしは出来るだけのことをしたのです、そしてもうそれについて考へるのも話すのも倦倦しました。これからわたしの生活について書きます。

昨日の様子はターニヤが貴女に書いて呉れました、何故わたしが書かなかつたか、自分でも解りません、多分、疲れてゐたからでせう、その上終日すべての者にとつて、祝日であるに拘らず、重苦しい退痛な日でした。訪問するほどの者は、デイヤーコフも、ベルファイリーエフのワーレンカも、サーシャ・クラブフェルシュミットも——皆な好い人達で同情を表して呉れます。しかし何故か知りませんが——退痛であるばかりでなく、重苦しいのです、彼等と一緒に罰を受けてでもゐるやうな氣がされます。わたし達には家は必要がなく、子供部屋だけで充分であることがわたし達の生活で解つたやう

に、同様に人生に於ても、わたしが大人になつてからは、最も親しい人々の五六人の他には誰も必要でないのを知りました。わたしは何時も、わたし達がリュポビー・アレクサンドロヴナについて、大變いゝ人だけれど、何だか氣に喰はないなぞと噂し合つた時、いつも羞づかしい不快な氣がするのでした。しかしこんど訪ねて來て、殊に昨晚、皆なが歸つた後で、わたし達は非常によく話し合つたのです。わたしは彼女が非常に好きになれました。いろ／＼な話——彼女の若い時分のこと、シヤアの話のこと、貴女達みんなのこと、彼女の結婚生活のことを話しました、そして彼女の眼は特別の輝きをもち、非常によかつたのです、嚴格に審くのはわたしも貴女も甘やかされてゐて、余りにも善良な人々に圍繞されてゐるからなのです、が彼女は非常に、非常に美しいやさしいそして特に賢い婦人です、以前からわたしはさうではないかと思つてゐたのでした。

アルムフェリドよりも、ブランマンジエや騒動や、ニコライ・ボグダノキツチ（アンケ）よりも、一番愉快だつたのは昨日、わたしがターニヤとベーチャと一緒に増築をした別館の方で、サーシャ・クラブ・フェルシュミット!!（切れ／＼に）大聲で繰返した事です。とは言へサーシャ・クラブ・フェルシュミットとピョートル・ガヴリーロキツチと乳母とそれから多くのものは殊に不思議に愉快です、それは貴女が娘であつた時分のことを、許嫁であつた時分のことを思ひ出させて呉れるからで、このよき感情は貴女と別れてクレムリに來て経験した二度目です。わたしは冗談ばかり言つてゐますが、貴

1) 十一月三十日、わたしの父の名命日。

女はどうしてゐますか？ 貴女の大きな封筒を受取つて以来、わたしは何も受取りません、そして時々貴女がゐないので寂しくなります、この二日筆を執らないものだから尙更です。わたしは昨日ターニヤに、わたしがどうして貴女や子供達と別れてゐることを容易に忍ぶことが出来るか（わたしは併しながらこの場合、まだ少し、か彼等を愛してゐないのを感じます）、——それはわたしに物を書くといふ仕事に對する不斷の愛と配慮とがあるからだといふことを説明しました。若しこのことが無かつたら、わたしは決して一日も貴女なしにはゐられないであらう事を感じます、貴女は解つてをられると思ひます、何故ならわたしに取つて執筆は、貴女にとつての子供達でなければならぬから。

ターニヤは絶えず指を眼に當てゝゐます、そして何だか可笑しく、或る時はひどくはしやぐかと思ふと、突然昨日のやうに神経的に樂しげに泣くのです。クラヴヂヤが十六で子供を産んだ娘を引取つたマリヤ・イワーノヴナの話をした時、——彼女は突然激しく泣き出しました。リーザは自分の絶えざる活動と義務の自覺とをもつてわたしを驚かしてゐます、英語を勉強したり、翻譯をしたり、子供達や、わたしや、それからお父さんやの世話をしたり、けれどどうも具合が悪くて感心しません。アー・エーは絶えず病氣を苦にして、苛々してゐます、それは確かに家庭で余り彼を嚴格に判断し過ぎます、彼は疑深いですが、しかしあの管をつけてゐるのは非常に愉快なものではありません、しかしこの頃はリュポビー・アレクサンドロヴナは大變彼によくしてゐます。

わたしは何時も稱讚に對して讓歩しがちです、ですから公女マリヤの性格に對する貴女の稱讚はわ

たしを非常に喜ばしました。しかし今日わたしは貴女が送つてくださったもの（全部淨書されたもの）を読み返へして見ました、そしてわたしにはそれが悉く醜惡であるやうに思はれました、わたしは無駄を感じました、二三箇所訂正をし、消したいと思ひましたが——出来ませんでした、何れにしても今日は自分の才能についてすつかり悲觀して終ひました、昨日リーザに恐ろしい囁語を書取らせたので尙更です。わたしはこれが一時的な氣分で、直ぐよくなることを知つてゐます、多分、神経がクロホルムを嗅いでからまだしつかりしてゐないのと一般に胸部を緊縛してゐる爲めに異狀を呈してゐるのでせう。しかし貴女はわたしが病氣だなんて思はないでください、食慾もあり熟睡もします、明日はきつと、歩るか馬車に乗つて、清い空気を吸ふために散歩をしませう。それにしても今日は何もまだ貴女に書きませんでした、それに何も、全く何もなかつたのです、久しく忘れてゐたゴーゴリの懺悔とフランス語の隨筆を読みました、それからスラーヲチカと遊びました、とても可愛らしいのです。しよつちゆうお話ししてつてせがむのです、それでわたしは、男の子が胡瓜を七つ喰べました、といふやうなことを話します。すると彼は繰返します、『お母さん昔々男の子がありました、そして彼は胡瓜を七つ喰べました、ハツ、ハツ、ハツ……』彼等のための疑はしいフランス人はわたしは非常に嫌ひです、彼は全くラポルデテの類です、しかし仕方がありません、彼は必要なのです、わ

1) わたしの兄弟達の乳母の娘、産婆。

2) 銀の管が父の咽喉に手術後、咽喉の麻痺のために締め込まれてあつた。

3) 二つになるわたしの兄弟のギヤチエスラーフ。

たしはそれを認めます、夫の助力なしに四人の子供を教育しなければならぬ氣の毒なりユポーヒ・アレクサンドロヴナには、今が一番手の入る時です。哀れなスチヨーバは何時か打たれてばかりゐます、ラボルデテまでが彼を小突くのです——でも平氣です。スチヨーバが部屋へ這入つて来て、そしてそこに知らないお客が見えてゐると（これを彼は昨日スホーチンとディヤークワにやりました）、彼は非常に熱心に足をさら／＼させます、それで客は特別に氣持のいい微笑を泛めてお辭儀に答へなければならぬ必要を感じます、そしてそれでも彼から放免されたものと考へてゐます。しかし直ぐにスチヨーバはまた一層しつこく故意とさら／＼させるのです、まだ何かを待つてゐるやうに、お客はもう一度微笑します、彼はまた足をさら／＼やる、それで部屋にゐるものが皆な羞づかしくなります。ズホーナンに彼は昨日やさしく接吻させて終ひました。

では、さよなら、やさしい友よ、恐ろしく下らないことばかり書きました、貴女はこれどころではないでせう、しかしわたしについての貴女の心配はもう消えたことと思ひます。皆なを接吻します。註文に貴女はお茶を忘れました、わたしが買つてゆきます、残りのものはお母さんが買つてくれます。プラマプトラは値切りしました、持つて歸ります。小説に對して今度うけ取る金はベルス家のへ入れて置きます。ヤコフはどうしてゐます？ 病院から逃出したなんて何といふ馬鹿だらう、注意を怠らぬやうになさい。家畜の方はどうですか？ 流行病はありませんか？ アンナ・ペトロヴナは疲れてゐませんか？ 娘の結婚で氣を使ひ過ぎませんでしたか？ 元氣をつけてやつて、仔牛と豚に食

物を澤山やるやうにしてください、それから村長には、特に家畜小屋を清潔にして置くやうに、でないと一年間の苦心が二週間で水泡に歸することがあります。さよなら、散歩をなさい、ゼヒロート達を連れて兎を見にいらつしやい、それから毎日ツーラへ使ひをやり、わたしに手紙をください。

二五

十二月二日

やさしいわたしのソーニヤ、今日夕方に貴女の悲しい手紙を受取りました、それで貴女の方のこと以外には何も書くことも考へることも出来ません。わたしは一と晩中貴女の夢ばかり見ました、そして絶えず恐怖に驅られてゐます、何よりも氣を落してはいけません、絶望してはいけません、腹部を温めておやりなさい、藥を飲ましてはいけません、醫者をお呼びなさい、必ずお呼びなさい、彼の藥を飲ませる爲めではなくとも、希望を持ち彼の慰めを聞く爲めにです、わたしはそれが必要であるのを知つてゐます、きつと迎へにおやりなさい。しかし最早遅すぎるかも知れません、今日でもう四日経つてしまつたのですから。わたしは直きに歸ります、貴女なしに生きることは出来ません、しかしわたしはわたしを苦めてゐる下痢<sup>1)</sup>がどうなつたかを知らないでは出掛ける氣がしません。天然痘は恐るゝに足りません、皆なもさう申しました。何か起こるかも知れないと思ふと、恐ろしくなります、それでなるべく考へないやうにしてゐます。わたしを慰める一つは、貴女の手紙の調子から判斷し

て、貴女が苛々してゐられるに相違ないことです、それでわたしは貴女自身が誇張して考へてゐると思つて自分を慰めてゐます。最も悪い情態にあるものと信じたとしても、電報を打つて呉れれば、わたしは安心するでせう、併し今は——違ひます、何の爲めに不幸を急いで知らせることがあらう、何時も余りに早く知ることになると言はれるに相違ないことをわたしは知つてゐます。どんなことがあつても、直ぐに知らせて呉れるといふ固い約束をしてください、でないとも生きることが不可能です、『生きる事が不可能です！』

貴女が手紙を受取られないことにはわたしに罪がありません、到着した第一日から、わたしは手術をする前の一日だけを抜かしたに過ぎません。今朝わたしはターニヤにすこし書き取らしました、小説の爲めの書物を読み、編集局から借りた書類を調べたりしました、これはスホーチンの世話で家へ持つて来て貰つてゐます。しかし材料が豊富であるに拘らず、或はこの豊富の爲めか、わたしは全く取り止めがなくなつて少しも書けない氣がします。わたしは強いて筆記させました、しかしターニヤはスケートへ出掛けてしまひました、醫者からも許しを得てゐたので、わたしは、皆なのところへ行つて見ようと思ひました。しかし繻帯と外套が非常に重苦しく感ぜられて、やつとモホワヤ街迄で行つて返つて来て終ひました。わたしの留守にポポフが來ました、しかしわたしはそれを別に遺憾だとも思ひません、彼は必要でなく、今ではもう何もすることが無いのです、繻帯をかへるだけでこれは彼の助手のガアクがしてゐるのです。わたしは彼に三十ルーブル送りました、ですからもう來ないだ

らうと思つてゐます。晝の食事間近にオボレンスキイが來ました、そしてわたしは彼が誰に戀してゐるのか解りません、唯だ何かあることは確かです、それに彼は非常におとなしい少年で、デリケートで素直です、がこれはもう大なる資格です。夜貴女の手紙を読みました、そして寂しくなりました、ターニヤとベーチャと三人で商店を見て歩きました、月のあるいゝ晩です。貴女はこのいゝ夜をどう過しましたか？ 健康でしたら馬車を驅つたらよかつたと思ひます。歸つたらお祖父様に會ひました、彼はいつも變りません、しかしわたしは以前彼がわたしに對して持つてゐた權威が全くなくなつてゐるのを悲しく思ひます。彼は髭を生やしたコスチエンカ<sup>2)</sup>の寫眞を持つて來ました、でわたしは非常に見たいと思つてゐますが、それはまだ片付けられないカバンにあるのだとのことです。——今わたしは若し貴女のところに不幸があつたらといふ考へを非常にはつきり恐怖をもつて思ひ浮べました。わたしは昨日貴女にあんなにも冗談な手紙を書きました——それで同時に一種夢の中で、望んでゐてもそれが掴めないやうな重苦しい感がしてゐます。

——次ぎに弱々しい、病氣の手でレフ・ニコラエキツチ自身が書いてゐる、——

さよなら、わたしのやさしい愛する者よ。すべてを書取らせることは出來ません。わたしは貴女を非常に深くこの日頃あらゆる愛情をもつて愛してゐます。わたしのやさしい友達。そして愛すること

1) 幼い息子のセリョージャの。

2) わたし伯父、コンスタンチン・アレクサンドロキツチ・イスラキン。

が多ければ多いほど、恐怖を感じます。

——それから再び筆記になつてゐる、——

どうぞ、電報を打つといふ約束をしてください、手の繻帯がとれれば直ぐ、それは五日後でせうが、わたしは飛んで歸ります、少しでもよくなれば、こゝには留まりません。これから毎日馬車に乗り馴れる稽古をします、馬車で除行すれば害がある筈ありません。こちらでは皆なやさしくして呉れます、そして丈夫です。皆なを接吻します、やさしいゼヒロート達には明日返事を出します、また手紙をください、やさしいゼヒロート達、お願いします。

二六

同じ頃（日附なし）

愛するわたしのソーニヤ、わたしは今、憶えてゐるでせう、貴女にあんなにも涙を流させ、そしてわたしにあんなにも後悔させたアクサーコフのところへ行つて来ました。わたしが馬車で着いて、そして貴女がわたしを迎へに飛出して来た時のあの感情をわたしは如何に記憶してゐる事でせう、わたしにはこゝでは貴女を思ひ出させるものだけが嬉しいのです。貴女がボクローフスコエでニール・ポーフ<sup>2)</sup>と階段に坐つてゐる、そしてわたしが、さり気ない風を装ひながらも力の限り嫉妬して、そして今とはまるで違つた様にはあるけれど愛してゐたあの美しい頃を今再びアクサーコフはまさしくとわ

たしに思ひ出させました。わたしは昨日劇場でこのことを貴女の愛するアネートチカに、彼女がわたし達の坐席から出たときに話しました。『貴女はほんとうに幸福さうですよ、』——すると彼女は廊下で、案内者や他の人達がゐるのも構はずくりとわたしの方を見て『何んていゝでせう』つて言ひました。可愛らしい人です。わたしは彼女に幸福の過去ののを恐れてはいけません。お互に愛することがなくなるであらうが、その代り増々深く、今とは違つた風に、愛するやうになるものだといふことを言つてきかしました。これは實によく出来てゐるのです、いつも同じやうに愛してゐたら倦々してしまふでせう。

かうしてアクサーコフはわたしに過去を思ひ出させました、オーストリアのことを聞きに行つたのですが、そこから来てゐるニール・ポーフに訊く方がいゝと言ひました。わたしはどうかして彼に會はうと思ひます。——二日續けて貴女から手紙を貰ひました、それで気が軽くなつて落着いてゐます。やさしいゼヒロートの——リーザを連れて散歩に行かれる貴女は、お伶俐さんです。今貴女と一緒にゐたらどんなに幸福だらうと思ひますが、歸つてゆけば、多分また壺のことかなんぞで口論する

- 1) 以前レフ・ニコラエキツチに連れられてのモスクワへの旅行の時に、彼は夕刻イー・エス・アクサーコフを訪ねて、それから一緒に歸宅する爲めにクレムリンへわたしを迎へに立寄る約束であつた。アクサーコフの所で話し込んでしまつて、レフ・ニコラエキツチは朝の四時まで姿を見せなかつた、そしてわたしは非常に不安になつて、レフ・ニコラエキツチの上にいる／＼な不幸を想像して泣いてゐた。
- 2) モスクワの大學の歴史の教授。

んぢやないでせうか。しかし今度は多分しないでせう。手のことでは悲しい報道を貴女にしなければなりません。ポポフとガアクが昨日、わざ／＼一緒に来て、繃帯を取つて見ましたが、多少骨が離れてゐるのは認めるが、手術のために非常に効果があつたとは認められないと言ふのです。彼等は再び百の中一つ成功するくらゐのものだといふことを繰返しながら、もう一度やつて見ることを勧めました。それでわたしはどうしていゝか迷つて終ひましたが、イノゼムツエフとわたしに話してくれた有名な接骨醫の息子であるチャーエフとに相談することにしました。今朝イノゼムツエフを訪ねました。彼は最初すこしも脱骨などは認められないと言ひました、それからわたしには内部に病氣があるといふので、それを彼は擴大鏡でわたしの舌を覗いて発見したのです、それから繃帯をしてゐるやうに言ひました、そしてもう一度手術を受けるやうにと言ひました。彼は全く氣遣ひです。家へ歸ると、ウンドリヒが来てゐました、この者は決して繃帯をしてはならぬといふのです。實にわけが解りません！ 二時頃ネチャーエフが来て、直すことは到底出来ないと言ひました、風呂で蒸して、沃度を塗り腕の下に軽い繃帯をすることを勧めました、この方法で大抵よくなるであらう、大体利くやうにならうと言つて呉れました。彼の方法はどれも害にはならないから、わたしはそれをやつて見ることにして、これから風呂へ行かうと思ひます。わたし自身はまだ貴女を右手で抱へて貴女を辱しめる者を左手で突飛ばすくらゐ出来るつもりでゐます。今はまだ折れた爲めに腫れてゐるし弱つてゐます。手は全く利きません、そして觸られると痛みます。それにカトコフからまだ原稿も金もどちらも

受取つてゐませんから、來週の終りまでは滞在しなければならぬかと思つてゐます。書く方はこの頃ちつとも進みません——書けないのか、暇が無いのか、しかし大分準備はしましたし、またする意りでゐます。

——次に再びレフ・ニコラエキツチの覺束ない手蹟で書かれてある。——

さよなら、やさしいわたしの友よ。どんなにわたしは貴女を愛してゐるか、そしてどんなに接吻するでせう。皆なよくなります、若し貴女がわたしが貴女を愛してゐるやうに愛してゐてくだされば、わたし達には不幸はありません。可哀さうなそしてやさしいターニヤはいつも沈んでそして泣いてゐます。貴女の仰しやる通り、彼女とリュボービ・アレクサンドロヴナが一番いゝし、わたしも二人を非常に愛してゐます。

十二月七日

今日は貴女の機嫌の悪い時に書かれた手紙を受取りました。しかし、それでもわたしには喜びです、慰さめです。晴れやかさと、やさしさと、それから貴女がこの手紙を書いた時のやうな——それは時々貴女に起つて、それを、わたしがいつも生理的な原因に持つて行くので、貴女がいつも腹を立てられるその氣持の動き——例へばわたしの出發近くに突然嫉妬を起した時の貴女のあの氣持の情態

以外にはわたしは貴女を想像することが出来ません、しかし、わたしは遠くからさういふ貴女をさへ愛してゐます。

只今ワシーリイ・イスレニエフ<sup>1)</sup>が立ちました、彼は善良な若者らしく單純なやうですが、しかし彼の裡には何物かあつて、多くの恥づべき穢らしいものを心に隠してゐるやうに見えます、さういふ印象を彼はわたしに與へます、そしてわたしを苛立たせるのです。彼の外に、こゝにはアルクサンドル・ミハイロキツチ<sup>2)</sup>がゐますが、これは實に不愉快です、彼がこゝへ來てから、わたしは尙一層こゝにゐるのが辛い氣がしてゐます。貴女を欺く事になるのを恐れますが、一週間後には必ず貴女と一緒の子供部屋から二階へ引越しをさせよう。昨日と今日と風呂に行きました、そしてネチャイエフの言ふ温浴と、塗布と繻帯とは手に氣持のいゝ、それが全く健康であるやうな印象を與へます。風呂で、湯の中に坐つてわたしはそれを殆ど健康な手のやうに上げて廻します。毎朝アレクセイにそれを上げさせるのですが、全く苦痛なしにすつかり上まで舉がります。ですから、若し筋力が力づけば、これは皆な保證してゐて呉れるのですが、わたしがそれを自由に動かせない理由はあります、唯だ上へ舉げる場合に右の肩が左のよりも余計に高く上がる相違があるばかりです。

今ターニヤに話したばかりですから、貴女にも羞づかしいけれど申さねばなりません、それはわたしが最近この三日間はなほ道徳的に墮落したといふことです、何もしいないので、必要な圖書館へも行かず、小説のことでカトコフのところへ相談にも行かず、朝から晩まで部屋をぶら付き歩いてそ

して面白くないアレクサンドル・ミハイロキツチの冗談を五十遍も聞いてゐるのです。すべてこれは、多分、いゝことなのでせう、しかしこゝではわたし一人では、つまり貴女がゐないでは、一層こらへられないのです。明日から嚴重にやつて、書けないまでも、すべての必要な仕事の片を付けることにします。月曜、火曜、水曜には風呂へ行き、ネチャイエフを呼んで今後の注意を與へて貰ひます。木曜と金曜は滞在して、土曜に出發します。

——次に再びレフ・ニコラエキツチの覺束ない弱々しい手で書かれてある。——

日曜には可愛い貴女を抱くことが出来ませう、たとひ左の手でも、抱きます、そして接吻します。ターニヤに書取らせるのはどうも具合が悪いのです、わたしは思つた通りを書き取らせるのですが、いつもどういふものかほかへ逸れてしまひます。それにわたしにはまだもう一つの悲しみがありますが、わたしは筆を執ることに冷淡になり始めてゐます、——貴女は、貴女の何でもない興味から云はれたことが、わたしの眞實に觸れてゐる事を想像することが出来るでせう——出来るだけ直しましたが、全く歴史的なところへ來ると筆が滯つて進みません。手のせいだと思つてあきらめてゐますが、それがまた疑はしくなりました。ですから嫌になります……。

——次に再びレフ・ニコラエキツチはターニヤに書きとらせてゐる。——

- 1) わたしの母の従兄弟。
- 2) わたしの祖父イスレニエフ。

手術の後、繻帯をして歩いてゐた時は、急にいゝことがあるやうな気がされてよかつたのですが、しかし思ひ掛けない幸福が来ないながら、わたしはまだ矢張り静かによく待つて行くのを待たなければならぬその辛抱に馴れ切らずにゐます、わたしが子供達のことを、セリヨージヤとターニヤのことを書くことがすくないとしても、貴女はそのことでもつて、彼等の情態がわたしに興味がないのだと判断なすつてはいけません、その反對に、最も小さなことまでも彼等のことを知りたく思つてゐるのです、が今日の手紙にセリヨージヤがまた下痢を起こしたとありますが、それがどの程度であるか詳しくは書いてありません。

今日、午前中に、一時間ばかりターニヤに筆記をして貰ひましたが、しかしよくありません、——冷静で、昂奮がないのです、が昂奮がなくてはわたし達の作家の仕事は運ぶものではないのです、それから皆なスケートに行きました、そしてわたしはお祖父様とベンチに坐つて、ターニヤとペーチャの上手になつたのを眺めてゐました。晝の食事の後——だらけてゐる證據ですが——二時間ばかりカルタをやつて不幸なアレクサンドル・ミハイロキツチからハループル勝ちました。それから風呂、ぎごちないワシーリイ・ヴラチミロキツチ、不快なお祖父様、活動的なリーザと泣き虫のターニヤ、それから寝てゐるペーチャ、それから貴女と子供達のそばを離れてゐる時の何の役にも立たない貴女の夫、わたしは今それを感じてゐます。マーシエンカに手紙を呉れたお禮を申します、そして接吻します、わたしは明日返事を書きませう、ゼヒロート達にもさうします。気持ちの整つてくれることを希望してゐます。

二八

この後の手紙は凡てレフ・ニコラエキツチの自筆で書かれてゐる。

十二月八日

昨日貴女のいゝ手紙を受取りました、やさしい友よ。定期的に晝食の後に郵便配達がベルを押して貴女の手紙を持つて来て呉れることがもう今日で四日続きます。若しセリヨージヤによくない事があれば、貴女が直ぐに知らして呉れるといふことにわたしが決めてゐることを忘れないでください。彼は胃カタルに相違ありません。その手當としては、攝生、温浴、流動物、牛乳とスープです、それからアーエーが非常に仔牛の足の肉とサゴの實を勧めてゐます。サゴの實はわたしを持つて歸ります。昨日わたしは貴女にわたしの計畫について、わたしの手について、こちらにゐるわたしの憂鬱について書きました。今日も全く同様です。日曜に貴女の許にゆけるでせう、手はアレクセイに一日二回ほど動かして貰つて、繻帯をしてゐますが、これをしてゐると大變樂です。仕事は何も手に着きません。——昨日の朝アフロラ・フロイドといふ作家のイギリスの小説を読みました。わたしは未だ讀んでゐないこの種のイギリス物を十冊買ひました、貴女と一緒に讀むことを空想してゐます。それで貴女がリーザと一緒に英語を勉強され、ばい、と思つてゐます。それから再び不快なアレクサンドル・ミハイロキツチに、エカテリナ・エゴロヴナに、リーザがゐるので、落着いて本を讀むことさへも



出来ません——場所が無いのです。漸く食事前に散歩に行きました、日曜なので図書館へも、買物へも行くことが出来ませんでした。食事の後に再び、わたしはカルタを手に取りました、そして七時には劇場へ行つて『皇帝に捧げた命』を見ました非常にいいものですが単調です。劇場には日曜日の看客だけで、従つてわたしにとつての觀察の興味の半分が無かつたわけです。しかしその代り、歸つて見ると、わたし達——非常にやさしくつて氣持のいい、リュボービ・アレクサンドロヴナ、リーザ、ターニヤ、それからベーチャだけでした。それは何故か非常に愉快でした。思ひ出に耽つたり、議論をしたりしました。ターニヤは高い、高い塔の上に、ギターを持つて住んで見ただけだと言ひます。リュボービ・アレクサンドロヴナは塔の上でも喰べることが必要だと申しました……、そしてターニヤは神経質に樂しげに、坊さんの娘の話をした時のやうに、サメムと泣きました、それからわたし達は寢にゆきました。

その他に、ベーチャと寢てから取りとめもないことを話しました、わたしは、たとへ妻が嫉妬深い性質であらうとも、良心を清める爲めにはわたしがアンノチカにした恐ろしい行爲を自白しなければならぬことをベーチャに話しました。フロツクを脱がうとしてわたしが手を振り廻した時に、彼女がそばを通つて、その手が彼女の胸に當りました。わたしはどんなに貴女がいつもの嫌な顔をされるかを想像出来ます。……あゝ、ソーニヤ、直きにこれ等の五日は過ぎさるでせうか……。良心を清める爲めにわたしは蒸して軟くなつた手をネチャーエフに見せたいと思ひます。

カトコフとリュビーモフからは返事も原稿も受取りません、遺憾です、それかと言つてカトコフの所へ行きたくはありません。アルヒヅには殆どわたしに取つて爲めになるものは何もありません。今日はチエルトコフとルミヤンツエフ図書館へ行つて見ます。わたしは非常に氣持が悪くそれに退席です、特にこの二日間さうなのです。どこかへ出掛けたらと貴女は仰しやるでせう。しかし、わたしはどこへも行きたくないのです。たゞ必要なことだけをしてしまひたいと思ふのです。——賢こさうなことを云つて惻口ぶるか、それともクレムリの部屋々々を、無爲に、うろ付くか、この二つの遊惰からどちらかを選ぶかと言へば、最後の方が、特にアレクサンドル・ミハイロキツチがゐない時は、遙かに結構です、わたしは貴女に申しますが、わたしは何故か彼が非常に厭はしくなりました、平氣で彼を見ることが出来ないほどです、それで故意と冷淡にするものですから、遂にわたし達の處へ寄らないやうになつてしまひました。彼は昨日五時に立ちました。貴女の家族のすべての黒い人達はわたしに非常にやさしく親切にして呉れます。リュボービ・アレクサンドロヴナは貴女に非常によく似てゐます。彼女は近頃ランプの笠を拵へましたが、貴女そっくりです——仕事にかゝると、もう離すことが出来ません。悪いところまでが貴女に似てゐます。わたしは時々、彼女が知りもしないことを確信をもつて話し始め、斷言し誇張するのを聞くことがあります、——そしてわたしはそこに貴女を發見します、しかし貴女はわたしにとつてどんな場合にも愛らしいのです。わたしはいま書齋で書いてゐ

1) 姉妹達の非常に老年の下婢。

ます、そしてわたしの前には貴女の四才の時の寫眞があります。わたしの可愛いソーニヤ、貴女が考へようとしてゐることはみんな貴女のお伶俐さんであることを示してゐます。それだからこそわたしは言ふのです、貴女は知的な興味に對しては無關心でなければいけません、大なる叡智を持つてゐます。そしてこれはわたしに親切であるすべての黒いベルス家の人々に於てさうなのです。黒いベルス達と云ふのは、リュボービ・アレクサンドロヴナ、貴女、ターニヤ、ベーチヤです、そして白いのは——残りの人達です。黒い人達の知識は睡つてゐます、——彼等はしようと思へば出来るのです、しかし欲しないのです、そしてその爲めに彼等には確信があるのです、時には變なこともあります、タクトがあります。ところで彼等の知識が睡つてゐるのは、彼等が強い愛を持つてゐるからで、それから尙ほ黒いベルス達の親であるリュボービ・アレクサンドロヴナが發達してゐなかつたことに據るのです。白いベルス達は知的興味に對して大なる關心を持つてゐます、併しその智慧は弱く微細です。スチョーバ一人でもわたし達すべてに多くの悲しみを與へるでせう。彼は何故か不良です、が彼の教育は彼自身よりもつと悪いのです。昨日家庭教師が問題になつた時、ターニヤと、ベーチヤと、ワローヂヤが一緒になつて家庭教師を攻撃しましたが、リュボービ・アレクサンドロヴナはベーチヤを除いて皆な學校へ上げることに決めてしまひました。でわたしは言ひました、『結構です、少くとも貴女の良心は落着くでせう。』これでは、父親がゐないのも同じです。わたしならば言ひます、『わたしが死ぬ時には、ソーニヤにセリョーヂヤを官立學校へ上げるように遺言するでせう。』がわたしにはそんなこ

とを言ふ必要はありません、貴女はお伶俐さんだからです。貴女は、よき妻として、自分自身のやうに夫のことを思つて來ました、がわたしは、貴女がわたしが斯くまでに苦心してゐるわたしの歴史的な戦争ものがあまりよくないだらう、他の——家庭的な、性格的なもの、心理的なもの、方がよいだらうと言はれたのを憶えてゐます。これは全く眞實です、そしてわたしは貴女がそれを言つたのを憶えてゐるし、貴女全體を憶えてゐます。そしてターニヤのやうにわたしは『お母さん、わたしはヤースナヤへ行きたい、わたしはソーニヤが欲しい！』と叫びたくなります。嫌々書き出したのですが全く違つた人間になつて筆を擱きます。わたしのやさしい心よ。唯だ貴女はわたしを、わたしが貴女を愛してゐるやうに愛してゐてください、さうすればわたしは何でもありません、凡てよくなります。これから仕事にかゝります。

## 二九

## その同じ日

朝書いたのですが、晩にまた書きます。今日は手紙が來ませんでした。どうかしたのではありませんか？ 貴女に會へる時が近付いて來れば來るほど、わたしは恐ろしくなります。こんなにも長く馴

- 1) わたしの母は十六才で結婚したのであつた、村で繼母と家庭教師のミミイと一緒に育つた。  
2) 『戦争と平和』に於ける。

れてゐた間にきつと何かと貴女の身に起こつてゐるに相違ない気がしてなりません。そして貴女にも打明けることが羞づかしいやうな考へに捉へられるのです。今日は朝から調子がよう御座いました。貴女に手紙を書き上げると直ぐ、庭からチェルトコフ圖書館へ参り、そしてそこで三時間ばかり、わたしの爲めに非常に必要な書物を讀んだり、將軍達の肖像を見たりしてゐましたが、それはわたしに非常に爲めになりました。そこでウワーロフ伯が一八〇五年に軍團を指揮してゐた彼の伯父の書簡を所有してゐるといふ話を聞きましたので、彼を訪問しましたが、不在でした。わたしのむかしの人は會つて呉れるといふことでしたが、しかしわたしは、勿論、上がりませんでした、わたしには退席であらうし貴女にしても不愉快なことだらうと思つたからです。家では變りありません、リーザはしよつちゆう働いてゐます、英語の勉強からドイツ語の翻譯へ、翻譯から子供達への課業へ、わたしは全く彼女に見惚れてゐます。ターニヤはどうして泣いてばかりゐます、可哀さうです、可哀さうといふよりも彼女を見てゐるとくさくさします。わたし達男は幸福です、若しわたしが愛すれば、實行することが出来ます、ところが彼女は耐え忍ぶか忘れるかしなければなりません、それが彼女にはどちらにも出来ないのです。

晝飯のあとでリーザに戦争の光景をすこし書取らせました、脈絡がないけれど、しかし悪くはありません。そして漸く筆が走り出した時に、風呂へ行くために中止されました。それからイギリスの小説を讀みました、バルテネフに手紙を書き、それから貴女にこれを書いてゐるのです、皆なはもう休

みました。明日はルミヤンツェフ公衆圖書館へ行つて見るつもりです、しかし晩には家で筆を執りません。若し明日もカトコフから返事がなければ、晝過ぎに彼のところへ行つて原稿を取りかへして來ようと思ひます。貴女は原稿を渡す際にわたしの氣持を理解してゐて呉れるので、ほんとうに嬉しく思ひます。かういふ點がわたしに取つては最も主要なそして最もよきわたしに對する貴女の秀れた愛の證據なのです……。

わたしは非常に貴女に會ひたい……。貴女の顔が見える氣がします……。わたしは不思議な貴女の夢を見ました。貴女が水に溺れてそして再び蘇生した夢でした。手は同様の状態です、繻帯をしてゐれば痛みません、そしてわたしはよくなる希望を持つてゐます、それは、實を言ふと、自分が健康の時には、そのことを考へてゐないので、元氣のない時には、それがまた非常な損失であるやうな氣がされるのです。さよなら、愛する者よ、まだあとにイワン・イワーノキツチに書かなければなりません。まだ五日あります。

## III

十二月十日

1) ヒョートル・イワーノキツチ、ゲー・アー・チェルトコフ圖書館長、後に『ルスキイ・アルヒーヴ』誌の發行者。

今日で二日貴女に手紙を書きませんでした、つまりまる一日抜かしたわけです。今日は早朝にこれを、十二時までの郵便に間に合ふやうに、書いておきます。わたしが書かなかつた譯は、四日續けて規則的に貴女の手紙を貰つてゐたのに甘やかされてゐたところ、二日それを受取らないので、非常に不安になつて、家を出る時にはいつも『わたしの留守に何か恐ろしいことを知らして来る電報が着くのではないか知ら』といふやうな氣がしたからです。ところが昨日突然ばら色のと大きいのと二通貴女の手紙を受取りました。二通とも大變よく書いておきます、わたしは再び元氣をとり戻しました。再び幸福にそして直きに貴女に會へるのだといふ氣がして來ました、それも明々後日です。出發まで延ばして來た仕事は山のやうに溜つてしまひました、カトコフのところへも行かねばならず、ポポフのところへも行かなくてはならない、買物をしたり、書物も買つて行かなくてはなりません。考へても見てください、カトコフのやつは二週間も原稿を留めて置いて、讀んでゐないので、今晚まで待つて欲しいと申しました、わたしは今日彼のところへ行つて怒鳴つてやらうと思ひます。一昨日と昨日とわたしはターニヤに書きとらせたり、リーザに書きとらせたりしてすこし書きました、氣分もよろしいです。手は段々よくなります、そしてわたしに希望を與へておきます。今日はポポフとガアクとネチャイエフに會ふ筈です、立つ前に最後の注意を聞きたいと思ひます。お茶は二種類買ひました、矢張り去年の通りです。貴女の家政は結構です、貴女がなさることは何でも結構です。非常に困難でそして非常に簡単な家事の一つであるフロンカから水を運ばせることも結構です。今にわたしが歸つ

て行きます、待つておいでなさい、アンナ・ベトロヴナ、わたしはもう一度ならずあなたの平安とお茶の時間とを台なしにすることです。

可愛いリーザはどうしたのですか？ もう快くなつて、マーシエンカも安心したこと、思ひます。

——昨日キリアム・テルを見に行きました。わたしは氣持よく二幕見ました、大變面白く感じました、あとは疲れてしまひました。そんなにセリョージャは床の上へ顔を押しつけて、アウーつて叫びますか？ 行つて見ませう。床の上へ貴女が寝られると聞いて、わたしは吃驚しました、しかしリュポーピ・アレクサンドロヴナが、彼女も矢張りさういふ風にしたと申しました。それでわたしは解りました。わたしは貴女が彼女の眞似をなさるのを好いてもゐるし、嫌つてもゐます。わたしは貴女が彼女のやうに本質的に善良であつて呉れるのを望みます、しかし貴女がもつと氣持が細かに働いてそしてもつと知識的な興味を多分に持たれることを欲します。それは全くそれに違ひありません。

明々後日、子供部屋のリノリウムを張つた床の上で貴女を抱擁します、瘦ぎすの、すばしつこい、可愛いわたしの妻を抱擁します。これから出掛けなければなりません。

1) 夜子供に乳を與へる時床の上へ取り落すのを恐れて。

ソーニヤ、わたしは非常に愉快です、それは貴女なしであり得るうちの最も愉快な心の情態です。わたしには今日三つの喜びがあります、一、わたしは朝風呂に行きました、そして、何時ものやうに、湯の中で自分の手を動かして、骨を、それがある筈の場所へ押し戻し始めました。想像して御覽なさい、驚いたことには、わたしは時として二三分も飛び出してゐる骨が、押すと、わけなく這人つてしまふのに気が付いたのです。押入れて置いて、わたしは手を上げて見ました。湯の中では樂に上がりました。わたしは立つて、やつて見ました、空中でも、わたしが非常に驚いたことには、それが肩の高さまでも、それからもつと高く高く、頭より高く上がるのです。それを、つまり骨を片方の手で抑へると、手は痛みも困難もなく上がります。この發見がどんなにわたしを喜ばしたか想像して御覽なさい、骨をこの状態に保つて置けばいゝ譯です。繙帯はどうもさうなつてゐない様です、のみならず、手を緊め付けます。明日ネチャイエフが来てくれる筈ですし、これがわたしに溫浴と塗布と繙帯を勧めてくれた恩人ですが、その後にもわたしは尙ほポポフのところへ行つて見ませう。局部を見せて今後どうしたらいいか決めて貰ひます。

この手紙は多分わたしと一緒に着くことと思ひますが、これを書くのは（わたしが非常に氣持よく、貴女と話をしたい以外に）、若しわたしが日曜に行かれなければ、それは手の繙帯か診察か、わたしを引留めたものと思つて貰ふためです。万一にも、さういふことにはならぬでせう。

二、喜びではありませんが、しかし愉快なことです、朝リュビーモフがカトコフのところから來ま

した、再び三時間ばかりも値切つて、遂にわたしに讓步させて終ひました、つまりわたしは彼等が徳をするやうに五〇〇刷りを許したのです（定價は讓步しません）、そして遂にわたしが鋭く彼に向つて、彼等は無作法だと怒鳴り付けるまでにしました。彼はすべてに同意を與へて歸つてゆきました、そして唯だ原稿をこのまゝ彼等の手元に留めて置くしだけ乞ひました。これでこの方の片が付いたことになります。

三、こんどは貴女の白色の、大きい手紙です。わたしの心よ、わたしは貴女の涙を嬉しく思ひます、それをよく、よく、よく理解してゐます。唯だ惧れてゐるのは、それに同情が混つてゐはしないか、そんな同情を起させるやうなことを、わたしがいひはしなかつたか、といふことなのです。

貴女がセリョージャの事を何時も書いてこないのを寂しく思ひます、そして下痢はもう止まりましたか？ わたしが彼等を愛してゐないと仰しやつたり考へたりしてはいけません。わたしの重なる希望の一つはセリョージャがすつかり丈夫になつてくれることです。それ以上の何事をもわたしは女妖術師に願はないでせう、唯だわたしが貴女を愛してゐるのと比較しては彼等を愛してゐないとも言へるでせう。

尙ほ愉快な、そして最も愉快な今日の印象はゼムチューニコフが訪ねて来てくれたことです、そしてわたしは、貴女の忠告に背いて、二三章彼に讀んで聞かせる約束をしました。そこへ偶然アクサ

1) アレクセイ・ミハイロキツチ、詩人。

六  
「コフがやつて来ました。わたしは彼等にイツボリートが『或る少女が……』と話をするとところまで読んで聞かしました、そして二人に、殊にゼムチュージニコフに、非常に気に入りました。彼等は『美事だ』と言ふのです。わたしは嬉しい氣がします、先きを書くのが一層愉快です。褒められるか或は貶されるかする時、非常に危険です、その代り強い印象を與へたことを感ずるのは有益です。この晴々とした愉快な感情に包まれてわたし達は寢室で氣持よく談笑しました。それからわたしが貴女に結婚の申込をした時に、貴女がわたしを待つてゐてくれたあの場所に置かれてあるテーブルで夜の食事をとりました、そして非常に生々との時のことを思ひ出しました。どうしてわたし達は思ひ出さずにゐられるでせう？ これ等のよき思ひ出を、未來の、又は現在の空想を。——わたし達が再び會ふ時、そしてわたしがさういふ場合いつも非常に美しくなる貴女の顔を見る時、どんなにうれしいでせう。わたしは貴女の吃驚した顔も、水色の着物も非常に好きになりました。わたしはターニヤにいつもこの場所を差示すのですが、彼女はまだ悟ることが出来ません。

伯母さんのお手を接吻します、マーシエンカ、ゼヒロート達、大きいセリョージャと小さいセリョージャを接吻します、しかしターニヤはまだ人間といふわけにいきません。若しかすると、わたしは自分でこの手紙を持つて行くかも知れません。

一八六五年

三二

1) 金曜日、四月或は五月。

十二時にニコリスコエから貴女に書きます。わたしは今ダイヤコフのところから着いたばかりです。初めから申しませう、ニコリスコエへはわたしは夜明けの二時に着きました。非常に疲れたところへ場所が變つたので長いこと睡られませんでした。十一時近くに目を醒ました。タチャナ・ドミトリエヅナがお茶を御馳走してくれて、晝飯の仕度もしてくれる筈でしたが、わたしはダイヤコフを訪ねることにしました。經營はよくいつてゐます、イワン・イワーノキツチも結構です。作物はこゝのはわたし達のところよりも遙かに良好です、しかし、二十デシヤチンからの砂糖大根が虫がついてすつかり駄目になつてゐます。わたしはこれまでニコリスコエでは燕麥が八〇〇チエトゼルチだと言つてゐました。こゝでは裸麥が五〇〇チエトゼルチに燕麥が四八〇チエトゼルチです。それで金額は豫想してゐたよりも遙かに多くなる筈です。二千五百に近いでせう。わたしはイワン・イワーノキツチがゐるで呉れるので非常に助かります。眞面目な、正直な、立派な男です。それで、わたしはイワン・イワーノキツチと打合せをして、庭園、家畜(皆なよろしい)を見て、

1) ドミトリエ・アレクセーエキツチ・ダイヤコフ、レフ・ニコラエキツチの親しい友達。彼の領地のチエレモーシニヤはニコリスコエから遠くなくつた。

デイヤコフのところへ出掛けました。十五露里よりもすこし近いやうです、デイヤコフのところは實に美しい家で、バルコンなどわたし達のポクローフスコエのよりも立派です、小徑には砂が敷いてあつて、圍ひが非常に美しく出来てゐます！ 何もかも素的です。彼の部屋へ通ると、四時なのに彼はまだ着物を着更へてゐませんでした。彼の妻は着いた早々から僕麻質斯を病ひ通して、マーシヤも今朝病氣になりました、すこし熱があります。彼女達が病氣であるところへ、彼女がまたひどく退痛がつてゐるらしく、彼もすつかりやつれてゐました。一體に憂鬱で陰氣です。彼は野原へは一週も出たことがありません。彼はわたし達のところへ招待された事を非常に喜んで、來たがつてゐます。彼の妻とマーシヤが快くなれば、(今日はもうすつとよくなりました)、彼は明日わたしのところへ來てくれて、そしてわたし達は一緒に歸ります。彼のところでは彼の憂鬱と經營に對する不熱心に似合はず、中々大仕掛にやつてゐます。わたしは何と言つても彼のところで非常に愉快に一日を過ごしました。しかし疲れ過ぎた爲めか、どういふわけか——分りませんが、少しも睡れず、非常に氣持が悪くなつてしまつて、その爲めに豫定通り——夜、又は早朝——歸ることが出來ず、貴女に手紙を遅らしたのもその爲めです。

只今ニコリスコエで仲介者の馬鹿者から返事を受取りました、測量師のところへイワン・イワーノキツチを遣りましたが、わたしも(寝て起きたら)林と野を通つて行つて見ませう。わたしを引止めるものは何もないと思ひますから、遅くも日曜の晝の食事までには歸ります。

今日わたしは何となく落着かないで、ひどく寂しい氣がしはじめてゐます、手紙が貰へたら非常に嬉しいでせう。わたしはすうつと誰にも腹を立てず、何物にも心を惹かれずに來ました、しかし陰鬱です、——天氣は増々悪くなるばかりです。さよなら、それでは寢にゆきます。<sup>2)</sup>  
わたし達は皆な一緒にニコリスコエで美しい生活をしませう。仕切りを付けかへて、それから……一つの部屋は下敷を張ればいゝのです。伯母さんの爲めにも部屋があるでせう、ターニヤにも部屋があります。歸つて、詳しく話します。

## 三三

一八六五年の夏、六月の末に、レフ・ニコラエキツチはわたしと子供達を連れて彼の姉妹のマリヤ・ニコラエヅナを訪れた、そしてわたしはその温泉で暮し、彼自身はキレーエフスキイのところへ狩獵に出掛けたのであつた。日附なきも當時の彼の書簡である二つの手紙の用紙には、ノチシリツオ<sup>3)</sup>フ家の領地『チーイン』の文字が印刷されてある。——以下五通——

- 1) デイヤコフの息女。
- 2) 家族は夏の一部をニコリスコエで過ごす豫定であつた。
- 3) 地主。

六月二十七日

ソーニヤ、これでわたしが何處から書いてゐるか解りませう。昨日遅くノラシリツオフ家へ来て、そしてどうしても今日の二時より早く立つことが出来なくなりました。老人はわたしに自分の逸話やわたしの十二才の頃の善良な、古い時代の話をして聞かせました。息子は息子で経営の方を見せて廻つてわたしを苦めました。農場と家とは男爵家の経営に幾何學的に反對してゐます。すべてが優美と虚榮のためです。庭園、亭、池、見晴し台、それは非常に美事です。しかしヤースナヤの方が優れてゐます。そして不思議でせう、彼の経営の様子がわたしにヤースナヤを綺麗にする氣を起こさせたのです。——貴女が好いてをられ、そして望んでをられるやうに——今日はどこへ行くか解りませんが、しかし泊らないで立つことにします。馬車とそれから人を返します。バラバンが病氣になつたからです。アリヨールで全部買ひとへのへます。わたしはこの日を面白く過ごせたのを嬉しく思つてゐます。實は途中でもう貴女のことを思つて恐ろしく寂しくなつてしまつたのです。かう言ふと滑稽ですが、出掛けると直ぐに、貴女を残して來たことがどんなに恐ろしいかを感じたのです。さよなら、貴女、おとなしくして入らつしやい、そして手紙をください。ピョートル・ペトロキツチが、これを書いてゐる間、そこらを歩き廻つてゐて、邪魔をします、そして言ひます、『わたしを伯爵夫人に御紹介ください』と。さよなら。

エル・トルストイ

(ノラシリツオフから用紙を貰ひました。)

アリヨールからまた少し書きます、今直ぐこゝを立つ筈です。シャプスイキノへは眞夜中に着くでせうから、宿屋へ泊らなければならぬと思つてゐます。わたしの健康は相變らずです、尤も片一方の耳が鳴つて不愉快で困ります。途中は退痛です。しかしノラシリツオフ家で過ごした時間は非常に愉快で面白い御座いました。

半靴を今買ひに行きますが、發送の間には合はぬでせう。發送したとしても、わたしより先きへは着かないでせう。わたしは増々寂しく悲しく、恐ろしくなります。キレーエフスキイにはわたしは多分會へないでせう、二十八日一杯彼の跡を追ひ廻すことになりませう。それで、二十九、三十、三十一と獵をすることになれば、わたしは全く満足するでせう、そして二日には歸ることが出来ます、しかしこれは唯だ豫定です。それが今朝行くことになりましたから、明日の朝は着くでせう。何れにしても五日には歸ります、それ以前になるかとも思ひますし、さう望んでもゐません。わたし達はこれまで、別れる前に今度ほど冷やかであつたことは一度もありません、その爲めにわたしは絶えず貴女のことを思つては心を痛めてゐます。さよなら、日記體にして書いてお置きなさい、歸つてからでも見

1) テリエキケ男爵。



ます。

エル・トルストイ

三

三五

六月二十八日

キレーエフスキイのところ、ドン・ファンの序曲を弾いてゐるオルガンの響を聞きながら、澤山の給仕人がウヨ／＼してゐる食堂でこれを書きます。途中で泊つたので、わたしは二十八日の到着きました。キレーエフスキイは雨の降るのを待つてゐてまだ出掛けませんでした。最初出掛けた時に何も獲れなくて、殆どフェットと同じやうに、獲物と一緒に少なくなつて行く水を頼りなげに眺めてゐるのです。彼は波形のついた奇妙なチョツキを着てゐます！非常に愛想よく、親切で、誰にでも觸りがよく、凡ゆる意味に於て單純です、併し正直な、善良な、常識の發達した人らしく、その境遇からも、金持である事からも容易に正直であり得たのでせう。彼は雨の降るのを待つてゐてあまり出掛けたりしませんでしたが、しかしわたしは三日の豫定で來たのを知つて、わたしの爲めに、明日出掛けます、酒と食料品が横づけにされた巨大な馬車に積みこまれ、鐵砲、獵犬、獵師が六人ばかり集められました、その中でもわたしに恐怖と尊敬を起こさせたのが——コステツキイ、これは世界第一の射手だといつてキレーエフスキイがわたしに紹介しました。わたし達は明日出掛けます、三十露里あるさうですから一日がかりです。従つてわたしに取つて獵の出來るのは三十日、三十一日、一日で

す、二日にキレーエフスキイ家へ戻れれば、わたしは三日にこちらを立つて、四日に歸ります。わたしの健康は良好です。これから夜食です。明日また書くことにしませう。貴女を接吻します。さよなら。

エル・テ

三六

七月一日

一日抜かしてしまつて、手紙を書かずにしまひました。貴女からは一本も受取りません。その譯も知つてゐます。わたし自身が悪いのです、宿所書きをアリヨールにして來たところ、キレーエフスキイのところへはカラチェフでなければいけないのです。今となつてはこの訂正は遅すぎます。アリヨールで、若しかしたら、貴女の日記が見られるでせう。恐ろしいです！しかし、どうぞ、四日に馬車をよこして呉れる時手紙をつけてください。前申したやうに、わたしは二十八日の朝にキレーエフスキイのところへ着きました。彼は既に起きてゐました。わたしは名前も用事も聞かれずに直ぐに部屋に通されました。そしてお茶にしませうかそれともコーヒーにしませうかと訊かれました。汚らしい給仕人達が玄關に群つてゐて、人が通る度に立ち上がります。彼は——常識的な、正直な、しつかりした人間で、非常な獵好きです。彼の話の四分の三は狩獵のことです。わたしは庭園をひと廻りしました。庭園はよく出來てゐますが、樹木が若く、何といつても貴女が知つてゐるモスタワ郊外の庭

七

園から見るとよほど落ちます。二十九日わたし達は朝飯の後ひどい馬具と馬を附けた七臺の馬車に乗つて出掛けました、しかしいづれも優れた犬と鐵砲で、それに如何にも堂々として勿體ぶつて行くところ、何か世界中で最も重大な仕事にでも出掛けて行くやうな気がします。四十露里さきの、わたしが貴女に話した森林の多い、荒涼たるブリヤンスク郡の境に着きました。

宿屋には部屋も臺所もすつかり仕度が整つてゐました。翌日わたし達は出掛けました、キレーエフスキイは近くで蠅を打つために（彼の言葉によると）残りまりました。——一行は退職龍騎兵のカザコフといふ若い男と、名人の波蘭土人コステツキイと、アンドレーエフといふ小地主と、キレーエフスキイの抱へ獵師の狩獵長と、それからわたしとです。わたし達は三十二羽とりました、その中わたしの打つたのが——八羽です。ドーラは異常な働きをしました、これは誰も認めました。ところがわたしが田鶴を覘つて、それを打ち落した際、ドーラの耳を傷けてしまひました。非常に可哀さうなことをしました。しかし危険は全くありません。昨夜はよく睡れませんでしたから、わたしは非常に疲れしました、しかし健康です、耳鳴りもしないほどです。今日も出掛けます、しかし實を言ふと——正直に申しますと——少しも行きたくないのです、しかしどう仕様もありません、こんなに遠くへ来てしまつた以上、出来るだけ利用しなければなりません。實を言ふと、わたしに取つてこゝで狩獵よりも大切なのは——この古風な狩獵の世界です。わたしは來たのを後悔してゐません。殊に家へ歸つて貴女と子供達を見、——微笑を泛べてゐる貴女、健康な、幸福な、靜かな貴女を見る時、どんなに嬉しいで

せう。この間中に貴女に何事もなくて呉れ、ばと願つてゐる許りです。それから、わたしは五日前に歸る約束は出来ません、しかし馬車はムツエンスクへ、ボグスライフでなく、ムツエンスクへ寄こしてください。四日でなく、二日に、直ぐに解るやうに、驛遞へ通じさせて置いてください。馬車の仕度をしてゐます、わたしも仕度をしに行かなければなりません。さよなら、貴女、お大切に。

エル・デー

三七

ツィラへ立つ前に。

わたしは貴女を起こしませんでした、多分寝てゐれば痛みも感じないこと、思ひます。わたしは十時に向ふを立つ意りですから、六時まへには歸れないでせう。若し何か面白いことが——非常に疑問ですが——あれば、晩もあちらで過ごします。わたしもおとなしいから、貴女もおとなしくなさい、セリョージヤもおとなしくなさい、泣くんぢやありません……。

わたしは立つ前に貴女を接吻したくつて、さつきからぐづ／＼してゐます。

夏ニコロリスコエの旅行先から。——以下四通——

三八

七

途中から。

田鶴を五羽送ります。わたしはまだフォミンカへ着いてゐません、カラムイセオの近くで打つたのです。喰べて、味はつて下さい、そして待つていらつしやい。自分の馬車で歸れるでせう。田鶴を届けてくれた者に二十コベツクやつてください。

貴女のエル・トルストイ

同

セルギーエフスコエへ向けて恐ろしい天氣を衝いて出發しました。この熱い、息づまるやうな風を貴女は想像し得ないでせう。わたしは死んでしまひさうに恐ろしくなりました。砂塵のほかに、煙がひどく、わたしはそれをセルギーエフスコエから六露里まで感じてました。雨が降り出して、冷たい風が出ました。わたしは一軒の百姓家へ避難しました、そしてセルギーエフスコエが焼けてゐるのを知りました。わたしが着た時には、火事はまだ最中でしたが、風が静まつたので、それ以上は擴がりませんでした。河のこちら側と向側とで五十戸以上焼けました。焼死體が四個すでに發見され、まだ行方不明なものが子供と大人と六人あるさうです、靴屋は女房と一緒に恐怖のために遁げこんだ暖爐の下から黒焦になつて發見されました。わたしは今目撃しなかつたのを残念に思つてゐます。チェレムーシキンは焼けませんでしたが、彼のところから一軒手前で止まつたのです。わたしは彼の家の門

前に振舞酒を飲んで酔拂つてゐる群集を見ました。村中到る所酔拂ひで、全體の光景が悲惨といふよりも醜惡です。

わたしは自分の車でクラスヌイへ着いて、そして彼にそこへ日曜の午前に来るやうに言附けました。荷車で乗行くのは大變いゝ氣持です。わたしは貴女に言はうと思つて忘れて來ましたが、どうして貴女は大きいターニヤに小さいターニヤを抱かせるのですか？ 大きいターニヤは何もさせてはならないほど今悪いのです。わたしは黙つて來てしまひましたが、非常に心配してゐます。元のやうにならないでせうか？ 氣を付けて、彼女にそれとなく注意するか、さうでなければセリョージャに彼女がどういふ情態にあるかを話すかして貰ひたいと思ひますが、しかし駄目です。誰が悪いのでもありません、忠告することも、註文することも出來ません。早魃と彼女はわたしの頭を去りません。わたしは疲れました、しかし途中は愉快でした。凡てのものに對する輕快な注意を自分の裡に感じます。チェレムーシキンは非常にやさしく——素的です。

わたしはまだ貴女と子供達についてまだ不安になり始めませんが、しかし直きにそれがやつて來るのを恐れます。尤もセリョージャが貴女と一緒にゐて呉れます、ですからよほど樂です。金曜日には手紙を上げます、種子——一〇——送ります、しまつてお置きなさい、それよりもいゝことは、ピロゴフで箱へ蒔いて御覽なさい。ワールンカにわたしが感じてゐると傳へてください。さよなら。

1) タチャナ・アンドレーエヅナに當時發病して、(誤つて)肺病の初期と思はれてゐた。

昨日夜の一時過ぎにセルギーエフスコエの端れまで来て、藁小屋の内で熟睡しました。ラポトコマから出した田鶴と手紙は届きましたか？ 愛すべきロシヤの百姓の家へ泊つてお茶を飲んでゐます。怪しからんことです！ デイヤコフの馬は止めなければならぬ許りでなく、クジマが頸圈と皮だけを持ち歸るのではあるまいかと思ふほどに弱つてしまひました。死んでもわたしは良心を責められることはありません、——わたしは非常に静かに乗つたのですから。

貴女と伯母さんと子供達を接吻します。

## 四一

同

二時にチヨールンへ二頭立てにして着きました。デイヤコフの馬はよろしくして、死にかゝつてゐます、そして非常に哀れです。今日騎兵の古い士官の——現代のワシカ・デニソフに會ひました。よくありません。驃騎兵はニヒリズムの小さい影を持つてゐます。今日はマーシヤのところへ泊ります、明日は、都合よければ、早くニコリスコエへ行つて、それから朝飯前にデイヤコフのところへ

行きます。そこで一晩泊ります、しかし何れにしても月曜日より前には歸れないでせう。さよなら、貴女、貴女と子供達を接吻します。

## 一八六六年

## 四二

レフ・ニコラエキツチが病氣の妹ターニヤをチエルモーシニヤのデイヤコフ家へ連れて行つた時の旅先から。——以下二通——

春

わたし達は四時にセルギーエフスコエへ無事に着きました。ウツ／＼しただけで、睡りませんでした。ターニヤは疲れなかつたらしく、胸の方もよいやうに見受けます。御安心なさい！ この手紙を御覧になつて、元氣になられることゝ存じます。若し早く歸ることが出来れば、歸りませう、何故なら貴女と子供達と一緒に家にゐる時だけ、わたしは人間なのですから。しかし多分さうはいかないでせう、さよなら、貴女の眼を接吻します。

## 四三

チヨールンへは九時頃着きました、そして真直にニコリスコエへ行くことに決めました。随分ひどい道ですが、その内にうまい工夫がつかうかと思つてゐます。セルギーエフスコエからはわたしはずうつと睡り通しました、ターニヤも同様です。そして今でもわたしは夜の馬車旅行を主張します。出發以來、唯一つ起こつた事件は、夢を見たことです。グロミロが見付かつて、遠景に沿うて走つて行くのです、そしてその跡を仔犬どもが追うて行く夢でした。がグロミロは——牝犬で、仔犬どもは四十本足の——虫なのです。そしてそれが無数にゐるのです。

三時まへにはどうしてもチエルモーションニヤへ着けないことが、もう略々明かになりました、これも都合よく行つての話です。さよなら、貴女を接吻します。

## 四四

スチヨールバを伴つて一二年の戦場と軍司令部を見物にボロヂノへ旅行をした時の手紙。

——以下二通——

九

月<sup>1)</sup>

只今、二十五日の晩、わたしと一緒に行くことを許して貰つたスチヨールバとボロヂノへ立ちます。この手紙はボロヂノから十露里離れたところにあるアケーエワの領地の彼女の管理人のところへ持つて参ります、そして手紙はこゝの修道院の院長へ宛ててください。ボロヂノまではどこにも停まる

ところが無いと思ひます。郵便馬車で行くのです。まる一日半細々した準備に忙殺されました。印刷は捗りません、それも決してわたしが悪いのではなく、郵便が不正確な爲めです。最後に送られた原稿は今もつて受取つてゐません。領收證を送ってください、それにリースが不正確で、督促しなければなりません。<sup>2)</sup>わたしは何時も市街にゐる時と同じやうに、非常な健康です。こちらでは皆な何時ものやうに非常にやさしく善良です。ペーチャはよく勉強します、そして皆仕事に一心になつてゐます。家にゐる皆なを接吻します、特に貴女と子供達を接吻します。若しマーシヤが来てゐるなら、わたしの旅行の必要を解つて貰へると思ひます。さよなら。木曜日に電報を上げます。

## 四五

九月二十七日

今ボロヂノへ着きました。わたしは非常に満足です。こんどの旅行には、睡眠と食物の不足に拘らずそれを忍んで来たことにさへ非常な満足を感じてゐます。神が健康と平靜とを與へてさへ呉れれば、わたしはこれ迄に會てなかつたやうなボロヂノの會戦を描き出します！……。また自慢です！……。

- 1) ボロヂノ戦場の視察を、ピリユーコフの第二巻はこの小旅行に連立つたエス・デー・マスの思ひ出に基いて、一八六五年の秋としてゐる(ピリユーコフ第二巻二十八頁)。しかしヤースナヤ・ボリヤーナの圖書館に保存されてゐるこれ等の思ひ出の原稿には、旅行の筆をばつきり一八六六年としてゐる。
- 2) 『戦争と平和』を印刷してゐた印刷所

修道院へ泊つた時に貴女の夢を見ました、しかもそれが非常にはつきりしてゐて、まるで現實のやうに思ひ出されます、それで恐怖をもつて貴女の身の上を思ひます。旅行中の詳細は書きますまい——歸つてから話します。第一夜はモジヤイスクまで百露里、明け方に停車場で寝ただけです。二た晩目は修道院の客間に泊りました。明け方に起きて、もう一度古戦場を廻つて、それから一日モスクワまで乗り通しました。貴女の手紙を二通受取りました。大きいターニヤのことを思ふと悲しくなりませんが、そして小さいターニヤのことを思つた時、恐ろしく、非常に恐ろしくなりました（わたしは解ります、見える気がします、愛してゐます、そして熱のある彼女が心配です）。しかし——貴女の手紙はすつかりわたしを落ちつかせてくれました。それはその中に貴女が現はれてゐるからです。貴女を持つてゐる最もいいものを、貴女は貴女の手紙とわたしへの思慕の中に織り込んでゐられます。ところが人生に於ては屢々嫌悪や、争ひの感情によつてそれを聞こえなくされてゐるのです。わたしはそれを知つてゐます。

わたしはベルヒールエフのところで一〇〇〇ルーブル借りることにしました、それで金持になりませんから、帽子も、靴も、御註文のものは皆な買つてゆきます。借金をするのを貴女が怒られるに違ひないことを知つてゐます。怒らないでください、わたしが借りるのは、この冬の初めを自由に金銭上にも煩はさせないでゐたい爲めで、その意味でこの金を出来るだけ使はずに置いて、金があるといふことを知るために、それから無益な、餘分の人間に暇を出したりする爲めに持つてゐるつもりで

す。貴女は理解してわたしに助力されること、思ひます。貴女の手紙はわたしに取つて大きな喜びです、わたしがそれを人に読ませるなんてつまらぬ事を言つてはいけません。

ポロチノでは愉快でした、それに仕事をしてゐるといふ氣持がありました。ところが市街ではわたしは堪りません、しかるに貴女はわたしがぶら付くのが好きだと仰しやる。わたしにすれば貴女が今の十分の一、村を愛して市街の遊蕩的な繁雜を憎んで欲しいと思ひます。明日はベルヒールエフのところへ御禮に行き、リースに會つて、それから買物をします、そして全部片付いて、デイヤコフの都合さへつけば、金曜の朝にこちらを立ちます。さよなら、貴女とそれから子供達を接吻します。

## 四六

モスクワよりの書簡、レフ・ニコラエキツチはそこへ病氣であるわたしの姉妹のターニヤを連れて『戦争と平和』の要件かたぐい赴いたのであつた。——以下七通——

十一月、途中より。

とうとうわたしの心配してゐたことが起こつてしまいました、車輪が碎けたのです、その爲めにわたし達は一時間半も立たされて、今尙ほかれこれ一時間ばかり立つてゐます。わたし達が道の眞ん中に突立つて最も困り切つた瞬間に、偶然ヤコフに遭つたことは非常に不思議でもあれば幸福でもありました。彼はわたし達に多くの助力をしました。わたしからだと言つて彼に銀貨で一ルーブルやつて

ください。

シムカはどんな犬ですか？ いゝ犬でせう？ わたし達が遅れたことは、わたしが遅く着くことにはなりません。ベルス家のものを叩き起こすだけです。アー・エーが起き出して、わたしの聲を聞きつけ、家中怒鳴り立てることでせう。わたしは健康でそして落着いてゐます、どうぞいゝことがありますやうに。明日は貴女から電報が来るでせう。わたし達はこの不幸が無かつたにしても、矢張り一時過ぎでないと着かぬでせう。さよなら、會つて話をする迄にもう一日とないことをお考へなさい。何よりも、出来るだけ仕事をすくなくすることです。そして何かあつたら、周章でないことです。皆なよくゆきます。セリョージャのことは電報をおよこしなさい。それは貴女もちやんと心得てる筈です。ターニヤは無事です、喰べませんから……。

四七

十一月十一日、金曜日

可愛いわたしの鳩さん、とうとうわたし達は着きました。無事に着いて、無事な皆なに會ひました。思ひの外早く着いて、侍醫の玄關に横着けにされたのが七時近くでした。誰がどこにゐたか憶えてゐませんが、皆な御承知の叫び聲を上げて階段と食堂に現はれました。アンドレイ・エウスターフイエキツチは去年とすこしも變りません、彼は大變喜んで仔犬を、自分の部屋に置くことにしまし

た。リュボービ・アレクサンドロヴナはすこし肥りました。ターニヤが来たのを非常に喜びましたが、ターニヤがデイヤコフのところへ行くので、不快な氣持が彼女の眼差と言葉にちら付くのを見ました。両親は、貴女の豫想通り、頑強に、ターニヤが肺病になる筈はないと——リュボービ・アレクサンドロヴナさへ、如何にも自信ありげな憎惡を持つて主張してゐます。ターニヤの旅行については、罷めるといふのではなく、この點は尙ほよく相談しなければならぬと感じてゐますから、まだほんの少し、か話し合ひません。ペーチャはまた大きくなりました。それでもまだ快活ではありません。ワローヂヤは病氣で、咽喉が痛く、陰氣なしかし愛想のいゝ顔付をしてゐます。スチヨールは面白さうにはしやいで満足してゐます、彼は級で三番で、優等になるんだと力んでゐます。スラーヲチカはわたしの眼では相變らずです。リーザはターニヤと一緒に階下の大きい部屋、ワローヂヤとスチヨールが貴女の部屋、ペーチャは乳母の部屋で、わたしも一緒です。

わたし達はターニヤの方法に従つて道中何も喰べませんでした。その爲めにわたしは非常に爽快な氣持で着くことが出来ました、しかし今お茶を飲んで、いつもの物やさしい、無邪氣な接待振りでアンドレイ・エウスターフイエキツチが切つて呉れた蝦夷山鳥を喰べたので、今でも顔が火照つて、疲れが出て、だるくなつてゐます。

それでもまだ非常に面白いことがあるか解りません。リュボービ・アレクサンドロヴナはわたし達の子供のことをいろ／＼根掘り葉掘り訊ねます。サーシヤには電報を打つことにしませう。オー・ア

ーがマトウエーエフと結婚します、ターニヤの『魚が無い時には蝦も魚。』リーザがさう言ひますから書きます。リーザはすこし痩せました、ひどく齒の根が痛んで、切開をして、切り取つたのださうで、非常な苦痛だつたと言ひます。

明日はバシロフを訪ねてから、印刷所へ廻り、共済組合のことを調べにルミヤンツエフ図書館に参ります。さよなら、可愛い鳩さん。わたしが貴女のことを貴女以上に途中思ひ続け、今もこれからも思ひ続けることを知つて考へてください。さよなら、わたしの可愛いセリョージヤに、ターニヤに、イリユーンシャ<sup>2)</sup>伯母さんのお手を接吻します。ではまた明日。

## 四八

土曜日、夜、十一月十二日

今日は第二日です、そしてこれが第二の手紙です。これが一日中の出来事です、わたしは何故かよく睡れませんでした、七時過ぎに目を覺ました、わたしの七十になつた時の状態を豫想させる、——何時かもあつて、苛々した神経です。——朝皆な一緒にコーヒを飲みました。ターニヤは相變らずです。ラズスエートフ<sup>3)</sup>が來るといふので、わたしは家を出ませんでした。ラズスエートフが來ました、わたしは彼に、アー・エーに對して好意と、遠慮なしに最も思ひ切つて積極的に自分の意見を言つて貰ふことを望んでゐると申しました。ターニヤが來ました、容態を聞き始めました。この問答





トルストイの上の三兒

右 セリョーヂヤ

(セルゲイの愛稱)

中 イリユーシヤ

(イリヤの愛稱)

左 ターニヤ

(タチヤーナの愛稱)

がわたしを何時も非常に不安にします。ラズスエートフは最も積極的な態度で、ターニヤの肺が去年よりも遙かに悪くなつてゐること、彼女は、彼の意見によれば、結核の初期であること、外國へ行くことを勧めること、それから凡てわたし達の知つてゐる、安靜、滋養、歌をやめること等を申しました。彼は尙ほワルピンスキイを呼ぶことを勧めました。そしてワルピンスキイは月曜日に見える筈です。わたしにはワルピンスキイが來ないでもラズスエートフが來ないでも彼女の状態に疑問の餘地がないのですが、しかしわたしはアー・エーとエル・アーが彼女の肺が健全であるといふ自分の意見を頑強に主張するに相違ないことも豫想してゐました、アー・エーは瘡だとか胃だとかそんなことを言つてゐます。しかしわたしは彼に知つたか振りをさせませんでした。そして有難いことには、根本の問題である、外國行きに両親は同意しました。可哀さうなわたし達の愛するターニヤ、どんなに彼女はいぢらしく可愛いでせう。しかしわたしはきつと恢復するものと信じてゐます。昨日わたしにアー・エーが彼女の教母が彼女に外國へ行く費用を出して呉れると言ひました、しかし詳しく話さなかつたので、確かなことか又どの位か解りません、わたしも深くは訊ねないで、わたし達が金を出すだけ言ひ置きました。金のことになると非常に不愉快です。アンドレイ・エウスターフイエキツチが兩

1) パシロフはモスクワの美術學校の校長で、わたしの母の従兄弟、『戦争と平和』の挿繪を引受けたのであつた。

2) 一八六六年五月二十二日生れたイー・エル・トルストイ。

3) ターニヤの爲めの呼吸器病のドクトル。

替商のブーロチニコフのところへ行つて呉れましたが、債券は一割でなければ質に取れないさうですから、ダイヤコフへ八で渡して、昔の五の代りに三しか貰へないことになりました。賣つた方が利が多いでせうが、それは貴女が嫌だらうと思ひますから、質に入れます、損は知れたものでせう。

十二時にわたしは屋敷からバシロフのところまで歩いて行きました。最初マリヤ・イワーノヴナと子供達だけでした。なんとといふ美しい少女達でせう。皆な猩紅熱をひどく病つたのです。今では丈夫になりました。末の娘は三箇月も下痢が続いて、やつと助つたのです、ヴィソツキイが直したのです——何で？——生牛乳だけです。——バシロフが歸つて来ました。挿繪はやつと十三出来ただけです。或るものは、ベズウホフの死と接吻の如き、非常によく出来てゐます、しかし去年出版された部分はまだ全部描き上げられてゐないので、その上リハウが尙一層仕事を遅らしてしまつて、ですから挿繪を新年の間に合はせることは到底も出来ません。それでわたしは今年は挿繪を入れないことに決めました。來年全篇と一緒に繪を刷るかどうかはまだ決めてゐません。

そこからカトコフの印刷所へ廻りました。そこで刷り上がった全部に對する一二〇〇ルーブルの計算を渡されました、前金は三〇〇ルーブルだけ渡しました。明日彼等から決定的な返事が来る筈です。三六〇〇部です。それから体育館へ寄りましたが、全くの七十才で、何も出来ませんでした。それにベルスでは近頃は三時に晝飯なのです。晝飯の後に、お客はエー・エーだけです、寢室の衝立の蔭で睡りました。それから、すこし世間話をして、徒に夜がなくなつてしまはないやうに、エレン・

ゴルチャコフを訪ねましたが、留守でした、家で夜を過ごしました。

サーシャ・クズミンスキイが豫審判事としてツーラへ轉任するのを知つてゐますか？ わたしは特に貴女のために喜びます。わたし達のサーシャには電報を打たないで、手紙をやりました。ペーチャは憂鬱で、退席で、情けてゐます。彼は中學の五年生なのを羞づかしく思つてゐるのです。しかしスチョーバとワローヂヤは非常に面白さうに中學の話をしてゐます、そして満足してゐるやうで、よく勉強します。明日は多分貴女から手紙が来るでせう。絶えず貴女のことを思つてゐます、そしてこんどは少しも不安にならないかも知れません。神が貴女を護らんことを。貴女を接吻し、貴女の手を接吻します。伯母さんと子供達を接吻します。

## 四九

月曜日、十一月十三日

月曜日の朝、七時にこれを書いてゐます。昨晚蠟燭を消してしまつて、床の中で貴女に手紙を書かなかつたのを思ひ出しました。そして一晩中、初雪でも待つてゐるやうに、絶えず第一便の八時の時

1) 彫刻師。

2) トルストイ家の親戚のセルゲイ・デー・ゴルチャコフの息女。

3) わたしの姉妹の夫で、現元老院議員、アレクサンドル・ミハイロキツチ。

をのがすのを恐れて目を覚ましました。さて昨日は、朝のコーヒーは何時もの通りです。それからわたしはベルヒーリエフ家へ、動物園へ、ザイコフスキイのところへ、返事を聞きに印刷所へ、繪の展覽會へ、それから櫛の事でベトロフカのルジェフスキイ方へ参りました。リーザは昨日から展覽會へわたしと一緒に行きましたが、彼女が十二時まで休みますから、彼女の代りにペーチャを連れて行きました。ほんとうに、このリーザは何といふ人でせう！ わたしはモスクワへ来る度に思ふことですが、リーザは聰明な、若い、健康な娘で、妻の姉妹である、それなのにわたしは彼女から不快な感情しか得られないのは何といふ愚かなことだらう。それはわたしが悪いのではないだらうか？ こんどは出来るだけ彼女に對して單純な氣持でゐて見よう。ところが想像して御覽なさい、二日と経たないうちに、彼女はもうわたしに重苦しい感じを與へるのです、そしてわたしは彼女から離れてゐるのを喜んでゐるのです。昨夜、彼女はターニヤと一緒に寝ました。ターニヤは暖爐を焚かないで、小窓を開けて置くやうに頼みます。リーザはきかないで焚きました、それでターニヤは一と晩中睡らずに、汗をかきました。そんな譯で、ペーチャと一緒に出掛けました。動物園では何も新らしい家畜は見當りませんでした。ホルモゴルの櫛は、春に拂下げがあれば買ふかも知れません。

ベルヒーリエフのところでは老人を除いて皆な家にゐました。給仕が知らせに行きました、すると扉のあちらで、『こちらへお通し！』といふナスターシヤ・セルゲーエヴナの聲がします、灰色の環髮で肘椅子に、食事を済ました許りの着飾つたまゝで坐つてゐます。ワレンカは老けて、すこし瘦

せました。彼女はイリユーシヤの爲めに、ベルヒーリエフ式の趣味で蒲團を編んで呉れました。大きい息子を連れたファンニイもゐて、丈夫で、元氣です。ワレンカがわたし達と一緒に展覽會に参りました。途中でセルゲイ・ステパノキツチに會ひ、彼も一緒に参りました。展覽會にはブキレーフの繪があります、——その『釣合はぬ結婚』——『美術家の制作場』といふのは、僧侶、官吏、商人が繪を見てゐるところで——素的です！ その他はあまり大したものはありません。パシロフの繪があります。パシロフには生活に於けると同様、藝術に於ても何か、何か一種の生活神経ともいふべきものが缺けてゐます。その通りで、しかもさうでないのです。

そこでポートキン夫妻<sup>2)</sup>に會ひました、フェットは彼等の家に泊るのです。毎日待つてゐるとのことです。展覽會からペーチャと一緒にザイコフスキイ家を訪ねました。ゴロウイン夫妻は留守でしたが、しかし初めて母親に會ひました。お客があつて、——パノーフスキイといふ、わたしが短文の悪口をよく言つてゐるその男です。——客間でフランス語をベラ／＼やつて、そしてひどく努力してゐるのです、それが非常に滑稽です。オリガは可愛いです。しかしエミリヤは氣に入りません。非常に健康で、何だか罪深い物思ひに充たされてゐるやうな氣がします。彼女は濃い眉毛を間引くことを思ひ付いたのですが、想像して御覽なさい、それが實に不具な結果になつてゐます。これは、わたし

1) オー・ザイコフスキイ夫人——わたしが一緒に大學の試験を受けた友達。  
2) ドミートリイ・ペトロキツチ・ポートキン、繪畫館の所有者。

が、ザイコフスキイ夫妻にも言つたことですが、貴女を思ひ出すからです。そして實際、わたしにはわたしのしてゐることは何でも愉快で、貴女がゐたら、貴女も矢張りわたしと同じやうに愉快になれるだらうと思ひます。わたしは貴女を思ひ出さないやうにしてゐます、しかし貴女の意識はいつもわたしに附いてゐます。これは文句ではありません、實際です。

印刷所は締まつてゐました、それで返事を貰ひません。ルジエフスキイのところでは犢を五頭ばかり都合をして貰ひたいと話しましたが、まだどうして引取つたものか解りません。食事近くにトマシエフスキイと<sup>1)</sup>マインが家に來ました。マインは何時ものやうに賢く、常識的で、追従で、不愉快です。トマシエフスキイは非常に哀れです。彼は三日前に監獄を出たばかりで、彼は一人で、誰とも、若い妻とも文通をせず、書物も與へられず、四箇月の間、何の罪もなくそこに坐り通したのです。同様に何の罪もないベテルソンと<sup>2)</sup>彼が知己であつた爲めなのです。誰が彼の裁判官でせう、スイチンスキイ、ベーリング、ミハイロフスキイその他、人間種族の屑です。「わし達は諸君を擧げたのが全く無駄であつた。」と彼等は放免する際に彼に言つたさうです。——晝飯の後にナーヂャ伯母さんが自分の父親を連れて來ました。彼は病氣なので、彼女に連れられて來たのです。彼女はわたしに大變氣に入りました。貴女のことを、勿論、大變訊きました。夜はゴルチャコフ家を訪ねました。皆なゐました、老人、老夫人、エレンとそれから彼女の三人の姉妹。退席でもなく、面白くもなく二時間ばかりゐて、歸つて來ました。夜食を済まして、貴女に手紙を書くのを忘れて寝てしまひました。まだ

はつきりしたことは何も申せません、印刷の方の問題も金の問題も何も決つてゐないからです。子供達にお父さんがピケスチーチ<sup>3)</sup>して接吻するやうに命じたとお言ひなさい、そしてわたしの手紙のどこかを讀んできかせるか、作つてもよいが、書くことが何を意味するかを彼等に會得させてください。

## 五〇

月曜日、十一月十四日

今日は遅いですが、貴女に手紙を書くのを妨げられないのが何よりです。朝は前日來と全く同様です。ルミヤンツエフ博物館へ行きました、しかしダグマラの誕生日で開いてゐませんでした。そこから、ターニヤにあまり外出をさせない爲めに、イギリス商店へ彼女の着物と貴女の寢巻を買ひに行きました、寢巻は皆なの氣に入りました、着物はあまりよく言はれませんでした、しかしターニヤが十ループルで買つて來ることを命じたからです。そこから印刷所に行きました。そこではわたしの條件に同意しました、しかし尙ほ明日すつかり話をきめる爲めに誰か來る筈です。家で晝の食事までワル

1) アナトリーイ・カー・トマシエフスキイ、一八六一年から六二年へかけてのレフ・ニコラエキツチの農民學校の教師の一人。

2) ニコライ・パーヴロキツチ、一八六一——六二年のレフ・ニコラエキツチの農民學校の教師の一人。

3) 小さいターニヤの廻らぬ舌で、十字を切る(ペレクレスチーチ)といふことを意味してゐた。

井ンスキイを待つてゐましたが、来ませんでした。彼は病氣なのです。それで明日ターニヤがお父さんと一緒に行く筈です。馬鹿なエスが来ました。食事を済して、劇場へ、ファウストを見に出掛けました。ナー ज्या伯母さん、リーザ、お母さん、ターニヤ、それからわたし。後でアー・エーが来ました。劇場はダグマラの誕生日の観客ばかりです。ファウストはつまりません、そして貴女は信じないかも知れませんが、わたしは劇場を好きません、何時も批評したくなるのです。知人は、座席へやつて来たセーウエルツオフを除いて、一人も見ませんでした。非常に大人びて立派になりました。それから、忘れてゐました。朝ウエー・イーが来ました。彼は何時も不愉快ですが、この頃は一層たまりません。わたしは彼がわたしに與へる印象を發見しました、ターニヤもさう言つてゐますが、それは丁度彼が思ひがけずズボンを穿いてゐないで、自分でそれに氣付いてゐないやうに、彼を見ると間が悪く羞づかしくなるといふことです。それからザイコフスキイのドミートリイ・ドミートリエキツチとエミリーヤが来ました。わたしはドミートリイ・ザイコフスキイの第一印象を否定します。貴女の仰しやる通り、彼は非常に物やさしい、聰明なそして確かに若者です。そしていゝ人に相違ありません。彼に對してわたしは特に愛想よくしました、再び貴女の思ひ出のためにです。

食後また貴女の第一の手紙を受取りました。そしてわたしはお母さんと二人で貴女を褒め合つて、自分でも羞づかしいくらいでした。マーシエンカのことを考へると悲しくなります。が小さいターニヤは見える氣がします。彼女のことを思ふと嬉しくなります。彼等に讀んでおきかせなさい。『セリ

ヨー ज्याはいゝ子です、ターニヤもいゝ子です、イリユーンシャもいゝ子です、わたしは彼等を愛してゐます。セリヨー ज्याはもう大きいから、お父さんに手紙が書けるでせう。』——そして彼に手紙を書かせてください、それからターニヤも、何かわたしに繪を描いてよこすように言附けてください。

劇場から、途中にして、スシコフのところへ行きました。そこは十五年前とすこしも變りがなく、矢張りお客もゐます。パーニンの血統のメシチエルスカヤ公爵夫人——大柄な男のやうな婦人ですが、非常に善良でそれに馬鹿ではありません。わたしは彼女をお嬢さんと呼んでゐました、ところが今彼女は四人の子持でわたしは三人の子持です。頻りに水曜日に來て欲しいと言つてゐました。行くかどうか解りません。それからまだ公爵令嬢のエル、非常に愚かな見榮つ張りです。家のものと一緒に歸りました。そして一緒に非常に楽しく夜食をしました。ターニヤも楽しさうです、しかし劇場を出るとすぐ、彼女はすこし血を吐いたのです。あゝ、この氣の毒な、可愛いターニヤ、どんなにわたしは彼女をいとしく思つてゐるか語ることは出来ません。貴女の手紙は涙をかくすことが出来なかつたほど彼女を感動させました。わたしも同様です。あの金をわたし達が彼女に與へることの出来なかつたのは非常に遺憾です、が何時もかうなのです。——チユツチエワは、わたしの見たところでは、真から去年の一八〇五年の部を喜んでくれました、第一部よりも第二部、第二部よりも第三部の方が彼女は氣に入つたと申しました。わたしはこの意味をスホーチンの意見と同様に尊重します、これも矢張り、スホーチンよりは少し高い程度であるとしても、群集の表白です。彼等のところで何か讀むや

うにせがまれましたが、しかしわたしは、第一、直きに立つので時間がないといふこと、それからわたしの欲する人達が一緒に聞いて呉れることがわたしには必要なので申しました。わたしの欲するキイはモスクワにをりません。明日は貴女の返事が見られると思ひますが、しかし手紙を書くのももう長いことではありません。わたしは直きに歸ります。もう何もすることは無いのです。若しわたしはまだ歸る仕度をしてゐないとすれば、それはあとで後悔しないやうに、まだ何かモスクワでやつて行くことを忘れてはゐないかといふ氣が始終してゐるからです。さよなら、わたしの可愛ゆき者よ、貴女の眼と頸と手を接吻します。伯母さんのお手を接吻します。ナターシャはジョイを部屋から出さないやうに言付けてください。そして——出して——悪くしないやうに。

九六

五一

火曜日、十一月十五日

別に原因はないやうに思ひますが、非常に疲れてゐますから、簡単に書きます。コーヒーを飲んでからルミヤンツェフ博物館へ行つて、三時までゐました、非常に興味ある共済組合の記録を読みました。しかし何故にこの翻譯が終日それから脱し得なかつた程の憂鬱な氣持をわたしに起させたかを書いてゐる暇はありません。すべてこれ等の共済組合員達が愚劣であることが悲しまれます。そこから

體育館へ廻りました——この前よりも力が出たやうに感じました——それから晝の食事です。アンケート、それから何でも澤山貪り喰つてそして絶えず喋り散らしてゐるエスと食事をしました。それからまだワーレンカ・ベルヒーリエワがゐましたが、彼女の方をわたしはエスの爲めに見ずにしまひました。夜はザイコフスキイ夫妻とパシロフとそれから印刷所からも人が來ました、混雑、ザイコフスキイ夫妻の叫び聲、遠しさ——この感情を知つてゐますか？ 公爵令嬢のエレンがわたしを招んで呉れたので非常に助かりました、わたしは彼女のところへ出掛けました、そして今歸つて來たのです、一時間半ばかり退席をせずに膝つき合はせて彼女のところにゐました。時々彼女は非常に氣持のいい人になります、しかし矢張り睡くて弱りました。

ワル井ンスキーはわたしの留守に來たさうです、アー・エーとエル・アーの言葉では、發疹はまだないがあるかも知れないと言つてゐたさうで、ラズスエートフと同意見だつたさうです。エスのお喋りとザイコフスキイ夫妻の叫び聲を聞きながら貴女からの手紙を待つてゐましたが、憎むべき郵便局はきつと明日二通かためて持つて來るのでせう。

印刷所の方はまだすつかり決定しません。そして今また挿繪を入れることが出來さうになりかけてゐるのです。明日はつきりしたことを決めます、それから午前中に博物館で必要な抜書きと抜讀みを終るやうに努める意りです。さよなら、では明日まで。

水曜日、十一月十六日

朝からルミヤンツェフ博物館へ参りました。わたしがそこで発見したものは、非常に興味のあるものです。今日で二日目ですが、知らないうちに三四時間経つて終ふのです。これはわたしに取つて、ベルス家の人達と同様、モスクワで嬉しいものゝ一つです。それからバシロフのところへ寄つて、一藉に家へ歸りました。食事をしながら、いろいろな話をしました。そして印刷所から返事を待つてゐましたところへ、やつと來ました。すつかりうまく行きました。カトコフは挿繪を四枚だけ、その入費は印刷費に計算することにして、入れたいと言つてゐます。わたしにはその方がよい位です、スシコフ夫妻と例のスホーチンが集まる筈になつてゐるメスチエルスキイ家へは出掛けしないで、家にゐました。第一、退屈なことは解り切つてゐます、第二は、朗讀する日をきめなければならぬでせうし、どうも拒はり兼ねる氣がします、ところがわたしは一刻も早く貴女の翼の下へ飛んで行かなければならないし、行きたいのです。今日貴女から一通手紙が來ました、やさしい手紙ですが、しかし、わたしに自責の念を起させる悲しい手紙です。第一、英國婦人にもリョーフにも手紙を書かなかつたのは、わたしが悪いです。第二、金を貴女のために少し、か残しませんでした。何とかなるでせう。彼女が氣に入つて幸です。<sup>2)</sup> 貴女がこの手紙を書いた時には、疲れてゐて不機嫌だつたのが感じられま

す。しかし不機嫌でも貴女は世界中で一番わたしには可愛いのです、それでわたしは郵便局が明らかに貴女の手紙を一通、若しかしたら二通までも留置いたのに腹を立てゝゐます。わたしは金の事と英國婦人のことを何か申し上げようとも思ひますが、しかしもう、この手紙はわたしより二三時間前に着くことになるかも知れません。わたしは明日出發する空想をしてゐますが、あるひは駄目になりませう。第一、バシロフと打合はせをしなければなりません、第二——印刷所へ渡す爲めに原稿の初めの方を直す必要があります。鐵道はもう通じてゐますから、わたしはそれで金曜日の五時に立つことにします、ですから土曜日の朝までには可愛い、貴女を抱いて接吻して上げることが出來ます。そして英國婦人のことも、子供達のこと、金のことも——皆なよく解つて貰へませう。さよなら貴女、伯母さんと子供達を接吻します。ターニヤは可哀さうに相變らずいけません。

一八六七年

五三

- 1) スシコフ夫人、詩人チュツチエフの姉妹。  
 2) エル・エヌの留守に子供達のために招聘された英國婦人がヤースナヤ・ボリヤーナへ到着した、わたしはレフ・ニコラエキツチに言葉を知らないで彼女に説明する困難を訴へたのである。



モスクワ、六月十八日

美しい馬車とサーシャ<sup>1)</sup>の友情によつてわたしは全く元気でモスクワへ着きました。アー・エーがわたし達を出迎へました。彼は非常に愉快さうで、元気で、若くなつたやうにわたしには思はれました。彼は何時ものやうに、たとへ自分は悪くとも他人にはよくしたいことを望んで、わたしにリースとバルテネフを訪問するやうに要求しました。バルテネフ<sup>2)</sup>は不在でした、しかし彼はクレムリへ参りました。彼は今度のを読んでハループル宛で賣出すことが必要であると信じたこと、そして全部はけるだらうといふことを申しました。かういふ話は何時きいても愉快です。しかしわたしは愉快な氣持に驅られて、わたしが實際のことを見ないうちに輕卒に約束をして終ふ事はわたしの氣持が許しませんでした。今日は日曜ですから、リースはモスクワにをりません、それでわたしは何もすることが出来ませんでした。明日校正を持つて原稿を取りに来るでせう。

非常に楽しい満足した氣持で公園へ食事をしに参りました。リーザは言ふまでもなく、結婚の詳しいことやそれから先きのことなど語り合つて、そして誰も彼もわたし達同様に非常に満足してました。それから散歩に出掛けて、ゴルチャコフ兄弟に遭ひました。酔拂ひのアレクサンドルは馬鹿みたいになりました、わたしはドミートリイをアー・エーのところへお茶を飲みに来ました、彼も馬鹿でなく悪くない男になりました。わたしは歩いて歸るつもりでしたが、雨が降つて來ましたから、明日の朝クレムリへ行つて、そこで行動を開始しようと思つてゐます、——送つて來る校正を見て、

それによつてバルテネフが適當かどうかを決め、それからザハリイン<sup>3)</sup>から返事を貰つてモスクワかアルハンゲリスコエかへ彼を訪ねるつもりです。さよなら貴女、貴女とそれから皆なものを受け吻します。

## 五四

同日

わたしは昨日貴女に手紙を書かなかつたのを良心にとがめてゐます、しかし、その方がよかつたかも知れないと思つてゐます、何故なら昨日だとわたしは貴女によくはない、不機嫌な手紙を書いてしまつたでせうから。わたし達は氣持よく、特別に幸福にさへ乗つてゆきました、(街道の關門のところ)で六十四コベツクを呉れと言ひます。わたしはポケットへ手を突込んで一掴みの銅貨を取り出しました、きつちり六十四コベツクなのです。

それから客車の内で、羊を飼養してゐる縣會議長と知己になりました、彼はわたしに何處でも聞けないやうな實際的な羊の飼養法を話して聞かせました。わたしは疲れてはゐませんが、しかし

1) わたしの兄弟。

2) 『戦争と平和』との校正者。

3) ドクトル、大學教授。

肝臓が痛み出して、吐き氣を催しました、そしてわたしは、モスクワへ着くとすぐ、風呂に這入つたのですが、すつかり弱つてしまひました。神聖週間の時と同じわたしの膽汁發作熱の類ひですが、しかし遙かに弱い程度です。わたし達は階下へ寝ました、わたしは婦人達のところへ、ビビコフはベーチヤと一緒にです。朝のうちにバシロフとバルテネフを呼びにやりました。バルテネフは明日ベテルブルグから歸る筈です、バシロフはやつて来て（彼の妻はまだお産をしません）、バルテネフ自身がわたしの出版を引受けると言つてゐたと申しました。

明日會ふ筈です、カトコフに頼まずに濟み、彼と話がつけば非常に嬉しいと思ひます。初版には挿繪のことを考へることは出来ないと言ひました。それから今日が最後の日だといふので展覽會へ行きました、そして非常に多くの不具な、愚劣な、そして意味のないものを見出しました。それから昨日のうちに手紙をエル・アーに出して置いたので公園へ行きました。そして丁度四時に着きました。貴女のお父さんは元氣で機嫌がよく、善良で、そして何時ものやうに親切です。リーザも非常に親切です。彼女はわたしにデーのこと、彼の破廉恥のことを話しました、それは恐ろしいことです、あまりにひどいです、わたしは幾度も嘆息して貴女に話をするのでせう。それからザハリインのところへ参りました、不在でしたが、モスクワにはゐるのです、それで何時會へるか知らして欲しいといふ置手紙をして來ました。若し彼がその日を知らして來れば、彼がわたしに注意を拂ふ意志を持つてゐる譯で、その時はわたしは行つて見るつもりです、反對の場合には明後日キツシンゲンを買

つて、アンドレイ・エウスターフィエキツチの忠告に従つて飲んで見て、ヤースナヤへ送ります。それからサマーリンを訪ねましたが、モスクワにはゐるのですが、矢張り不在でした、で宿所書を残して來ました。

昨日、モスクワへ近付いて、あの砂塵と群集とを見、暑さと騒がしさとを感じた時、わたしは非常に厭はしく恐ろしくなつて、直ぐにも貴女の翼の下へ遁げ歸りたくなりました。わたしは何時も貴女のもとを離れる時、餘計に貴女を愛します。一昨日、ザセーカを出て間もなく彼等許嫁の心持をよく考へたら、どうしてもそれを彼等に傳へたくなつてビビコフに引返して來て貰はうかとさへも思ひました、しかし『何事も神さまのなさることです』といつたりユボービアレクサンドラが彼等についてゐるのを思ひ出して、安心しました。あゝ、早く、早く、彼等がわたし達のやうに幸福で落着いて、わたしが彼等を置いて來たあの不安な落着かない氣持から抜け出してくれたらと思ひます。

今日の夕方になつて氣持がよくなりました、明日は多分すつかり快くなるでせう。この發作も矢張り成功の中です。若しこの發作が起らなかつたら、ザハリインにも話さず、——多分彼も勸めたことだらうと思ひますが、——あの何時ものわたしに利く鑛泉も飲まなかつたこととせう。

貴女の齒は如何ですか？ 貴女は水泳をなさるのですか？ どんなにわたしは貴女が可愛いでせう、貴女は世界中で一番わたくしに美しく、清く、貴く、可愛く、正直です。貴女の子供の時分の寫

1) テー・アー・ヘルストアー・エム・クズミンスキイとの結婚が近付いてゐた。

眞を見て喜んでゐます。わたしはきつと直きに歸れるでせう、何故なら萬事が成功してゐるからです（六十四コベツタがそれです）。貴女なしではわたしには全くエクスペレツションといふものがあります。子供達、伯母さん、それから皆な、それから貴女の全身を、接吻します。さよなら。

## 五五

火曜日、六月二十日

郵便は非常にいいです——土曜日の貴女の手紙を月曜日に受取りました、日曜日は——今、火曜日に、公園から歸つて来て受取りました。二階に一人で坐つてゐます、貴女の手紙を読んだばかりです、そしてわたしが貴女に對して感じてゐる、それも今だけでなく、一日の凡ゆる瞬間に感じる涙ぐましいまでのやさしい氣持をわたしはどう書き現はしていいか解りません。わたしの可愛ゆき者よ、世界中で一番美しい者よ！ どうぞ土曜日まで毎日わたしに手紙を呉れることをやめないでください。わたしは日曜日より前には歸られると思ひません、ところで手紙は二日かゝります。

ターニヤの咳はどうですか？ フランネルを巻いておやりなさい、そしてよく包むことです、氣候が悪くて——夏の冷氣がありますから、貴女がターニヤとクズミンスキイについて書いて來てゐることは、わたしをまださう驚かしません、それも愛を感じてゐるの不和です。わたしが一番彼等に心配するのは感覺的であることです、その點が感心しません、がわたしはそれを認めたのです。しかしわ

たし達は審くことは出来ません。リュボーピアレクサンドロヅナが言つてゐるやうに「神」です、そして若し彼等が結婚するなら、神でせう、さうならない時には、わたし達みんなが自分に罪があるのです。わたし達及び彼女の非常に優れた友であるリヤーフにわたし達が何も知らしてやらなかつたことを思ふと、わたしは非常に苦しい氣がします。さうして置くべきであつたやうにわたしには思はれますが、貴女や彼等はどう思つてゐるでせうか？

蜜蜂や牝牛についての貴女の一切の處置を感謝しなければなりません——非常に結構でした。今日わたしはベトロフスキイ・ラズモフスキイで三才の牝牛を五十ルーブルで買入れました。この手紙の着き次第、モスクワへ男を一人（ワシーリイがよからうと思ひます）と、女を一人（乳母の娘が來てくれないでせうか？）よこしてください。彼女が來られなければ誰か他の婢をよこすか、雇ふかしてください、それとも馬具師のイワンが來はしませんか？ 非常にいい牝牛でまだ一度も交尾したことがないので、途中飢えさせはしないかと心配です、それで一人や二人の男の百姓だけにはとても任せられることは出来ません。これは困難な問題です、こんな問題を貴女に課することを許してください、しかし皆のものと相談をして、何とかして頂きませう。

こんどはわたしの一日の行動を書きます。昨晚のうちにザハリインから通知があつて、若しわたしが欲するなら二時から四時までの間にお訪ねしてもいいし、來て頂いてもいいといふことでした。わたしは後者に決めました。しかし彼のところへ行く前に、カトコフの印刷所へ参りました、そしてそ

ここで校正を一々送つてもらつても十二月一日までには刷り上がるといふこと、出版費は挿繪なしで四千ぐらゐかゝるだらうといふことを知り、しかし見積書はまだ作らずに明日まで延ばしました。明日はバルチネフから返事が来ますから、さうしたら明日すつかり決めてどちらでも安い方と契約書を取交します。バルチネフは假令わたしが彼のところで出版しないやうなことがあつたとしても、校正はたゞでして呉れると約束してゐます。印刷所からサマーリンのところへ行きました、そして三時間ばかり彼と話しました、そして尙ほ一層彼が好きになりました、彼の方でも同様だらうと信じてゐます。そこからザハリインのところへ廻りました、そして幸か不幸か、途中で頭痛がし出したのを感じました。ザハリインは滑稽なほど注意深くベダンチックでした、すつかり身体を診察した上で、眼を閉ぢたまゝ歩かしたり、寝かしたり、大きく息をさせたり、それから方々を觸つたり敲いたりしました。そして彼は申しました、(一)強度の神経衰弱であること、(二)膽石があること——この二つの疾病は危険なものでなく、容易に治癒が出来る、しかしその外に、貴方にはどうも(三)——尿を調べて見ないと何とも言へないけれど、——糖尿病があるかも知れない。明日尿を送つて下さい、さうしたら水曜日はどういふ治療法を取るか申しませうといふことでした。アー・エーはザハリインの言つたことを全部肯定して、彼がどういふ處方を書くか知りたがつてゐます。わたしは藥物療法を受けない意りです、それでわたしは彼に、わたしの治療の第一の條件は——村に暮すこと、彼が勧めて呉れる生活法或は鑛泉を飲むことなどは守ることが出来ることと申しました。ザハリインのところからひどい

偏頭痛を堪へて公園へ行きました、そこで三時間ばかり苦み抜いて、睡りました、それからリーザと一緒にラズモフスコエへ出掛けて行つて、そこで牝牛を買入れたのです、そして歸りがけに、灯の入つたサクスの庭園へ這入つて見ましたが、これらの庭園に特有な陰鬱な氣持を感じながら庭園を一巡りして、五分間ばかりでそこを出てしまひました。貴女はわたしが何故日曜日以前に歸れないかを訊ねていらつしやいますが、明日、カトコフの方がきまりが付いたとしても、木曜日と金曜日は公園で彼等に渡すやうに約束した第一部を直さなければなりません。その外、歴史的な二三章をボゴーチン、<sup>2)</sup>ソボレフスキイ、<sup>3)</sup>サマーリン、シチエバリススキイの爲めに朗讀したいし、又さうする事が必要なのです。明日これ等の諸君を集めに参ります。それからまだ債券を千ルーブルに替へるか質に置くかする必要があります。とは言へ、わたしは徒に貴女を嚇してゐます。わたしは寂しいとか恐ろしいとかいふわけでなく——わたし自身は生きてくたらないのですが、わたしは貴女なしでは生きてゐられないのです。——死んでゐるやうなものです、生きた人間でないのです。そして貴女の許を離れると無性に貴女が戀しくてならないのです。馬鹿々々しいほどです。さよなら、可愛い貴女。

- 1) ユーリイ・フョードロキツチ、作家及び政治家。
- 2) ミハイル・ペトロキツチ、歴史家、モスクワ大學教授。
- 3) 有名な史學者セルゲイ・アレクサンドロキツチならん。
- 4) ヒョートル・カルロキツチ、歴史家及び文明批評家。

水曜日、六月二十一日

いや、自由に書けるやうに、別に書きませう。わたしは二日間偏頭痛に悩まされてゐます、そして今、夕方になつてやつとよくなりかけてゐます。それにも拘らずわたしは澤山仕事をしました。クズミンスキイの到着後サマリリンが來ました、そして二時間ばかりわたしを引留めました。それからバルテネフのところへ行つて、すっかり彼と話を決めました。わたしは一〇〇〇ルーブルを前渡し、出版費は全部で四五〇〇ルーブルになる筈です。印刷は十一月中に出來あがります、十二月に一〇〇〇ルーブル渡して、残額を二月に渡すことになりました。校正は送つて貰へる筈で、その後はバルテネフが保管することになります。モスクワで今までに出版された全部と第二部の大版五頁分を渡して行かねばなりません。さうする爲めに、わたしは尙ほ二日——少くとも必要です、ですからわたしは土曜日前にはこちらを立つわけに参りません。

バルテネフのところには四時までゐました、そこから買物に行つて、お恥づかしいことですがルジフスキイのところへ寄つて、そこで牝牛を一頭八ルーブルで買ひました、非常に美しいのです。そこからソボレフスキイに會ひにクラブへ行きました、わたしに必要な書物のことで相談をしたかつたからです、それから家へ歸りました、絶えず偏頭痛に悩まされ通して、それ故、何も喰べないで、リ

ーザと、レーノチカ・クズミンスカヤと、それからビビコフと一緒に劇場へ行きました、何も出來ない氣がしたからです。そこから十時に歸つて、うす粥を喰べました、これから寝るつもりです。電報を打つて置きました。サーシャ・クズミンスキイは姉妹にも、アンドレイ・エウスターフイエキツチにも、リーザにも、彼の心を動搖させてゐる一種の羞恥の感情からまだ何も話してゐません。わたしはターニヤに對する彼の疑ひがどこにあるかすつかり打明けて彼と話をしようと思つてゐました、そして彼もそれを欲してゐるのですが、矢張り羞づかしがつてゐるのか話すことが出來ないのか、話しながらないので、含羞みきつてゐます、非常に若いのです。立つ前にターニヤに打明けて終へなかつたのを氣の毒に思ひます。でないものだから彼は苦しいのです。尤も彼はひどく疲れてボンヤリしてゐます。

さよなら、わたしはどんなにこゝにゐるのが辛くて絶えず家へ惹き付けられてゐるか書きます。氣を落してゐる時ではありません、活動しなければなりません。明日はザハリインとそれから契約と、少くとも二つあります。

木曜日、六月二十二日

一三日どころか殆ど一週間にもなる努力が殆ど全部無事に解決した後、公園のリーザの部屋から貴

女に手紙を差上げます。午前中に金に替へました、債券を十枚質に入れました、それから印刷者のリースが來ました、それで彼と契約を取交はして手附金として五〇〇ルーブルを渡しました。このリースは若者で、實際的な几帳面なドイツ人です。書物の廣告、販賣、保管費として一割渡したバルテネフも同様に非常に几帳面な経験家ですから、これ以上出版をよくすることは不可能であると思はれるほどです。全部で四五〇〇ルーブルかゝる筈です、十一月初旬に出來上がります、校正はわたし自身がやつてそれからバルテネフが見ます、——正誤の意味で、それから言葉の正確さを期するため、思ひ切つて訂正することを彼に許しました。部数は四八〇〇、定額は八ルーブルになる筈です。その中から三割とつて、一割をバルテネフに、二割を書店へやることになりました。前の豫定に反して五分餘計にバルテネフに與へることにします。今わたしは第一部をすつかり直して、それから第二部にも多少手を入れて渡さうと思ひます、その爲めには健康な落着いた數時間あればいゝと思ひますが、それは土曜日までには見附かるでせう。

三時までリースとバルテネフと三人で相談しました、それからわたしはザハリインを訪ねました、彼のところで一時間かゝりました、あともう一時間ばかりゐました。彼の豫想した病氣はわたしに無く、彼はそれを祝つて呉れました、膽石と神経衰弱とです、彼はカールスバード鑛泉で治療することに決定して、経過を見る爲めに三日間彼の監督のもとに鑛泉を飲んで見るように勧めました。わたしは同意しませんでした、しかし明日と土曜日にレドリツヒのところで鑛泉を飲んで、もう一度彼を訪

ねて見ようと思つてゐます。

その外、彼は六月七日にツィラへ行く筈になつてゐるので、電報を打つてよこすか、自分で來て、鑛泉の効果を見てくれるさうです。彼は最初カールスバード水を沸かして、次ぎには冷たいまゝで浴びれば完全に治ると請合つてゐます。しかし非常に嚴重な攝生法を書いてよこしましたが、わたしは貴女の助けをかりて、實行したいと思つてゐます。ザハリインが非常に長くわたしを引留めたので、わたしはやつと五時に公園へ行つて、美事な、しかし非常に簡単なトリフォノヅナの食事に出席することが出來ました、ピピコフ、クズミンスキイ、フツクス夫妻が一緒でした。食事の後ラズウモフスコエまで散歩に行つて、そして今歸つて來たばかりです、明日はまた午前中は鑛泉を飲んだり、ザハリインのところへ行つたり、バルテネフと相談をしたり、いろ／＼な用事で潰れます。わたしはもう朗讀の意志を棄てました、で明日は二時に公園へ晝の食事に行つて、夕方からすうつと仕事をするつもりです。

クズミンスキイはアー・エーにもフツクス夫妻にも何も言ひませんでした。本能は理智よりも確かです。さうしても何もならぬでせう、そしてその方がいゝのです。かう言つて今、彼はわたしのゐるリーザの部屋へ遣人つて來て、そしてターニャへ手紙を書き出しました。いや、このことを書いてはいけないのです、わたし達の役割は黙つて待つてゐることです、けれども若し彼が何も言はないでわ

1) フツクス、後の元老院議員、クズミンスキイの姉妹、エレーナ・ミハイロヅナに結婚してゐた。

たしと一緒に歸るやうなら、ヤースナヤへの彼の來訪を止めることがわたし達の義務であるやうにわたしには思はれます。かうしてわたし達が少しも豫期しなかつた悲しみと苦しみがわたし達の上に落ちかゝつて來たのです。わたしは日曜に立つと言つて彼を欺いて、土曜日に歸つてしまひたい位にも思つてゐます。

わたしは今日全く健康です、凡ては昨日と全く同様です、そしてお別れの終りが近付けば近付くほど、わたしは貴女のこと、日雇人や労働者達のこと、すべての愛するヤースナヤのことを考へないやうに努めてゐます。まだ暢氣にならず、無茶苦茶に急いで仕事をしなければなりません、市街へ來ると何時でもかうなのです。

さよなら。お母さんの代りに伯母さんと子供達を接吻します、お父さんは非常に健康です、そして何時ものやうにわたしを始め皆なものに親切です。

(手紙の上部の餘白に、)

清書のない小説の續きが家に残こつてゐますか、おませんか？

秋にモスクワへの旅行先から。——以下三通——

ツーラより。

わたしはツーラまでずうつと寂しい氣持をし續けて來ました、それはわたしがあんなにも愚かに貴女を辱しめたからです。どうぞわたしの留守に一時的な感情に身を任せないでください、そして自分を害はないでください。わたしは確信します貴女は既に……。

わたしは出来るだけ早く歸ります。しかし馬は金曜日、朝の汽車に間に合ふように送つて下さい。そして若し機会があつたら(林檎を積み出してゐます)、モスクワへ手紙をください。馬をよこす時には必ず手紙をください。さよなら、貴女を接吻します。

モスクワ

1) 愛する友よ！ わたしは昨日眞直に印刷所へ着いて、必要なものを渡しました、それからゴリツインを訪ねました。彼は理想的な立派な校正係です、しかし非常にのろいのです。彼の所に一時までゐました、そして『ロシヤ』で泊りました。返事はまだありません。ウルソフの<sup>2)</sup>ところへは一時に参ります。買物とそれからそのほかの用事はこれから午前中にして終ひたいと思つてゐます。御覽のやう

1) 公爵セルゲイ・ヴラザミロキツチ・ゴリツイン。

2) 公爵セルゲイ・セシヨールノキツチ・ウルソフ、セバストポール役に參加した將軍、わたし達の子供レフとマーシヤの教父。

に書くことは何もありません、それはわたしが何も仕事をしてゐないからで、これからします。今客間中に聞こえるやうな大声でまづいコーヒーを怒鳴つて突き返してやりました。そしてこれは皆空腹のためです。明日また書きます。皆なを接吻します。

## 六〇

モスクワ

愛する友よ！ わたしは氣持よくモスクワへ着きました。殆ど道中を睡て來ました。リースのところへ寄りました、すべて無事に行つてゐます。ウルソフのところへは人をやりました。彼はやつて來ました、午前中彼と話をして、それから一緒にユーリエフとサマーリンのところへ参りました。午後二人をウルソフのところへ招き、そしてウルソフのところへ食事をしました。彼のところで頭を休めオストロフスキイの新らしい芝居を見る爲めに劇場へ行きました。終りまで見ないでウルソフのところへ歸つて來ました、そこで四人で三時まで話しました。わたしの歴史上の意見はユーリエフとウルソフを非常に驚かしました、そして非常に彼等から尊重されました、しかしサマーリンとは他の哲學上の論争に夢中になつて、このことを話し合ふことが出来ませんでした。わたしはいくらか彼に失望しました。昨日三時半に頭痛がして家へ歸つて來たのですが、紙も封筒もなかつたので、貴女に手紙を書くことが出来ませんでした。今日は十二時に元氣で健康で目を醒ましました、お茶を持つて來さ

せて（本當に賢いでせう？）そして、今すつかりリースと相談を決めました。クロースはまだ賣れ切れませんが、彼は今それを買ひに汽車で行くのです、わたしはこの手紙をツィラの郵便局へ届けてくれるやうに車掌に渡して貰ふことにします。

エヌ・ペーは例によつて嘘なのです。マーシエンカは十五日からモスクワにゐます。それを、わたしはわたしが着いた日に彼等のところへ行つたウルソフとそれから、昨日ペーイーの訪問を受けた公爵夫人から聞いて知つてゐます。彼女はわたしが來たのを知つてゐます、しかしわたしはまだ彼等のところへ行きません、今日晝飯の時か夕方かに訪ねて見ようと思つてゐます。これで全部です。ザハリインに會ひたいと思ひます。しかし貴女はサマーリンやユーリエフと話をするやうな——集中的な注意を要する仕事を抱へてゐる際、どんなに時間がすくないかを想像することは出来ないでせう。わたしは昨日などサマーリンと何もしませんでした、それは疲れてゐたので、わたしの必要なことを話し出したくなかつたからです。

さよなら、直きお目にかゝれます。思索の必要以外、すこしでもわたしに興味を與へ、貴女や家と思ふことからわたしを引離し得るものはこの世には何もありません。それを昨日わたしは劇場に行つて感じました。美しい演出であつた新しい脚本を終ひまで見ないで、退席になつて歸つて來てしま

- 1) リースの印刷所で『戦争と平和』の初版は刷られたのであつた。  
2) ヘルゲイ・アンドレーキッチ、シエークスピアの翻譯者、『ルセカヤ・ムイシリ』の創始者。



つたのです。寂しくなりました。

二五

一八六九年

六一

レフ・ニコラエキツチが買ふつもりで買はずにしまった領地の檢分のためにペテルブルグ縣へ旅行した際の手紙。

モスクワ、一人でお読みなさい。

モルシヤンスクへ出るかそれともニージニイへ出るか、どちらの道を取つたらいゝかいろゝ訊きただしたり迷つたりして一日暮してしまいました。モスクワまで一緒に来たイリイナはモルシヤンスクへ出る方がいゝと申しました。ところが此處の、郵便局やこゝで會つたベンザの村の管理人の兄弟などにいろゝ訊ねた結果、モルシヤンスクへ出る道は不定で迷ひ易いことが解りました、それでニージニイへ出ることに決めました。ですから手紙はサランスクへ、局留にして、それからニージニイの、ソボレフの旅館あてにください。管理人の兄弟は——モスクワの豪商で、彼に訊きたゞした結果、彼の兄弟のところに暖かい場所があるといふこと（彼はもう十五年から管理してゐるさうです）買手

はあまり見かけないといふことを知りました。

碌でなしのリースのところでは何も出来てゐません、わたしは校正を見ることが出来ず、きつと持つて歸るわけにいかないでせう。ゴリツインには會ひませんでした、多分會へぬでせう。昨日は途中何も喰べませんでした、クラブへ行つて見ましたが、はつきりしたことは何もわからず、メングデン、ソボレフスキイ、フォン・井ーチンに會ひました、そして食事をして、直ぐ出ました。肝臓はまだ矢張り痛みます、しかし大したことはなさうです。

今はまだ二時で、汽車は五時に出るのですから、ベルヒーリエフのところへ行つて来ようかと思つてゐます、——ベンザのことを詳しく知つてゐるかも知れません。勿論スホーチンには會ひました、序に彼はわたしに、キヤーゼムスキイが宮臣達の滑稽詩を作つたと話しました、かういふのです。

トウルベツコイを擲擧するトルストイ夫人、  
余は彼女のうちにトルストイ家の模型を見る、

『戦争と平和』の第七部

多謝す、豫期せざりき。

ソロビョフの<sup>1)</sup>ところでは金高は僅に五〇〇ルーブルです。彼は渉々しくないと言つてゐます。それは夏であるせいと、第六卷の出るのを待つてゐるからだとのことです。

1) 書店。

二七

わたしは何時も貴女と一緒にです、そして特に離れてゐる時、いつも和やかなやさしい氣持でゐるのです、かうした氣持でわたしはツラへ着いたのです、そして不愉快にもアに會つたのです、彼は冷やかな、ちつぽけな、性の悪い利己主義者です、ですから彼に腹を立てるのは非常に苦痛でしたが、しかし他に仕様がありません。わたしは信じてゐますが、彼はテを引取らぬでせう……。彼は他人に不愉快を與へて喜んでゐるやうな人間の一人なのです。彼には他人から横どりのした食物の方が甘いに相違ないと思ひます。

書物と肉汁を買ひました、酒はニージニイで買ひます。シューミン(?)に聞いたらモルシヤンスクへ出られるかどうかはつきりしたことが解るでせう。しかし多分覺束ないと思ひます。何れにしても貴女の手紙を受け取りに引返すことにします。さよなら。

## 六一

無事にニージニイへ今日、二日の午前八時に着きました。これから旅行の困難が始まります。誰に訊ねてもはつきりしません。皆な刈りいれを急いでゐます。雇へる馬車は——タラントスで、荷馬車よりも悪く、その上車輪が碎けさうだといふのです。それから驛の馬は目下市が立つてゐるから無いかも知れないと言はれます。それでわたしは驛つぎの郵便馬車で行くことに決めました。驛つぎの郵便馬車の方が乗つて行くのに樂ですし、壊れる心配もありません、それに泥濘でも出ることは出るさ

うですから。粗末な馬車で晝も夜も揺られて行くわけです。今夜は泊まることにします。凡てのことから判断して、四日に着ければと思つてゐます。モスクワからニージニイまではわたしは全く一人でした。唯だバヴロフまで、モスクワから六十露里ありますが、ラバチンといふ金持の商人と一緒にでした。この人とわたしは神について非常に興味ある話をしました。歸つてから話します。さよなら。今コーヒを飲んだところで、貴女を思ひ出しました、そして郵便局へ急ぎます。十二時に立つ意りです。サランスクまで二五五露里あります、それから六〇露里です。

## 六三

サランスクからこの手紙を貴女に書きます。殆ど目的地へ着いたも同様です。こゝから四十六露里です。わたしは馬車を雇つて眞直に目的地へ参ります。貴女や子供達はどうしてゐますか？ 何も起こりませんでしたか？ わたしは今日で二日不安に苦んでゐます。一昨日の夜はわたしはアルザマスへ泊りました、そして或る異常なことがわたしに起りました。夜の二時でした、わたしは非常に疲れてゐました、早く睡りたいと思ひました、別にどこも痛いところはありませんでした。しかし突然わたしはこれまでに一度も経験したことのないやうな哀愁、恐怖、戦慄に襲はれました。この感情の詳細は後で話すことにしますが、わたしは嘗てこんな苦しい感情を経験したことがなく、また誰にも経

1) 八月。

験させたくありません。わたしは跳び起きて、そして馬車の用意を命じました。馬車の用意をしてゐる間に、わたしは睡りました、そしてすつかり健康を恢復して目を覚ましました。昨日この感情は馬車が走つてゐる最中に遙かに微弱な程度で蒸し返して來ました、しかしわたしは用心をして、それに呑まれませんでしたが、その上それはすつと力の弱いものでした。今日は家庭を離れてあり得る限りの健康な、元氣な氣がしてゐます。この旅行でわたしはどの程度までわたしが貴女と子供達と一緒に大きくなつたかを感じました。わたしはモスクワへ出た時のやうに絶えず仕事に追はれてゐれば一人でゐられますが、仕事がなくなると直ぐ、わたしは一人でゐられないことを感じるのです。

こゝへ來て解つたことから判断して、すつと近いモルシヤンスクへ引返すことになると思はれます。サランスクとニージニイで郵便局へ切手を入れて、貴女の手紙をツィラへ廻して呉れるやうに手紙で頼みませう。

わたしはこれ迄うつと一人の文明人にも遭はずに、まるで砂漠の中でも行くやうに、乗り續けて來ました。ニージニイから道の三分の二までは土地の性質は一樣で——砂地、モスクワ郊外に見られるやうな美しい百姓の小屋です。わたしはこの性質を好きません。サランスクから黒土帯が始まつて、ツィラに非常によく似てゐて、大層いゝ景色です。

わたしは期間を縮めたいと思つてゐますが、しかし目的地へ着かないうちは、何ともはつきりしたことは申せません。恐ろしいです、殊に、天氣が悪いので困ります。泥濘の中を三百露里も返らなければならぬことを思つただけでも寒くなります。

わたしは二つの品を忘れて來ました、毛皮とジヤムです。毛皮は長外套を買つて間に合はせ、ジヤムは砂糖を代用しようと思つてゐます。

さよなら。小説のことゝ哲學のことゝが全く考へに上らないのは幸いです。

一八七〇年

六四

秋、モスクワ

無事に着きました。クズミンスキイのところでも、それから汽車の内でも睡りました。マーシエンカは去年とちつとも變りません、病的な苛々した氣持のまゝです。花婚は結婚式を一月に擧げたいと言つてゐます、しかし彼女は外國へ行つてから、五月にしたいと言ひます。醫師のチェルノフがリィザに結婚することが健康上危険で、それよりも外國へ行つた方がいゝと申しましたらしいのです。わたし

1) マリヤ・ニコラエヴナの息女の——エリザエタ・ワレリヤノヴナ・トルストイ伯と結婚したレオニード・デー・オボレフスキイ公爵。

2) エリザエタ・ワレリヤノヴナ、マリヤ・ニコラエヴナ・トルストイ伯の息女。

は出来るだけ事勿れ主義に、外交的にしてゐました。それで、安心させることが出来たらしいです。何れにしても出来るだけ早く外國へ行く方がいゝが、しかし立つ前にもう一度すつかりリーザの健康の問題を決めて置くことに話がきまりました。その爲めにわたしは今ザハリインのところへ行つて、何とかしてリーザのところへ来て貰ふつもりです。若し彼が、わたしの信じてゐるやうに、リーザが結婚しても少しも差しつかへないと言ふなら、花婿を一月にドレスデンへやつて、そしてそこでモスクワにするよりもすつと手軽に結婚式を挙げさせて、それから相たづさへてロシアへ歸らせればいゝでせう。若しまたザハリインが春まで待つ方がいゝと言ふなら、勿論さうしなくてはなりません。花婿のほか皆なわたしの意見に同意です、花婿は折悪しく今モスクワにゐないので。寫眞で見ると中の美男子です、リーザは戀してゐるやうです、それでわたしは以前のよりも楽しくこんどの結婚を眺めてゐます。

ワレンカと貴女の大好きなお人形さんのポーリンカに會ひました。ワレンカは何時ものやうに非常に親切です。ウルソフが訪ねて来て、マルタといふオペラを見にさそふので、いや／＼ながら一幕半見て來ました。わたしは『ロシヤ』に泊つてゐます。早く床に就いてよく寝ましたから、仕事も捗ります。今日はベルヒーリエフの老人達のところで晝の食事をする筈です。では、さよなら。すこしも暢氣にしてゐられません。ダイヤコフ夫妻には會ひません、しかし丈夫で、再びマーシエンカと仲よくしてゐるのを知つてゐます。

## 一八七一年

## 六五

一八七一年の六月から七月へかけてわたしの兄弟のスタチヨールと一緒に馬乳を飲み、サマラ曠原へ旅行をした時の手紙。

サマラ行きの汽車に乗つてゐます、全部すましました。何れ手紙を上げます。やつと汽車に間に合ひました。ターニヤには結構な乳母です、リンドホルムといひます。コロク街、ポニヤトコフスキイ家、シワーベ方です、給金は十二ルーブル、若い女です。ターニヤに手紙を書かせて旅費として三ルーブル送らせなさい。お勧めします。美しくはありません。

貴女のエル・テ

## 六六

貴女のために日記を續けます。よく睡れませんでした。脊中が痛みます。朝起きて、出来るだけ訪

六月九日

問者を避けて、用を達しに出掛けました、銀行へ、再びリースのところへ、それから英國婦人のところへ、すべてスチヨールのお蔭でうまく行きました。慎重帳面になります、決断が必要な時はかういふ顔をします。てやりました。わたしには大變氣に入りました、單純な働一つよくないことは、屢々勤め先を變へたことです。



な態度が必要な時、わたしは几ターニヤに乳母のことを知らしき好きな女に相違ありません。

紙は非常に氣に入つたので、それを買入れることにして、ペテルブルグへ送らせました。ソロビヨフを怒鳴りつけてやりました、そして教へてやりました、しかし金は彼からはもう来ません。必要品と、それから書物を買ひました。そして四時に家に歸りますと、チモフエイが來てゐて、非常に嬉しく思ひました、それからレオニードと一緒に展覽會で晝の食事を済ましました。展覽會を駈けるやうに一と廻りして、すこし遅れて、わたしはプラットフォームへ乗りつけた時は、丁度もう第二鈴で、切符はもう賣りません。すると髪を振り亂した紳士が細君の手を引いて近づいて來て、わたしに叫ぶのです、『切符は入りませんか？ わたしは買つたのですが、荷物が來ないので、切符が無駄になります。』『わたしはニージニイまでゝす。』とわたし。『わたしもニージニイまでゝす。』と彼。『一枚では困ります、二枚いるのです。』とわたし。『二枚あるのです。』と彼。——わたしは紳士に十八ルーブル拂つて、客車に飛び込みました、第三鈴が鳴つて、動き出しました。何故か知りませんが、しかし何だか異常な氣がします。

途中で一等に乗換へましたが、殆ど終夜睡れませんでした。汽車から直ぐに『カフカズ・イ・メルクリイ』といふ汽船へ乗移つて、そして今汽船の上でこれを書いてゐるのです。廣々としてゐます、男子は二人きりで、——地主とサマラの檢事、それからその家族と子供達です。デンマルクの人達らしいです。綺麗で氣持がよく、それに天氣が實にいゝです。非常に輕快で、簡素で、靜かなのです。何故わたし達は皆な一緒に來なかつたでせう？ 一緒にだつたらどんなに楽しいこととせう！ ベーチャなどでも疲れることなんかありません。しかしヤースナヤで直つて呉れ、ばそれで結構です。

貴女がわたしの留守の間にホヰイニ<sup>1)</sup>へ旅行をするといふ計畫を立てられた時には、わたしはそれを非常に軽く見てゐました、が今は心配です。しかし行くにはありません。行つていらつしやい、わたしは楽しいだらうといふことを知つてゐます、しかしわたしは心配です。わたしが留守でも退屈しないでください。わたしはいま未來の大きな悦びの道をつける爲めにわたし達は旅行をしてゐるのだといふ氣がしてゐます。その意でタヌイカでよく見物をして置きます。さよなら、可愛ゆき者よ、出來るだけ屢々そしてどんな細かいことでも知らしてください、どんなことでもわたしには貴いのですから。——何時ものことです、どの子供か、褒められると、その褒められた者にわたしは一層の注意を向けます。ウルソフがイリユーシヤを褒めてゐました、それでわたしは絶えず彼を思ひ出してゐます。何を土産に持つて行つたらいいか彼等に訊ねてください。サマラまでは船で三晝夜

1) その頃わたくしの姉妹のリーザ・マッレンコワの住んでゐた領地。

と思つてゐましたら、二晝夜です。

114

六七

汽船の上でこれを書きます。手紙はこの次ぎに着く町から行くことになります。モスクワでは非常に忙しくて、暇がありませんでした。それほど暇の無かつた譯は、わたしがサラートフにするか、サマラにするか、決つたのが出發前一時間だつたからです。全部初めから書きませう。わたしは眞直にワーセンカのところへ行きました。ワローヂヤは直ぐそのまゝ、ペテルブルグへ立ちました。ワーセンカは不在でしたが、直き歸りました。何處が馬乳の産地か彼等は何も知りませんでした。金はわたしが考へてゐたやうに百ルーブルでなく、七十五ルーブル渡されました。わたしは昨日のうちにブラツトオヤにゐるザハリインに電報を打つて置きました。朝起きると買物をして、乳母と醫者を探しに出掛けました、そして醫者の外は全部見附かりました。市街には誰もゐませんでした、ザハリインとニクーリンから電報で食事をしに来るやうに呼ばれてゐるのですが、彼等を別荘地へ訪ねて行つて見る氣にはなれませんでした、一日かゝるだらうといふ氣がしたからです。醫者に言はれさうなことは、大抵解つてゐます。別に大したことはありません、出掛けるのも悪くないでせう位にきまつてゐます。が、何處へ行かうかといふ段になると中々決まりません。アトカルスクに領地を買つたバルテネフは、そこに非常にいゝ馬乳があると言ひました。わたしの會つたフィリツボキツチ、レオンチエフ

といふ二人のタンポフの醫師とそれからサマーリンは、比較が出来ないほど氣候がよくて、その上すべての醫者達に認められてゐる馬乳の産地は、サマラだと言ふのです。途中でも醫者や知人に會ひましたが、皆なサマラが最もいゝと言つて呉れました、それでわたしは曾遊の地へ行くことにしたのです。どうぞ、急いで、別の宿所をお知らせする迄にサマラへ宛てゝ手紙をください。わたしはサマラの郵便局へ届け先を知らして置きます。

こんどは乳母のことです。ターニヤはわたしの電報のやうな簡単な手紙に困つてゐることゝ思ひます。實はドイツ人の宣教師のところへ行つたのです、この宣教師とそれから特に老婆のデグホーフが五つのアドレスを呉れたので、その中の二つだけ行つて見ました。一人は不在でした、もう一人のデグホーフが一番勧めてゐたリンドホルムは、スチョーバが探し當てゝ呉れたので、訪ねて見ました。二十五です。六年ばかり一つ所に、メゼンツオフ方に乳母をしてゐたさうです。顔付は非常に氣持のいゝ方ではありません。しかし正直な娘らしく、健康ですし、苦勞もしてゐるやうです。段々増してやることにして十二ルーブルで承知してくれました。職務はわたしが書いて置いて來ました、大人二人の世話、下着、着物の出し入れ、彼等と一緒に寝ること、裁縫をすること。それからドイツ語の讀書きを教へること。ドイツ語はよく出來ます。ロシア語を話します。わたしが雇ひたいくらゐです。ツौरまでの旅費を出して貰つて、それから一年経つて若し折合はぬ時は歸りの旅費も貰ひたいと言つてゐます。わたしは即答はしませんでした。彼女は五日間返事を持つ約束をしました。若し氣に入

らなかつたら、モスクワへ送り返せばいいので、もう一度三ルーブル出すぐらゐ何でもないでせう。金はワレンカの手から渡したらいいでせう、彼女を彼のところへ寄らせて、ワレンカには三ルーブル渡すように手紙をやつたらいい譯です。

脂肪商からは金を受取りませんでした、彼は来る約束でしたが来ませんでした、従つてあの金は貴女に受取つて貰ひます。エスが素的なものを買ひ込みました、ブアレのところまで二十八ルーブルで買ったバス・ド・ジエアンと一緒に送ります。バス・ド・ジエアンのやり方は次ぎの通りです、男達を呼び集めて、そして皆なで理解してやつて御覽なさい。

(この次ぎのところへ送つた手紙でバス・ド・ジエアンのやり方が書いてある。)

品物は水曜日に着くでせう。わたしの健康は普通以上、全くいいやうにさへ思はれます。子供達、貴女自身、それから家のもの皆なを接吻してください。どうぞ長い手紙をください。スチヨーバを連れて来たのを非常に喜んでゐます。彼は非常にやさしくて親切です。リュボービアレクサンドロヴナが参つてをられることゝ存じます、彼女とスラーヲチカを接吻してください。彼女が貴女と一緒にゐることを思ふとわたしは非常に愉快です。

六八

六月十四日、夜。

わたしのゐたことのあるカラルイクへ一つ手前のゾボライの村からこの手紙を送ります。どんなに訊きたゞしても、これよりいゝ方法はありません。二晝夜わたし達はチルガを航行しました、非常に面白いですが、しかし不安でもあります。不眠症と、その結果としての非常に重苦しい気分さへなければ、わたしは全く健康だと言へるでせう。實際、スチヨーバはわたしに必要です、そしてその上に彼と一緒にさへゐればアルザマスの哀愁に襲はれることがないやうに感じます。馬乳を飲む人達で、サマラ附近にある四つの建物はみな満員です、部屋も無ければ馬乳も無いほどの繁昌です。カラルイクもさうではないかと恐れてゐます。カラルイクの一番不便な點は郵便局が無いことです、貴女もわたしも二週間以上手紙を書かずにゐられやうとは到底考へられませんか。それでわたしはかうすることに決めました、カラルイクからサマラへ出る毎に必ずわたしは貴女に手紙を書くことにします。しかし若し、一週間もさういふ機会がない時には(それは屢々あるだらうと思つてゐます)サマラへ人を遣つて自分の手紙を出させて貴女の手紙を貰つてこさせることにします。貴女はわたしに言つたやうに書いてください、多ければ多いほど結構です、しかし一週間に二回以下ではいけません。この先きどうなるか解りませんが、しかし今までのところわたしは哀愁から抜け出てゐません。スチヨーバは非常に愉快です。さよなら、皆なを接吻してください。

六九

二七

六月十五日

疲れて不健康ですから、すこしにして置きます。疲れてゐるのは、カラルイクまで百三十露里の道を乗り立つて来たばかりだからです。わたしのバッキール人は皆なわたしだといふことを知つて、喜んで迎へてくれました。しかしわたしが昨日見たところによると、彼等のところでは決して以前ほどよくないやうです。彼等の土地は一番いゝ所が切り取られてしまひました、彼等は耕し始めました、そして大部分が冬の室に引籠つて遊牧にも出ないでゐます。わたしはしかし天幕に住むことにしました、十五ループルで犬を買つて、試験に合格しようと思氣込んでゐます。しかし非常に困難です。寂寥と、それから何故わたしは貴女と子供達から遠く離れてこんな所へやつて来たのかといふこと、残して来た貴女や彼等が別れて来た時とすこしも變らないでゐてくれるかどうかといふこと、の思ひに堪へられません。しかし今日は疲れてゐますし、氣分が進みません。毎週手紙をくださることを希望します。さよなら、貴女を抱擁します。

## 七〇

六月十八日

四本目の手紙を貴女に書きます、やさしき友よ、まだ貴女のは受取つてゐません、受取ることが出来ませんでした。月曜日には使ひに出した者がサマラから手紙を持つて来るだらうと待つてゐます。

愉快なことは何も書けません。こゝへ来て以來、毎日夕方の六時に、哀愁が、肉體的な哀愁が、瘧のやうに、始まります、この感じをわたしは精神と肉體とが離れぬゝになるといふ以上に説明のしようがありません。貴女を思ふ精神的な哀愁にはわたしは頭を掻げさせません。そして決して貴女や子供達のことを考へまいと努めます。それでも絶えず考へられて、考へたら最後、すぐに飛んで歸りたくなりますから、考へることを許さないので。わたしは自分の状態が解りません、或は天幕の内で最初の寒かつた晩に風邪をひいたのか、それとも馬乳がわたしには性に合はないのか、こゝへ来て三日、わたしは増々悪いやうな氣がします。殊に——氣が弱くなつて、寂しいのです、カルタがしたくなつて泣きたいです、しかしバッキール人やスチヨーバとカルタをするわけにも行きません。

わたし達は天幕の内に住んで、馬乳を飲んでゐます(スチヨーバも同様です、皆なが彼に御馳走するのです)、生活の不便は貴女のクレムリ風の心を恐怖させるでせう、寢臺も、食器も、白パンも、匙もありません。ですから、わたし達の生活振りを見たら、貴女は實に容易に焼き過ぎた七面鳥や鹽氣の足りない圓パンの不幸を忍ぶことが出来るでせう。しかしこれ等の不便はすこしも不快ではありません、若しわたしが健康だつたら、却つて非常に楽しいでせう。がさうでないものでわたしはスチヨーバを寂しがらせてゐます。そしてわたしは彼が寂しがつてゐるのを知つてゐます。銃獵は可成り出来ず。わたしは一度行つて野鴨を二羽打ちました。こゝにはわたし達以外、十人ばかりのいろゝな馬乳の飲用者がゐます、副検事だの、辯護士だの、地主だの、僧侶だの、商人だの、そしてわたし



は宗教學校のギリシヤ語の教授を見付けたので一緒に本を讀んでもらつてゐます。

わたしは二十七日の日曜まで待つて見て、それでも尙ほ哀愁と瘧とがなほらなければ、一と先づ歸ることに決めました。こちらへ來た當時は夜になると寒いくらゐでしたが、昨日十七日から非常な暑さになりました、わたしは今日、すっかり參つてしまつてゐるスチヨーバに、若しこのまゝだつたら、この暑さのために氣狂ひになるものがあるだらうと言ひました、殊に周圍百露里に亘つて文字通りに一本の樹木もなく、日蔭と云へば唯だ、太陽にぢり／＼照りつけられて、裸體で坐つてゐても汗をかくやうな天幕より外に何も無い、と思つただけで、容易に氣違ひになるだらうとも話しました。最もわたしに取つて苦しいのは、不健康のためにわたしが何時もの十分の一しか自分を感じないことです。知識的な、殊に——詩的な感興がまるでありません。凡てのものをまるで死人かなんぞのやうに眺めてゐます、——それは丁度、その爲めにわたしが多くの人々を嫌つてゐるその状態なのです。ところが今わたし自身が唯だ在る所のものだけしか見てゐないので、理解もします、想像もします、しかし以前のやうに、愛を持つて、底に徹することが出来ません。詩的な氣持になる事があつても、それが實に酸っぱい、弱々しいもので、泣きたくなります。病氣が内訶してゐるのかも知れません。

家ではどうしてゐます？ 残らず詳しく知らしてください。わたしは貴女の事を現では考ないやうにしてゐます。その代りこれで二日貴女の夢を見ます。昨日は貴女がどこかへ非常に無遠慮に出掛けて行くところで、わたしはいろ／＼な計略でもつて貴女を引留めようとし、そして絶望しました。が

昨夜は姉妹のターニヤが天鵞絨の着物を着て出掛けるところで、わたしと貴女が彼女を引留めてゐるのです。

さよなら貴女。澤山書いてください。皆なを接吻してください。宛名は、サマラ、局留です。

七一

六月二十三日

喜びをもつてこのよき知らせを貴女に書きます、哀愁と不健康とを懇へたわたしのこの前の手紙から二日たつて、わたしは晴々とした氣持になりました、そして貴女を心配させたことを氣の毒に思つてゐます。習慣で、心にないことを書いたり言つたりすることが出来ないのです。堪らないことはこちらへ來てから明日で丁度二週間になりますが、一とも言も貴女から受取つてゐないことです。貴女のことや子供達のこと、或は又そちらで起こるかも知れないと思はれるいろ／＼の事を考へたり想像したりすると恐ろしくなります。わたしが貴女から手紙を受取らないのは、郵便道路から百三十露里も逸れてゐる場所の關係以外——誰のせいでもありません。日曜日に歸る筈であつた使ひのパンキール人が出掛けてから、明日で丁度一週間になります、今日は水曜日ですが、依然として姿を見せません。今わたしは新しい宿所書きを知りました、後へ附けて置きます。一遍はサマラへ、その次ぎは新しい宿所書きによつて、交互にお出しなさい。受取つたら、どちらがいろ／＼か知らせませう。

二三

わたしが貴女に戀へた——哀愁と無感激とは——去りました、スキフ人のやうな氣持に近いものを感じてゐます、そしてすべてが新らしくて興味があります、すこしも退縮しません、しかし絶えざる恐怖と、貴女のゐないといふことが、わたしの引きちぎられた不十分な生活の終る日を毎日のやうに數へさせてゐます。六週間わたしは一日々々と、堪へて行くでせう、そして八月の五日までには、——こんなことはまだ考へたり言つたり出来ないわけですが——家へ歸ることが出来ると思つてゐます、しかし家ではどんなことがあるでせう？ 皆な無事でゐるでせうか、皆なわたしが置いて來たまゝでゐるでせうか。殊に貴女がです。多くのものがわたしには珍しく興味があります、ヘロドトスの匂ひのするバシキール人、單純な善良な國民性によつて美しくされてゐるロシヤの百姓とロシヤの村。わたしは六十ループルで馬を一頭買ひました、そしてよくスチョーパと一緒に乗り廻します。スチョーパは實にいゝです。時々ひどく喜んで、ペテルブルグをけなします、時には人なつつく纏はりつくこともあります、さういふ時わたしは彼が可哀さうな氣がします、矢張り彼は寂しいのです、ヤースナヤにゐないで可哀さうです。

わたしはきつといろ／＼なことを貴女に話してきかせることとせう、そして貴女がわたしの話すことよりは、マシーシャの泣き聲に氣を取られてゐるのに腹を立てることとせう。しかしそれは何時のこととせう？

わたしは野鴨を打ちに行きます、そしてわたし達はそれを喰べてゐます。今乗馬で雁を打ちに行つ



上  
ヤリスナヤ・ボ  
リヤーナのトル  
ストイ邸。  
中  
同門前（改築前  
の舊態）



下  
トルストイの愛した  
林園の一隅このベン  
チはトルストイがよ  
く来て腰掛けたもの  
である。

て来ました——例によつて嚇かしただけです、——それから狼の穴を見附けて、そこでバンキール人が狼の仔を捉へました。

わたしはギリシヤ語を讀んでゐます、しかしほんのすこしです。氣乗りがしないのです。わたし達は馬と同じに草を喰つてゐるので、と言つた百姓ぐらゐ馬乳をうまく言ひ現はしたものはありません。無理な勉強も、煙草を吸ふことも（スチヨーバが吸はせないやうにしてゐて、段々減していつて、今ではもう一日に十三本づゝしか呉れません）、お茶も、夜更かしも、害になることはすべて避けてゐます。わたしは六時に起きます、七時に馬乳を飲んで、冬の室へ行きます、そこには馬乳をしほる者達が住んでゐるので、彼等と話をして、歸つてからスチヨーバと一緒にお茶を飲みます、それから讀書をして、シヤツ一枚で曠野をすこし歩きます、獵に行くことも馬を乗り廻すこともありませぬ、そして夕方、暗くなりかけると、にもに、床に就きます。貴女が、生活振と途中の様子を見て來るやうに言つてゐましたので、こちらへ來てから可成り土地の事を調べて見ました、一デシヤチン（一町一段四畝八歩）十五ルーブルの土地をこゝで勧められました、放つて置いても六分には廻るさうです、ところが今日一人の牧師が土地のことで手紙を呉れましたが、七ルーブルづゝで二五〇〇デシヤチンあります、非常によさうです。わたしは明日見に行かうと思つてゐます。そして何れにしてもこの土地か或は他の場所かを買ふことにならうと思ひますから、手附金に必要な商業銀行の爲替を送つて下さい（サマラ銀行で受取れるやうな方法にして）。

こゝでは夢がわたしを一番貴女がたに近付けます。最初の夜は貴女の夢を、その次ぎにはセリョー  
 ジヤの夢を見ました。子供達の寫眞をバッキールの女や男に見せてやりました。ターニヤと乳母はど  
 うしてゐますか？ サーシヤは歸つたことと思ひます。別れる前に彼に會はずにしまつて、わたし達  
 の間に氣まづいことがあつたにしても、今かうして友達として別れることの出来るのを非常に喜んで  
 ゐるといふことを言はずに終つたのを非常に残念に思つてゐます。

わたしのリュボーピアレクサンドロヴナはどうしてゐますか？ わたしは今自分の健康を彼女に譲  
 つて上げていゝくらゐです。愛すべき主馬寮の官吏と娘達はどうしてゐますか？ 夕陽を浴びてゐ  
 る馬群を眺めながら、昨日ワーレンカのことを思ひました。セリョージヤが悪戯をして、そしてわた  
 しに怒つてゐる夢を見ました、現では、きつと、それは反對になるでせう。

セリョージヤ！

おまへがどう暮してゐるか書きなさい。馬に乗りますか、そして屢々お母さんやハンナから小言を  
 いはれますか、それとも褒められますか、そして品行は何點ですか？ おまへを接吻します。

ターニヤ！

近所に男の子が一人ゐます、彼は四つでアヂスといふ名です、肥つてまる／＼してゐます、馬乳を

飲んでゐます、そして何時もニコ／＼笑つてゐます。スチョーバは大變この子が好きでキャラメルを  
 やります。このアヂスは跣足で歩いてゐます。家に羊が一匹ゐます、羊は何も喰べるものがありませ  
 んから、大そうお腹がへつてゐます。それで彼は、アヂスを喰べたらどんなにいゝだらう、彼はあんなに  
 肥えてゐるからと言つてゐます。品行が何點か書いてよこしなさい。おまへを接吻します。

イリユーンヤ！

セリョージヤに頼んで讀んでおもらひなさい。今日バッキール人が馬に乗つて行つたら三匹の狼に  
 出會ひました。彼はすこしも驚かないで、馬から飛降りて狼に向ひました。狼達は彼に飛びかかつて  
 來ました。彼は二匹逃がしましたが、一匹つかまへて家へ持つて來て呉れました。ですから今夜この  
 仔狼の母親がやつて來るかも知れませんが、さうしたら皆なで打つてやります。おまへを接吻します。  
 わたしの代りに二人の伯母さんと、リョーヲチカとマーシヤに接吻なさい、そしてハンナと、ナター  
 リヤ・ペトロヴナと、乳母にお辭儀をなさい。それから村へ散歩に行つて、イワンの子供達とおかみさ  
 んに、イワンは丈夫で、バッキールの女達と夕、ール語で話をして、ひどく怒鳴りつけますが、彼等  
 はすこしも彼を恐れないで笑つてゐると話しておやりなさい。

さよなら貴女。貴女を接吻します。宛名はどちらとも不定です。元ので出して下さい。

1) ハンナ・タルセイ、大きい子供達について六年ばかりわたし達のところに住んでゐた英國婦人。

六月二十六日

五本目の手紙を書きます、返事は受取りません、そしてこれは再び三日で歸つて来る約束をして九日経つても歸つて来ない呪ふべきパンキール人以外誰のせいでもありません。これからはイワンをやることにしましたからさういふことは無いでせう。近々にわたしはブヅルクの市場へ参ります、——こゝから八十露里ありますが、そこにも馬乳があります、そしてそこから貴女に電報を打ちませう。只今使ひを出しますが、イワンはやらないことにします。貴女から返事を受取つてから直ぐ、彼をやらうと思つてゐるからです。わたし達は元のやうに暮してゐます。わたしはもう日を數へてゐます。そしてすこし身體の具合が悪いと、恐ろしい哀愁に襲はれます。この前の手紙でわたしは貴女に健康を誇りました、しかしそれは三日と続きませんでした、咳が出て具合を悪くしてから今日で二日になります、けれども馬乳を飲むことが出来ないほど、悪いと言ふのではありません。それどころかわたしは非常によくなくなるのを期待してゐます。神經も強壯ですし、智力も體力も増してゐます。風邪だらうと思ひます。氣持の悪い寒さです。暑かつたり、寒かつたりします。さよなら、可愛い貴女、いづれ貴女を抱くことが出来ませう！

六月二十七日

今朝、二十七日の朝、貴女の十三日附の最初の手紙を受取りました。多分十四日にツーラから出したのでせうから、貴女はわたしの第一の手紙を受取つたこと、思ひます。貴女から手紙を受取ることが——一寸會ひに行くのと同じことで、それを手に取上げる時は、丁度家へ近付く時のやうに、堪へがたい、喜ばしい、恐ろしい感じが胸一杯になります。昨日はわざ／＼立寄つて呉れた百姓が坐つて待つてゐたので大急ぎで書きました。今日は詳しく書きます。手紙は二十九日に確かな人に託して出して貰へるに過ぎません。わたしの健康は悪くありません、しかしいゝとは言へません——長續きはしないのです。この二三日は咳が出て、側腹が痛みました、今日はすつかり直りました。時々瘧のやうな状態もあることはありませんが、しかし大したことはなく回数もすくなく、それに力もすつとついで、非常に元氣になりました。わたしはよくなるのを期待してゐます。わたし達の生活振りを知らせませう。パンキール人の村は、冬の室は、二露里ばかり離れてゐます。川のそばの野原の遊牧地には、僅にパンキール人の三家族が住んでゐるばかりです。わたし達の主人（彼は回教の僧侶です）は天幕を四つ持つてゐます、その中の一つに彼は妻とそれから息子とその妻と一緒に住んでゐます（息子はこの前わたしが来た時には子供だつたナギマです）、もう一つは——お客達です。客は絶えずやつて

来て、——回教の坊さん達です——朝から晩まで熱い馬乳を吹いてゐます。第三の天幕には馬乳飲用者が住んでゐます、可成り嫌な感じのする半ばポーランド人で、この地方の官吏の、ピョートル・スタニスラーキツチ、この男を非常にイワンは尊敬してゐます、それから病的な金持のドン地方のコサツク、これも矢張り同様に不愉快な男です。それから第四の、以前は回教のお寺であつた、雨漏のひどい(わたし達は昨夜それを経験しました)巨大な天幕に、わたし達が住んでゐます。わたしは乾草と毛布の寝台の上に寝ます、スチヨーバは羽根蒲團を敷いて床の上へ、イワンは毛皮を敷いて他の隅へ寝ます。卓子が一つ、椅子が一つあります。品物は周圍へ吊下げてあります。一つの隅を食料品室にして物産を置きます、これはイワンの表現で、すべて食糧はさう呼ばれてゐるのです、もう一つの隅は、——衣服と化粧室、第三の隅は——圖書室と書齋です。尤もそれは最初のことだったので、今はすつかりごちゃごちゃになつてしまいました。殊にわたし達が買つたり、何といふこともなしに或る坊さんから貰つたりした鶏どもが、何もかも滅茶苦茶にしてしまひます。その代り直ぐそこで、わたし達の見てゐる前で、毎日三つ宛卵を生みます。その上に尙ほ馬にやる燕麥が轉がつてゐたり、犬が寝そべつてゐたり——セツター種の綺麗な黒犬で、ウエルヌイといふ名前です。栗毛の馬はわたしによく仕へます。わたしは非常に早く、屢々五時半に起きます(スチヨーバは十時まで寝てゐます)。牛乳を入れてお茶を三杯飲んで、天幕の近くを歩き廻り、山から歸つて来る馬群を眺めます、非常に美しく、——一千頭からの馬が、様々なかたまりになつて、そして仔馬がその間を跳ね廻つてゐます。そ

れから馬乳を飲んで、いつもの散歩——冬の室、即ち村へ出掛けてゆきます、そこにゐる馬乳飲用者は、勿論、皆な知り合ひです、(一)眼鏡をかけ、顎髯を生やし、年を老つて、堂々とした感じのするウワローノ伯の土地管理人、(二)最も平凡な従つて退席なモスクワ大學の學生、(三)小柄な、粗毛の外套を着た、はつきりした物の言ひ方をする、そして話が裁判の事になると元氣になる、愉快でないこともない副検事。彼の妻はトマシエフスキイと大學生達を知つてゐます、煙草を吸ひます、髪は赤茶けてゐます、しかし馬鹿ではありません、(四)若い、美しい、モスクワ大學を中途で止したムーロムの地主。皆な彼のことを、スチヨーバさへも、コースチャと呼んでゐます。非常に親切な人です。すべてこれ等の人達が一團をなしてゐます。それから他の一團は、殆ど死にかゝつてゐる(非常に哀れです)牧師と、ギリシヤ語の——宗教學校の先生、スチヨーバは彼を憎んでゐます、彼はきつと誰にでも一點しか付けないだらうと言つてゐます、それからベルムから來てゐる料理人。何れもわたし達の親友です。それから商人だらうと思はれる兄妹、おとなしくて、如何にも商人らしく、まるでゐないのと同じです。

わたしはスチヨーバと一緒に規則正しく一日に二回皆なのところへ、それから知合ひのパンキール人のところへ、料理人のところへも忘れずに、出掛けてゆきます、その外一回遠乗りか散歩かをしませ。晝飯にはわたし達は毎日羊肉を喰べてゐます、木製の椀に盛つて手掴みで喰べるのです。スチヨーバを慰めるためにわたしはサマラで糖果とヌガーを買つてやりました、そして彼はこれ等の物産を

食後の菓子に用ゐてゐます。

二三

土地はこゝから三十露里ばかりあるトウチコワ村が賣りに出てゐます。詳細は話すと長くなりますが、しかしこの買物は非常に有利です。豊作だと二箇年で回収できます、二七〇〇デシヤチンあつて、一デシヤチン七ルーブルの割です、買つてから、一萬までは設備費として注ぎ込む必要があります。どの買入れにもわたしは今度のやうな進んだ氣持になつたことはありません。わたしはサマラにゐる仲介者に手紙をやりました、そして請求額を與へようと思つてゐます。勿論、その前に貴女の同意を得たいと思ひます。領地が収入を生じ回収が出来るためには、來年の夏そこで暮さねばなりません。昨日わたしは未來の隣人であるチムロート<sup>1)</sup>のところへ参りました、學院出で、妻と五人の子供と一緒に暮してゐます。そしてどんなに大きい満足と多少の悲哀とを持つてわたしがお茶のテーブルや、子供達を眺めたかを貴女に語ることは出来ません。一人百日咳をひいてゐます、——大勢の乳母。一口に言つてヨーロッパ風です。家は小さく、六百ルーブルださうです、花壇があり、蔭は全くありません、しかし曠原の空氣、水浴、馬乳、乗馬があります。わたし達のところでも同様でせう。この地方の景色は美しく、森林の外に山があります。水は井戸さへ掘ればどこでも出るでせう。わたしは貴女に銀行券をサマラへ送るやうに書きました。若しまだ送らないのでしたら、待つて下さい。買ふことになつてから、電報で間に合ふでせう。

今日はスチヨーバと一緒に馬に荷車を挽かせブヅルクの市場へ行きます。こゝから九十露里です。

こゝの土地を買ひたい氣持は特にこの地方の住民の單純さ、正直さ、無邪氣さ、賢さに一層そゝられるからです。わたし達のだらしないのは全然違ひます。健康な氣候や經營法の單純にも心を惹かれます。収入はわたし達のところの十倍あつて、心配と努力は十分の一で済むのです。さよなら、何時貴女と接吻することが出来るでせう？ 皆なを接吻します。

#### 七四

六月二十九日

ブヅルクから書きます、わたし達のゐるところから九十露里あります。スチヨーバと二人でこゝへ來ました、一泊して、そして今日、二十九日、夕刻に家へ歸ります。旅行は非常に成功でした。わたしの健康はよろしいです、途中の疲勞と昨夜よく睡れなかつたにも拘らず、いつもの不眠に悩まされる代りに、(目を醒まして見たら)一杯たかつてゐたトコ虫も全く知らずに熟睡が出來たほど、よろしいです。市は興味ある大きなものです。このやうな本當の、農村の大きな市をわたしはまだ見たことがありません。いろいろな種族が十以上にほつてゐます。馬群はキルギス産馬、シベリヤ産馬、ウラル産馬などです。

直接の通信を利用したいためにだけ書きます、詳しくは後で書きませう。それから、電報を打ちま

1) レフ・ニコラエキツチがサマラの土地の買入れを託したサマラの陪審官。



す。わたしはサマラへ電報を打つて貰ふ方法を見出しました。若し何か變つたことが起つたら、電報を打ちなさい、サマラ局、トルストイ伯、公證人アリヤーエフ氣付。——この公證人は馬乳飲用者の中の知己の一人で、わたしは彼に電報が着いたら特別報にして廻送して呉れるように頼んで置きました。只だ特別電報はカラルイクまで二十ルーブルばかりかゝるのを御注意ください。わたしは今日貴女を喜ばせる爲めに電報を打ちます、がわたし自身は同じものを受取ることが出来ないのです。返信料つきにしようかとも思ひましたが、しかしそれがついてもそれからツラカヤーセンキから廻送される譯ですから、その間待つてゐられないことを思つて止めました。それに電報が何になるでせう！善いことも悪いことも時を持ちません。それは常に前か、後かです。現在の善、現在の悪です。

オフエンベルグへは別に返事を出さないことに決めました。多分、彼自身か兄弟かもう一度手紙をよこすでせう。さうしたら解るでせう、それにこゝの買物が他へも影響します。

リュポビーアレクサンドロヴナはどうしてゐますか？ 彼女がすこしでも快くなればわたしはどんなに嬉しいでせう。出来るだけ安靜にしてやることを考へなさい。今日馬乳を飲み出してから二週間、三分の一です。日を數へてばかりゐます。——さよなら、貴女を接吻します、皆なを接吻します。

七五

七月三日

丸本目の手紙を書きます、唯だ一寸、わたしがこれ迄と全く同じやうに、貴女からの手紙を苦しく待つてゐるといふ事だけを言ふためにです。二十三日以來なにも受取りません。毎日待つてゐます。精神的な寂寥が肉體的なそれを壓倒してゐます、そして何時この苦惱が終るか解りません。急いで書きます、——バシキール人が坐つて待つてゐるのです。健康はよくも悪くもありません。さよなら、貴女を抱擁します。明日また書きます。

七六

七月七日

昨日は幸福な日でした。わたしは手紙の來るのを苦しく待つてゐました、するとサマラから歸つて來たバシキール人が、手紙はありません、或るロシア人が受取つて行つたさうです、と申します。そのロシア人は莊園の管理人かチムロートのところの管理人かどちらかにきまつてゐます、わたしは二人に郵便局へ廻つて見て呉れるように頼んで置いたのです。わたしは馬に鞍を置いて、二人のところへ出掛けました。一人は持ちかへつてゐません、チムロートへ参りました。——管理人は歸つたかね？——『歸りませぬ。しかし奥さまがサマラへお出でになりました、手紙を山のやうに持つて参りました、』と百姓がわたしに言ひます。——わたしのもあるかね？——『みんな貴方さまので御座います。』——行つて見ると、實際貴女からのが四本、リーザからの美しい、やさしい手紙が一本、ウルソフとフェ

ツトから二本。わたしは早速庭で読みはじめました、そして無邪氣な百姓は『本當で御座いますか、あちらには山があるさうで御座いますか？』と云ひ乍ら、そばを通つて行きました。貴女の寫眞がこゝにあります、(度々眺めてゐたら)大變氣持よくなりました、しかし最初の印象は随分不快でした。ひどく老けて、瘦せて、見すほらしい氣がしました。尤も別れてゐた後では人の顔なり寫眞なりはよく興ざめた印象を與へるものです。自分の想像の中でわたしは何時も貴女を在るがまゝに、しかしより完全に見てゐます。ところが現實は不完全です。今ではわたしは寫眞と和睦しました、そしてそれはわたしに不快でなく、非常に氣持よくなつてゐます。貴女の手紙はどれも三度繰り返して讀みました。どうぞ、屢々そして澤山書いてください。直ぐには來ませんが、しかしサマラへ宛て、よこせば着きます、唯だわたしの出發よりも一週間前に、つまり七月二十四日からは、出すことをお止めなさい、二十五日でしたらニージニイへ局留にしてください、二十七日、二十八日はモスクワへ局留にしてください。

そちらでは何もかも、手紙によつて判斷すると、乳母とリョーヲチの外、よろしいやうですが、これももうすつかりよくなつて、別に何事もないこと、思ひます。リーザが詳しく書いてよこしてくれました。わたしのこの手紙は勿論お母さんの留守に貴女の手が届くでせう。そこでまたその留守の間の貴女が心配です。

わたし達の生活は相變らずです。スチョーバは獵にゆきます、野鴨と山鶉を打ちました、わたしは

一三日どうも具合が悪いのです、側腹と、胃か肝臓かが、例の通りなのです。しかしいづれも馬乳を飲んでゐるために軽くすんでゐます。昨日、手紙を受取りに、わたしは四十露里馬に乗つて行つて來ました。チムロートからはチムロート夫人と若い學院の卒業生の——ピストロムと一緒に乗馬で参りました。チムロートのところにはダク足の馬が一頭ゐます、そしてわたしは初めてダク足の馬に乗る貴婦人を見ました。忘れないうちに急いで申します。若し無事に生きてゐるやうなら、ダク足の馬を貴女に買つて上げようと思つてゐます。美事で、早くつて、その上搖籃に乗つてゐるやうに樂なのです。

スチョーバは、こゝで退痛するのは羞づかしいことですが、退痛してゐます。銃を擔いで行つて、二時間に二十發も打ちます。それに湖水では馬乳飲用者達が釣りを垂れてゐますが、しつきりなしに喰ふのです。彼等は三十分に鱸を三十も釣りました。わたしはこの頃どちらもしません、散歩をしたり、バシキール人のミハイル・イワーノキツチと將棋をさしたりしてゐます。こちらの天候はツラでは想像も出來ないほどです。氣持のいゝ暑さ、雨、夕立、それも三十分以上は決して泥濘を拵へません。夏はこゝではわたし達のやうな悪い家に住むよりも廣庭に住む方が遙かにいゝです。

土地を買ふ話は交渉をする代理人がサマラにゐないで、この十五日に來ることになつてゐる爲め、その儘になつてゐます。作り話のやうな利益のあるこの買物は、この地方での外の買物と同様です。これは皆な歸つてからお話しませう。皆なを接吻します。貴女を抱擁し。接吻します、わたしは誰に持

1) マーシヤを産んだ時の産褥熱のため、頭を刺つて帽子を冠つて撮つた寫眞。

たしてやる當もなく、この手紙を書きました、それで送る時には、もう少しまた書くことにしませう。  
 九日。翌る日書き加へます。手紙は明日送ります。健康は今日は全くよく、それで今日わたしはピストロムと一緒に遠いバシキール人の村へ出掛けて、獵をして來ます。月曜日に、十二日に、また書きませう。貴女がマーシヤにやさしくなつたのをわたしは非常に喜びました。わたしは非常に彼女を愛してゐます、それで貴女が彼女に冷やかであつたのがわたしには悲しかつたのです。貴女の寫眞は苦行者に似てゐます、しかし矢張りわたしはそれを嬉しく思つてゐます。

七七

七月十六日

長いことわたしは貴女に手紙を書きませんでした。わたしもすこし悪いけれど、大部分は運命のせい입니다。わたしは一度書く機会をはずしました、そしてそれ以來毎日『いま行きます、いま行きます、』と言ふので、わたしは五日といふもの延ばし延ばしして來たのです、しかしもう我慢が出來ませんか、特別扱ひにして出します。この前の手紙は、多分、九日か十日、出發前に書いたやうに憶えてゐます。あれからわたし達は實際出掛けたのです、所謂コスチエンカと、學院を優等で卒業したばかりのドイツの青年であるピストロム男爵と、スチヨーバとそれからわたし、二頭立てで、編んだ籃の中に坐つて（こゝでは皆なこれに乗つて行くのです）、案内者も馭者も無しです。わたし達自身何處へ行

くのか知らないで、道で出遭ふ人を捉へては、わたし達はどこへ行くのでせうと訊く仕末です。馬乳のあるところを探しながら、獵をしながら、唯だ漠然とイルギーズとか、カメーシエツクとかを送り迎へしながら、馬車を進めるのでした。わたし達の旅行は四日續いて、そして非常な成功でした。獲物は無數で、それを置くところが無くなり、喰べるものもありません。そしてバシキール人も、わたし達の行つた場所も、わたし達の仲間もみんな素的でした。わたしの伯爵の稱號とストルイピンとわたしの以前の關係から、こゝでは皆なバシキール人達がわたしを知つてゐて、非常に尊敬してゐます。わたし達はどこでも非常な歡待を受けました。どこへ行つても、主人がよく肥えた羊を屠つてくれ、馬乳を充たした大桶を供へ、床の上に毛布を敷き、枕を出して、そしてその上に客を坐らせて、彼の羊を喰ひ盡し、彼の馬乳を飲み干さないうちはわたし達を放さないのです。手で掬つて客達に飲ませ、手掴みで（ホークなどありません）お客達の口へ羊肉や脂肪を押し込むのです、そしてそれを拒わつて耻をかゝせることは出來ません。滑稽な事が随分ありました。わたしとコスチエンカは盛んに喰べたり飲んだりしました、そしてそれは確かにわたし達に利益でした、しかしスチヨーバと男爵は滑稽で哀れでした。特に男爵がさうでした。彼は負けない氣になつて、飲みました、しかし仕舞ひには堪らなくなつて遁げ出してしまつたのです、その後、歸り途にもう一度あのお客好きのバシキール人のところへ寄らうかと言ふと、彼は殆ど涙を流さないばかりにして立寄らないで呉れるやうにと歎願しました。このことからでも貴女はどんなにわたしの健康がよくなつてゐるかを知ることが出来るでせ

う。尤もすこし側腹が痛みましたが、大したことはなく、今ではすっかりよくなりました。殊に寂寥が忘れたやうになりました、つまり今やつと馬乳が利いてきて、眞の馬乳飲用者の状態に遣入つたのです、即ち朝起きるから夜寝るまで馬乳に酔つてゐるやうな氣持で、そして時々二日も三日も殆ど何も喰はずにゐられるのです。この天氣は素晴らしいものです。旅行中には雨が降りましたが、併しこゝ三日ばかり恐ろしい暑さが續いてゐます、それでもわたしには氣持がいいのです。スチヨールバは今ではもう退痛をしてゐないやうです、それにすこし肥つて大人びて来たやうに思えます。貴女や、セリヨージヤや、ハンナや皆の者をわたしはこゝへ連れて来たいと思ひます。彼女の病氣がどんなにわたしを苦しめるでせう。去年の夏のやうに病はないで呉れ、ばい、と望んでゐます。貴女がビ、コフのことを知らせて呉れてから、わたしは毎日街道を眺めて、そして彼を待つてゐます。若し彼が来てくれたら、わたしは非常に幸福でせう、そして彼の好きなものを何でも御馳走してやらうと考へてゐます。それからきつとウハアへ（全部バシキール人の部落を通つて）、四百露里の旅行を企てるでせう、そしてそこから眞直に汽船でベーラヤ河からカマ河へ出て、カマからヂルガへ出て歸つて来ませう。今わたしはこの旅行は、空想はしてゐますが、多分出来ないだらうと思つてゐます。そのため、一日でも歸宅の延びることを恐れます。貴女に別れてゐると、日毎に、わたしは増々強く、激しく、堪へ難く貴女を思ふ情にせめられます、そして増々苦しくなります。これは言つてはならないことです。もう十六日です。ウハアへの旅行がわたしに興味深く思はれるのは、そこまでの道がロシア

に於ける最も邊鄙な豊饒な地方の一つであるからです。貴女は想像することが出来ますか、そこには、森林、曠野、河、到る所に湧き出てゐる泉を持つた廣大な土地があるのです、その土地は——天地創造以來人の足跡をつけられたことがなく、非常に質の良い小麦を産します、そしてその土地が汽船の航路から僅に百露里奥へ這入れば一デシヤチン三ループル宛でバシキール人によつて賣買されてゐるのです。買はないにしても、わたしはこの土地を非常に見て置きたいと思ひます。

土地の購入の問題はあのまゝです。わたしはトウチコフに掛合つてくれるやうに、ベテルブルグにゐるサーシヤのところと、又サマラのトウチコフの代理人のところへ手紙を出したのですが、どちらからもまだ返事がありません。他から聞いた噂ですが、七ループル以上に賣りたがつてゐると言ひます。若しさうなら、わたしは買ひません。貴女が知つてゐるやうに、わたしは一切を運命の解決にまかせます、今度もさうします。

この前の手紙を出した後、わたしは貴女から尙ほ手紙を二通受取りました。どうぞ、屢々そして澤山書いてくださいといひたいのですが、しかしこのわたしの手紙の返事は恐らくニージニイノゾゴロドへでない間に合はないと思ひます。貴女の手紙は、——それがわたしに與へる感動からすれば、如何なるギリシヤ人<sup>2)</sup>よりも有害であることは明かです。その上わたしが突然それを受取るのだから尙

1) アレクサンドル・ニコラエキツチ、ヤースナヤ・ボリヤーナの隣人、テリヤチンキの持主。  
2) わたし及びわたし達の親友であるフェットとウルソフなどはレフ・ニコラエキツチの病氣が冬の間あまり熱心にギリシヤ語を勉強したせいだと思つてゐたのであつた。

更です。——わたしは涙なしには読むことが出来ません、全身が震へ、心臓が高鳴ります。それに貴女は頭に浮んだことをその儘書かれるのでせうが、わたしには、一語々々に意味があつて、どれも皆な繰り返し／＼讀むのです。貴女の二つの知らせは非常にわたしを悲しませました、それはわたしがリーザの所へ行つて再びお母さんをわたし達のところへ連れて来ない限り、わたしはお母さんに會へないだらうといふことと、殊にやさしい友のターニヤがわたしの着かないうちに歸らうとしてゐることです。それは悲しいことです。どうして貴女はタチヤナ・アレクサンドロヴナ伯母さんのことを書かないのですか？——只今わたしはウルソフとフェットから手紙を受取りました、返事を書かなければなりません。オフエンベルグの手紙にはどう返事をしたらいゝかまだ決めてゐません、しかしワルンヤワの彼の宿所は十八日までゝすから、何も急ぐ必要はないのです。何れにしてもわたしはこんな風に返事をしようと思つてゐます、彼の申込みの九〇、〇〇〇を渡してやつて、利息なしで、三箇年賦、一年三〇、〇〇〇づつといふことにします。やさしいリーザを貴女の爲めにも、又わたしの爲めにもよく接吻してやつてください、そしてわたしがこの暑熱と微酔の爲に始終彼女の手紙に返事を出せないでも腹を立てないやうに、それから手紙は大きな満足をわたしに與へました。皆なを接吻します、ドミートリイ・アレクセー・ネツチさへも、若し彼が家族を連れて来てゐるなら、たとへ貴女やターニヤを怒鳴りつけても、接吻します。ターニヤを安心させるやうになさい、若し夫が善良なら、餘儀ない別れなのだから何事も起こる筈はありません、それ以上に、一層多くの價値を彼のうちに認めるやうに

なり、一層強く愛するやうになり、妻にとつて快いものに相違ないところの小さな戀するものゝ悲哀を見出すやうになるものです。信じられない場合には別れてゐる方が一緒にゐる時よりも一層よいのです、別れてゐると何物にも較べることの出来ない理想が、自分のものになるからです。このことはすべて貴女にも關係します。——ワリーヤが手紙を呉れるといゝと思ひます。さうしたらわたしはスチヨーバと一緒にいろ／＼なことを知らせませう。パス・ド・ジエアンがうまく行つてゐて結構です、しかしそれが貴女の方のところではどんな風に行はれてゐるかばかり想像がつきません。イリヤが倒れるところだけ想像してゐます。あゝ、どうぞ、わたしの留守の間、お仕舞までこの前の手紙の通りであつてくれることを祈ります。さよなら、やさしい貴女、貴女を抱擁します。絶えず神経が苛立つてゐます。今も泣きたくなりました、それほどわたしは貴女を愛してゐます。

七月十七日

夕方これを書き添へます。健康は完全です、歸る日を數へてゐます。貴女からの手紙をバシキール人は持つて来ませんでした。渡してくれなかつたのは、ジャンがあまり熱心でつまらぬことを郵便局へ書いてやつたからです。明日は取つて来るだらうと思つてゐます。

七月二十日

昨日再びチムロートへ行つて、そして再び貴女の手紙を受取りました、三通——四日のと、七日のと、十日のです。何時ものやうに最後のを走り読みして、すべてよく行つてゐるのを確信しました。そして残りの家へ歸つてから讀むのに取つて置きました。夜の十二時までそれを讀んでゐました、そして長いこと睡れませんでした。貴女の手紙で見ると、わたしの留守に貴女のところは何かも餘りによくつて、わたしは恐ろしい氣がするくらゐです。殊にこの間貴女が一人で子供達と伯母さんの世話をして暮らしてゐたのを知り恐ろしくなりました。わたしの健康はよろしいです。言ふのは怖いですが、何だかわたしはすっかり恢復してその上すこし肥つたやうな氣がします。神経はたしかにすっかりして來ました。唯だ一つ、時々それも非常に輕微ではありますが側腹が痛みます。馬乳は漸く利いてきました。以前よりも多くの満足を持つてそれを飲んでゐます。その上こちらは今日から涼しくなりました。照り輝いてゐる太陽と強い冷たい風です。そして馬乳は想像も及ばないほど美味です。スチヨーバも不思議だと言つてゐます。

今日教授と牧師が立ちます。明日はコスチエンカが歸ります。わたし達もあと一週間です。わたしは正確に六週間を済まして、二十八日の午前こちらを出發します(御注意ください)。昨日サラートフからアトカルスクまで開通したことを知りました。それで多分わたしもサラートフへ出ることになると思ひます。この方法でわたしは一日儲けた上、今盛んに行はれてゐる方々の市場いちばを通り過ぎることが出來ます。出發する際には必ず貴女に——途中から、電報を打つことにします。

このトウチコフの土地を買ふ話はその後進みません。返事が無いのです。その上オフエンベルグの手紙と、これにはわたしは三〇、〇〇〇づゝ三年拂ひにして九〇、〇〇〇(半分は不動産購入證券で)出す旨を返事して置きました、それからこの買物に對する貴女の反對がわたしを非常に冷淡にしました。何れなるやうになるでせう。唯だ曠野についての貴女の觀念は間違つてゐます。周圍百露里に亘つて一本の樹木もなしでツーラに住むことは——それは恐ろしいことです、しかしこゝでは別問題です、空氣も、草も、乾燥も、溫暖も曠野を愛させる原因となります。五週間もわたし達が泥濘を見たことがなく、濕氣や冷氣を感じたことのないのを想像してください。購入の利益はこゝでは話のやうです、しかし多少誇張されてはゐます。一箇年に購入費を全部回収することが出來ますが、しかし今年のやうに不作の場合には一〇〇〇ルーブルの損失を蒙ります。——何れこれは皆な貴女に會つてから話すことにしませう、が貴女は他のことを考へることでせう、そしてわたしはきつと腹を立てることです。貴女はわたしに對して満足して下さるでせう。何故ならわたしは嚴重に六週間を守り通して、療治を怠ることを自分に許さなかつたから。こゝから三百二十露里あるオレンブルグ縣のステルリンベムへ、附近は全部パンキール人で、森林のある、曠野のある、景色のいゝ土地が三ルーブルづゝで賣りに出てゐるので、頻りに見に行くやうに勧められてゐるのですが、それが療治を覆すのを恐れて、わたしは行かないでゐるくらゐです。今日絶對に行かないことにしました。わたしは貴女に會ふ日を一日でも延ばすことはどんなことがあつても許しません。それほどわたしは家庭生活を苦

にしてゐます！ 貴女が必配してゐてくれる、子供達の叫び聲を！ リョーリヤとマーシヤの二部合唱を聴くのを待つてゐますが、待ち了せないでせう。彼女が快くなつたのを喜びます。イリユーシヤを祝福します、そして接吻します。セリョージャとターニヤとイリユーシヤのために、若しニージュイを通るやうでしたら、何か韃靼人の拵へたものを買つて行きませう。今日思ひ付いて、貴女にも曠野の理解を與へるために、スチョーバにこの草を採集して貰ひました。皆なが歸つてしまふと、可哀さうに、貴女ひとりで坐つてゐるのです！ わたしは貴女と二人で何か考へ出させよう。わたしはこゝへ來て繪を描く事を始めました——讀む方は、特にギリシヤ語は、讀みません（お喜びください）——そして二人のパンキール人を描きました、父と子です。ミハイル・イワーノキツチの父親はわたし達を將棋ですつかり負かしてわたし達をどうにもならなくして終ふ恐ろしいパンキール人です。彼には兄弟が十四人ありました、彼自身には今十一人の子供があります、五十五歳で、そして二人の妻はまだ若くして、そして彼はわたし達と鬼ごつこをするのを敢へて辭さないのです。昨日わたし達は彼とそれから彼の三人の息子と一緒に泳ぎました。一人の六つになる息子のコスチュークが、十五歳の長男の頸につかまると、彼はそのまま平氣で深い所を泳いで、三丈ももぐるのです。馬乳は驚くべき飲物です。いろいろな病氣の人が十人も來てゐましたが、一人の牧師の外は皆すつかり恢復しました、この人は今日立つのですが、冬まではどうかと思はれます。彼は殆ど死にかゝつてこゝへ來たのです。さよなら貴女。もう長いことはありません。明日カラライクからの最後の手紙を書きます。伯母さ

んと、子供達と、姪達と、それから姨を、——若し彼女が貴女のところに來てゐるなら、——接吻いたします。

一八七二年

七九

レフ・ニコラエキツチがトゥチコフ將軍から買入れたばかりの、領地へ赴いた時のサマラ縣からの手紙。

七月

チムロートから貴女にこれを書きます。汽船はよう御座いました。唯だわたしの神経は何時1)も不快に汽車や汽船の響音に昂ぶります。昨日は沿岸の景色を賞する代りに終日算術に苦しめられました。同乗者は、非常に親切なブルンネル將軍と參謀本部の士官でした。夜は殆ど睡りませんでした。サマラへ近付けば近付くほど、收穫の噂が増々暗くなります。皆無だとも言ひます。チムロートのところで次ぎの事を知りました、春に蒔いたのは非常に稀で、全部枯死しました。今六月の終りと七月の初めに雨があつたので早熱1)が出てゐますが、可成りの收穫があるやうに思はれます。そして値段も非常に

1) 當時エヌ・エヌ・ストラホフの監督で印刷に附せられてゐた『初等讀本』の算術の部。

高く、一ルーブル八五コベツクです。それ故、チムロートの話では、一デシヤチンから五十ブード、悪くいつても一デシヤチンから十ルーブルの純益はあらうとのことです。すべてこのことがわたしに深い興味を興へてゐます。チムロートは家族と一緒に別荘に住んでゐます、それで今彼と一緒にタナヌイクへ参ります。そこには家もあり、すべての用意が整つてもゐれば、馬車もあります。手紙を出すのを急いでゐます。さよなら貴女、向ふへ行つてから書きます。

エル・テ

八〇

七月十三日

莊園から出します、チムロートと一緒に無事に着きました。相當の收穫の噂は實現されませんでした。非常に悪いのです。わたしはまだ全部の農場を見てゐませんが、しかし見たり聞いたりしたことから考へて、支出は回収の見込なく、その上再び同量だけ種子をおろすことが必要です。播種しなければならぬ譯は、二年不作が続いた後には豊作を豫想すべきで、今手控へるのは愚かなことだからです。チムロートは春の様子を知らして呉れたので、その後老人達も記憶しないやうな不幸が起つたのです、草も麥も暑熱のために枯れてしまひました、土地は黒くなりました、そして住民は飢饉を恐れて四散しつゝあります。誰も彼も今は草や麥の代りになるものでもあればどんなに喜んで喜び

足りないといつた状態です。金錢上の關係ではわたし達のサマラの事業はこんな風になるでせう、チムロートに耕地整理と來年の蒔きつけの爲めの耕作に對して二千から三千まで支拂はなければなりません、それですから、彼は小麥を賣つて二三千送つて来てくれるでせうし、その上に來年こちらから行つて、全く獨立で經營が出来るやうに莊園を用意してくれるものと思ふべきです。今年是不運な年です、しかしこの不運にも拘らず、サマラの土地が八分に廻ることだけは明かです。金は一文も受取らないでも、二〇〇〇以上かゝる莊園の設備があるわけですから八分には廻ります。刈場は六百七十ルーブルで渡しました。しかし、手紙では詳しいことは説明されません。莊園そのものと家のことを申しませう。場所はタナヌイクでなく、昔の莊園のあつた所で、農村經營の點から見ても非常に適當な所として非常に氣持のいい場所です。第一印象はわたしには大變愉快でしたし、池はまだ水がありませんが、きつと貴女にも氣に入ることと思ひます。家は古くて（これは不愉快です）、灰色ですが、しかしわたし達には全く充分であるやうに思はれます。それにはまだ仕切がなく、大きな部屋が二つあるだけです、それでわたしは仕切の設計圖を作つて見ました、一緒に送ります。その外、管理人と労働者達の爲めの台所がもう出来てゐて、尙ほわたし達の爲めのが出来る筈になつてゐます。その他、穴藏、地下室、小納屋。これは全部土間にして粘土の煉瓦です。それから、莊園の一方に大型の納屋が建つてゐます。すべてこれは殆ど出来上がつてゐます。馬が五頭と編籃とあります、そしてわたしは牝牛、羊、馬具、牝鳥その他を買入れるやうに手配をして置きました。



チムロートは非常に正直な人です、しかし、金に窮してゐたものと見え（彼は市街へ家を建てました）、わたしの分の計算に自分のを混じてゐます、彼自身もわたしにさう申しました。

従つて決算をして見ると今のところわたしの金が彼の方へ多少いつてゐます。彼は正直な人に相違ありませんが、併しわたしは非常に嫌な気がしてゐます、同様に彼の家族も、わたしの事業に對する彼の干渉も、事實それは非常に有益ではありませんが、わたしは甚だいゝ氣がしません。不動産購入證券も執行書も作成済みなのですが、地稅四百五十ルーブルが支拂つてない爲めに、登記が済んでゐません。

自分のことを書きます。わたし達は水曜日の午後チムロートのところへ着きました。わたしは彼のところへ一泊して、それから昨日彼と一緒に自分のところへ来て、そして初めて熟睡しました。パシキール人の村へ馬乳を取りにやりました、それで馬乳があるので物質生活の方は安全です。今日莊園から六露里あちらに見えてゐるガブリロフカからわたしの友達のワシーリイ・ニキーツイチが来て、牝鳥だの牛乳だの卵だのを持つて来てくれました。雨が盛んに降つてゐます、そしてわたしはチムロートへ出掛けようとさつきから待つてゐます。彼は今日サマラへ立つので、その前にわたしは彼と萬事を打合はせてそれから手紙も出して貰ひませう。兎に角、現在ある麥は急の間に合はず、その上喜ばしい状態でもありませんから、わたしは耕地を廻つて見て、播種の場所を選定したら直ぐ、今賣りに出てゐる地區を——若し金があれば買入れるために——見に行つて來ようと思つてゐます、従つてわたしが考へてゐたよりも遙かに早く歸宅することが出来るでせう。この次ぎの手紙には何時歸れる

か、もつとはつきりしたことが書けると思ひますが、今日はやつとそれを決めたので、まだ耕地も見えてゐませんし、チムロートにも會つて打合はせをしてゐませんから、今はまだ何も書けません。

身體の具合を言ひますと、どこも痛いところは無く、道中も満足に堪へて來たと言ふことが出来ません、氣分の方は——勿論、澁りがちで、不充分で、睡つてでもゐるやうです。物を考へないやうにしてゐます。

この莊園に管理人が住んでゐますが、若い獨身の、兵隊上りの男です。周圍はどこを見ても——草を刈つたり耕したりしてゐる者ばかりです。チモフエイは非常にわたしの爲めになります、そして親切にしてくれます。

わたしはペーチャと四週間こゝにゐて見たい氣がします、それは彼のためにもいゝだらうと考へるからです、確かに、こゝは何といふ空氣でせう、これは經驗をしない者には理解できません。しかし一人では——寂しいといふよりも、自分の有益なそして幸福な生活から下らないことの爲めに時間をさかなければならないのが羞づかしいです。ところが貴女なしには、貴女がこゝにゐるといふことを意識しないでは、わたしは働けさうもないのです。スチョーバに傳へて下さい、ワシーリイ・ニキーツイチの可愛い孫娘のサーシヤが麻疹で死にました。——本當に可哀さうなことをしました。

1) チモフエイ・フォカノフ、ヤースナヤ・ホリヤーナの百姓。

2) チプスを病つて疲れてゐたわたしの兄弟。

さよなら、三日後に書きませう。そして立つ時は電報を打ちます。子供達とそれから皆なの者を接吻します。

(手紙に添へてレフ・ニコラエキツチの手で書かれた部屋の廣さを記入した莊園の設計圖が同封されてあつた。)

一八七四年

八一

讀書きの教授法の問題を審議する爲めの委員会に出席のための旅行。

一月

約束をはたします。元氣で着きました。仕事はいづれも重大なものばかりです、印刷のこと、證券の買戻し(それはサマラの證券でした)、ソロビヨフから金を受取ること(非常に少く、千六百ルーブルです)、ナゴールヌイへの支拂(わたしは千七百ルーブル渡しました)、それから委員會の會議——すべてそれは無事に済みました。困つたことは、わたしが明日模範教授をする約束をしてしまつたことです、それは愉快に過ごしたく思つてゐたわたしの夜を台無しにするでせう。それにそんなことをしても利益があるまいと思はれます、何人をも信じさせることは出来ないでせう——餘りに愚かで頑

固だからです。わたしは腹を立てませんでした、そしてダイヤコフも他の人々もわたしの演説がよかつたと言つてゐます。それで明日の木曜日にはもう會議へ出ないでもいゝやうにして來ます。健康です。ダイヤコフ夫妻が非常に親切にしてくれます。貴女とそれから子供達を接吻します。大きい三人に小言をいはないで、褒めるやうにして行儀よくさせることを望みます。

貴女のエル・テ

八二

その同じ日

途中睡れなかつたので倦怠を覺えますが、しかし不健康ではありません。學校へ参りました、——相當にやつてゐます、印刷所へ廻つて姪達のところへ行きました。ナゴールヌイに金を渡しました。明日すつかり片を付けて、明日午後五時から八時までの間に、參觀もしたいし用事もあるのですが、若し學校へ行かないとすれば、歸りたいと思つてゐます。ソロビヨフには金はありません。昨晚スシコフ家へ参りましたが、若しサマーリンと一緒に行つて呉れるなら、彼等のところで朗讀ませう、とわたしは二人に約束しました。明朝買物をします。

今ダイヤコフが、マーシヤがきつと洗禮を施しに行くと呼んでゐます。がマーシヤは多分と言つて

1) エ・エム・ナゴールヌイ、エム・エヌ(エル・エヌの姉妹)のウエー・ウエー・トルストイの夫。  
2) 教育委員會の會議は一月十五日にあつた。詳細はピリユエコフの傳記(第二卷一三八頁以下)を参照。

ゐます。彼等は健康です、やさしくして呉れます。貴女がわたしの留守中丈夫でそしてどんな不安もエミールの病氣も貴女を苦しめないやうに祈つてゐます。

貴女を抱擁します、では火曜日まで。

エル・テ

## 八三

夏、息子のセリヨージヤを連れてサマラの曠野へ旅行をした時の手紙。

モスクワ

わたし達は無事に着きました、ベルヒーリエフ家へ着きました。わたしはソロビヨフから三百ルーブル受取つて、そして百ルーブル彼に預けて置きました。従つて彼はアレクセイに四百ルーブル渡す筈です。印刷所とはすべて具合よく話がつきました。ポーリンカがセリヨージヤを連れて動物園へアルカヂイのところへ行かうと言ひ出しました。わたしは許しました、そして自分でも一緒に出掛けました。グリーンシヤを呼びにやりましたが、来られませんでしたから、わたしは金をポーリンカに渡さなくてはなりません。セリヨージヤはよく睡らなかつたので倦怠さうにしてゐましたが、今は睡つてしまひました。レオニードが来て、手紙の邪魔をしました。尤も書くことは今のところ何もありません。セリヨージヤを起こしました。彼は熟睡して食慾も相當あります。わたしの側で一人で喰べてゐます。貴女と子供達とそれから親友達を接吻します。

貴女のエル・テ

## 八四

汽船から、息子の手紙を添へて

セリヨージヤが何もかも書いてくれました。わたし達は氣持よく進んでゐます、乗客仲間も普通の人達で不愉快ではありません。殊にいゝ事は汽船が終夜走つてゐること、土曜日の朝にはサマラへ着けるでせう。しかしそれにしても十五日より前には歸れません。多分、すこし長く莊園にゐなければならぬでせう。わたしは非常に疲れてゐましたが、しかし汽船の上でもうすつかり休息がとれました。セリヨージヤは非常に可愛いです、そしてこの旅行はわたし達を一層親密にさせるでせう。わたしは絶えず感動をもつて彼を眺めてゐます。わたしは汽船は退宿だと申しましたが、しかし今はそれを否定します、バルコンに坐つて、喜んで眺めてゐます、そして來年わたし達が皆な一緒に乗つてゆく時の事を考へてゐます。唯だ貴女のところすべてが無事であつて呉れることだけを望みます。一人の紳士がワシリススクで降ります、そして手紙を郵便局へ届けて呉れると申します。では、さよなら。セリヨージヤがゐるから哀愁に襲はれることもないでせう。つまりわたしは絶えず家にゐるやうな氣がしてゐます。

エル・テ

1) プラスコーキヤ・フョードロヅナ・ヘルヒーリエフ、「亞米利加人」エフ・イー・トルストイ伯の息女。

二月、ヤースナヤ・ポリヤーナからモスクワへ。

只今電報を受取りました。慶びに堪へません。わたしは階下へ寝ました、そしてわたしは一人で暮してゐるのだといふ氣持がどうしても起りませんでした。どうぞ、急がないで、よかつたら、もう四五日も滞在なさい、特に、物吝みをしないやうになさい。貴女が自分の爲めに金を使へば使ふほど、いいのです。子供達と教育者達は御覽のやうに無事です。わたしは午前中仕事をしました。わたしは貴女が彼等と一緒に——花婿と花嫁を、即ちドミートリイ・アレクセーキツチと嬉しさにジュウくいふソフエツ<sup>1)</sup>を眺めてゐるのを羨ましく思ひます。わたしがどんなに彼等を受してゐるか、そしてどんなに彼等の幸福を喜んでゐるかよく彼等に傳へてください。わたしは彼等の結婚式に列しないのを喜んでゐます、でなかつたらわたしは泣いてばかりゐるでせう。これから薄餅を喰べにゆきます。

四月、ヤースナヤ・ポリヤーナよりモスクワへ。

イストミン<sup>2)</sup>は三時に着きました、丁度馬に乗つて一廻りして來ようと思つてゐたところでした。彼は非常にやさしく、その上非常に澤山勝ちました。

子供達は散歩に出掛けました、しかし厚着をして行つたので凍えませんでした。家庭教師がよく注意してくれます。皆なお行儀がよろしいです。レイ<sup>3)</sup>がイストミンと将棋を差しました。イリュエーシヤはターニヤがゐないので長椅子の上で睡入つて了ひました。わたしはイストミンと二人で渡り鳥を打ちに行きました、打つことは澤山打つたのですが、一羽も取れませんでした。妖術を心得た禿鷹です。わたしは始終貴女の上を心配してゐます、この寒さに風邪をひかないで呉れるやうにと、祈つてゐます。買物も非常に大事ですが、貴女の健康の方がもつと大事であることを、どうぞ憶えておてください。すこしは遅くなつてもいいから、疲勞しないやうに願ひます。ヴラジミルから手紙が來ました。彼等はコスチエンカに百ルーブル送つたさうです。わたしは午前中手紙だけを書きました、ストラホフ(哲學的な)と、ウルソフと、それからポプリンスキイ<sup>5)</sup>へです。さよなら貴女。ターニヤがゐないので食卓がひどく淋しいです。貴女を接吻します、ターネチカ。わたしは貴女がゐないので寂しいです。

- 1) エス・エル・タイトケキツチ、デー・アー・テイヤコフの第二の夫人、先妻の息女の元の家庭教師。
- 2) ウエー・カー、後にモスクワ軍務知事の官房長になつた人。
- 3) わたし達の子供の家庭教師ミスタア・レイ。
- 4) コスチエンカとヴラザミル——イストラギン、わたしの伯父、わたしの母の兄弟。
- 5) 交通大臣であつた伯爵アレクセー・パーヴロキツチ。